

カナダ海事産業調査

2026年3月

一般社団法人 日本船用工業会
一般財団法人 日本船舶技術研究協会

はじめに

一般社団法人日本船用工業会では、我が国造船業・船用工業の振興に資するために、ポートレース事業の交付金による日本財団の助成金を受けて「造船関連海外情報収集及び海外業務協力事業を実施している。その一環として、ジェトロ関係海外事務所を拠点として海外の海事関係情報収集を実施し、収集した情報の有効活用を図るため各種報告書を作成している。

本報告書は、カナダの海事産業の現状について取りまとめたものである。

カナダは広大な国土と太平洋・大西洋に面した海岸線を有しており、海運は国内外の物流の要となっている。特に、同国ブリティッシュコロンビア州に位置するバンクーバー港は、カナダと日本、中国、韓国などのアジア諸国、および米国を結ぶ重要な貿易拠点となっていることから貨物取扱量においてカナダで最大であり、北米でも有数の規模を誇る。また、世界有数の船主が同国に拠点をもち、造船所や修繕所も所在する。

最近になり我が国船用業界より同国への関心や情報提供ニーズが聞かれたものの、長らく同国の海事産業を対象とした調査や事業は我が国船用業界では行われていなかったことから、十分な情報を有していない状況である。

このため、カナダ拠点の船主情報（企業情報、保有船舶、発注動向）並びに造船所情報（企業情報、建造実績、受注動向）に加え、海事政策や関連機関などの概要を調査し、カナダ海事産業の概要、関係者情報並びに我が国海事関係者にとっての市場期待値を考察する。

将来的にカナダと我が国の海事関係者との間で、更なる発展的な協力関係が構築されることを期待しつつ、本報告を取りまとめた。皆様の事業のお役に立つことができれば幸いである。

なお、本報告書の情報は、特に注記の無い限り、2025年8月現在のものである。

ジェトロ・ヒューストン事務所
(一般社団法人 日本船用工業会 共同事務所)
ディレクター (海洋・海事担当) 深石 晃

目次

図表

1. 概要	1
1.1 カナダ海事産業の概要	1
1.2 政府の方針	1
1.3 船主	2
1.4 造船所と修理業者	2
1.5 業界団体	2
1.6 調査方法	3
2. カナダ海事関連産業	4
2.1 カナダの紹介	4
2.2 カナダの海事ネットワーク	5
2.2.1 セントローレンス水路システム	5
2.2.2 北西航路	7
2.3 米国・メキシコ・カナダ協定と関税	8
2.4 海洋経済	8
2.5 カナダ船舶登記簿	10
2.6 国家造船戦略(NSS)	13
2.6.1 大型船舶（排水量1,000トン超）の建造	14
2.6.2 小型船舶（排水量1,000トン未満）の建造	16
2.6.3 NSSに基づいて締結された船舶の修理、改修、および保守契約	18
2.7 カナダ運輸省	20
2.7.1 カナダ港湾局	20
2.7.2 公共港湾	21
2.7.3 非連邦港湾	22
2.8 フェリー	22
2.8.1 カナダ運輸省フェリープログラム - カナダ大西洋岸およびケベック州東部	22
2.8.2 カナダ運輸省フェリー代替プログラム	23
2.8.3 マリン・アトランティック・インコーポレイテッド	23
2.8.4 オンタリオ湖における運航	23
2.9 砕氷船と北極圏	23
2.10 漁業	24
2.11 カナダ沖合での石油・ガス	25
2.12 液化天然ガス	26
2.13 洋上風力発電	28
2.13.1 ニューファンドランド・ラブラドール州	28
2.13.2 ノバスコシア州	28
2.14 エネルギー転換	28
2.15 沿岸貿易	31
2.16 先住民とコミュニティ	31
3. カナダの船主	32
3.1 アルゴマ	32
3.2 BCフェリー	37
3.3 カナディアン・フォレスト・ナビゲーション・グループ(CANFORNAV)	39
3.4 カンパック・マリン・サービス	41
3.5 カナダ・スチームシップ・ライン	42
3.6 トロント市（フェリー）	43

3.7	クリアウォーター・シーフード	44
3.8	クリッパー・ナビゲーション (フェリー)	44
3.8.1	FRSクリッパー	44
3.9	コースト・マウンテン・バス・カンパニー (CMBC)	45
3.9.1	トランスリンク	45
3.10	コースタル・トランスポート	45
3.10.1	コースタル・トランスポート・リミテッド	45
3.11	DOFサブシーカナダ	45
3.12	フェドナブ	45
3.13	フロンテナック・ハウ・アイランダー・フェリー	50
3.14	ブリティッシュコロンビア州政府	50
3.15	ニューブランズウィック州政府	50
3.16	ノースウェスト準州政府	50
3.17	ノバスコシア州政府	50
3.18	オンタリオ州政府	50
3.19	マニトバ州政府	51
3.20	サスカチュワン州政府	51
3.21	グリーンライン・マリン	51
3.22	ハリファックス・トランジット	51
3.23	ホライゾン・マリタイム・サービス株式会社	51
3.24	ホーンブローワー・ナイアガラ・クルーズ	52
3.25	ハロー	52
3.26	J.Dアーヴィンググループ企業	52
3.26.1	アトランティック・トーイング	52
3.26.2	ハーバー・デベロップメント	53
3.27	コタグ・カナダ	54
3.28	ローワーレイクス・トーイング	54
3.29	リーウェイ・マリン	55
3.30	マリン・トランスポート・サービス	55
3.31	マッキー・マリン	56
3.32	マージー・シーフード	58
3.33	オーシャン	58
3.34	オーシャネックス	60
3.35	RJGコンストラクション	60
3.36	シースパン・マリン	60
3.36.1	タグボートとバージ	60
3.36.2	ハイシー・マリン	62
3.36.3	シースパン・エナジー	62
3.36.4	マリン・ペトロバルク	62
3.36.5	シースパン・フェリー	62
3.37	シー・ワン・オフショア	63
3.38	ケベックフェリー会社 (SOCIÉTÉ DES TRAVERSIERS DU QUÉBEC (STQ))	63
3.39	カナダ運輸省	64
3.39.1	フェリーサービス貢献プログラム	64
3.39.2	カナダ運輸省フェリー交換プログラム	64
3.39.3	CTMAフェリー株式会社	64
3.39.4	ノーサンバーランド・ベイフェリー	64
3.39.5	マリン・アトランティック・インコーポレイテッド	65
3.39.6	オンタリオ湖の事業	65
3.40	トランスポート・デガニエ株式会社	65
3.41	トラバース・オカ・ハドソン	67
3.42	ブルボネフェリー	67

3.43	ウッドワード・グループ・オブ・カンパニーズ	67
3.43.1	コースタル・シッピング・リミテッド	67
3.43.2	ラブラドール・マリン	67
4.	カナダの造船所と船舶修理業者	69
4.1	ブリティッシュコロンビア州	69
4.1.1	ABDエンタープライズ	69
4.1.2	アライド造船所	70
4.1.3	インターコン・マリン	72
4.1.4	ジェンキンス・マリン	72
4.1.5	リキッドメタル・マリン・ファブリケーターズ	72
4.1.6	ポイント・ホープ・マリタイム・リミテッド	73
4.1.7	シーSPAN	73
4.1.7.1	バンクーバー造船所	73
4.1.7.2	シルバーストリークボート	77
4.1.7.3	ゾディアックミルプロ	77
4.2	ニューブランズウィック州	77
4.3	ニューファンドランド・ラブラドール州	78
4.3.1	DFバーンズ	78
4.3.2	グローバータウン造船所	78
4.3.3	ハーバー・グレース・オーシャン・エンタープライズ(HGOE)	78
4.3.4	キーウィット・オフショア・サービス	79
4.3.5	ニュードック・セントジョンズ・ドックヤード	79
4.4	ノースウエスト準州	80
4.5	ノバスコシア州	80
4.5.1	ABCOインダストリーズ	80
4.5.2	A.F. テリオール・アンド・サン	81
4.5.3	アトキンソン・アンド・ハリス	82
4.5.4	カナディアン・マリタイム・エンジニアリング	82
4.5.5	アーヴィング造船所	83
4.5.6	リュウネブルク造船所	84
4.5.7	オーシャンギア株式会社	84
4.5.8	ロズボローボート	85
4.5.9	サムソン・エンタープライズ	85
4.5.10	シェルバーン・シップ・リペア	85
4.6	オンタリオ州	85
4.6.1	アライド・マリン・アンド・インダストリアル	85
4.6.2	オンタリオ造船所	86
4.6.3	ヘンリーボート・マニュファクチャリング	87
4.6.4	ハイクメタル・プロダクツ株式会社	87
4.6.5	カンターマリン株式会社	88
4.6.6	メタルクラフト・マリン株式会社	89
4.7	プリンスエドワード島	90
4.7.1	イーストアイル造船所	90
4.8	ケベック州	90
4.8.1	シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所	90
4.8.2	デイビー造船所カナダ株式会社 (シャンティエ・デイビー・カナダ)	91
4.8.3	グループ・オーシャン	93
4.8.4	メリディアン・マリタイム・カナダ	94
4.8.5	株式会社ナバマー	95

5. 業界団体.....	96
5.1 カナダ海洋産業造船協会(CMISA).....	96
5.2 カナダ旅客船協会.....	96
5.3 ブリティッシュコロンビア州海洋産業協会(ABCMI).....	96
5.4 カナダ海運連盟.....	97
5.5 海洋商工会議所.....	97
5.6 セントローレンス経済開発評議会(SODES).....	97
5.7 カナダ船主協会.....	97
5.8 カナダ国際船主同盟(ISAC).....	98
6. 砕氷船建造をめぐる動向.....	99
6.1 カナダにおける砕氷船建造事情.....	99
6.2 造船所の砕氷船建造能力拡大に向けた動き.....	99
6.2.1 シースパン造船所.....	99
6.2.2 デイビー造船.....	100
6.3 他国との砕氷船建造に向けた協力枠組み.....	102
6.4 米国沿岸警備隊向けに極地砕氷船を建造する可能性.....	102
7. 参考文献.....	103

図表

図表 1	カナダの州と準州	4
図表 2	カナダの州および準州別の人口（2021年国勢調査結果）	5
図表 3	セントローレンス水路の年間通航量実績	6
図表 4	セントローレンス水路の年間貨物シェア	6
図表 5	五大湖・セントローレンス水路の実績	7
図表 6	カナダと米国のデータの比較	7
図表 7	民間海洋産業の国内総生産（2023年）	9
図表 8	公共部門の海洋産業の国内総生産（2023年）	9
図表 9	造船およびボート建造の国内総生産（2023年）	10
図表 10	カナダで建造・登録された総トン数500トンを超える船舶	10
図表 11	カナダで建造・登録された総トン数500総トンを超える船舶	11
図表 12	総トン数500トンを超えるカナダ登録船舶の引き渡し	11
図表 13	総トン数500トンを超える改造されたカナダ登録船舶	12
図表 14	総トン数500トンを超えるカナダ建造・登録船舶の引き渡し	12
図表 15	登録港別の総トン数500トンを超えるカナダ登録船舶	13
図表 16	NSSプロジェクトの概要	14
図表 17	NSSの大型造船プロジェクト	15
図表 18	NSSの小型造船プロジェクト	16
図表 19	NSSの修理・改修プロジェクト	18
図表 20	NSS船舶の耐用年数延長プロジェクト	19
図表 21	NSS船改造プロジェクト	20
図表 22	カナダ港湾局（州別）	21
図表 23	公共港湾（州別）	21
図表 24	フェリーの航路	22
図表 25	カナダ運輸省のフェリーサービス助成プログラム	23
図表 26	カナダ沿岸警備隊の砕氷船隊	24
図表 27	カナダの漁業	25
図表 28	カナダで登録された商業漁船	25
図表 29	カナダ太平洋地域における船種別の船舶寄港回数	27
図表 30	ニューファンドランド・ラブラドル州の予備的な洋上風力発電の許可区域	28
図表 31	2024年グリーン海運回廊プログラム－クリーン船舶実証プロジェクト	29
図表 32	総トン数500トンを超えるカナダ登録船隊の所有者	32
図表 33	アルゴマ船隊	33
図表 34	アルゴマのカナダ登録船舶	35
図表 35	アルゴマのグリーン海運回廊プログラム－クリーン船舶実証プロジェクト	36
図表 36	BCフェリーのカナダ登録船舶	37
図表 37	Canfornavの船舶	39
図表 38	カンパックのカナダ登録船舶	41
図表 39	CSLの船舶 ^{xxxxiii}	42
図表 40	所有者別CSL船舶	42
図表 41	2024年CSLカナダ登録レイカーズ（建造国別）	43
図表 42	CSマンパー 総トン数500トンを超えるカナダ登録漁船	44
図表 43	フェドナブの船隊	46
図表 44	フェドナブのGHG削減プログラム	49
図表 45	マニトバ州のフェリー船隊	51

図表 46	アトランティック・トーイングのカナダ登録オフショア船舶	53
図表 47	ローワーレイクス・トーイングの船隊	54
図表 48	マッキー・マリンの船隊	56
図表 49	グループ・オーシャンのカナダ登録船隊	59
図表 50	グループ・オーシャンの総登録トン数500トンを超えるカナダ登録船隊	59
図表 51	オーシャネックスの総登録トン数500トンを超えるカナダ登録船隊	60
図表 52	シースパンのカナダ登録タグボート	61
図表 53	STQ所有のフェリー船隊	63
図表 54	カナダ運輸省のフェリーサービス貢献プログラム	64
図表 55	トランスポート・デガニエの船隊	66
図表 56	トランスポート・デガニエの船舶（建造国別）	66
図表 57	コースタル・ SHIPPING・リミテッドの船隊	67
図表 58	ABDエンタープライズのカナダ登録船舶	69
図表 59	ABDエンタープライズの実績	70
図表 60	アライド造船所の実績(カナダ登録船舶)	71
図表 61	アライド造船所のNSS修理・改修プロジェクト	71
図表 62	バンクーバー造船所の実績(カナダ登録船)	74
図表 63	シースパンのNSS大型造船プロジェクト	75
図表 64	シースパンのNSS修理/改修および耐用年数延長プロジェクト	76
図表 65	ニュードックNSSの修理、改装、耐用年数延長プロジェクト	80
図表 66	グループ・テリオールのカナダ登録船隊	81
図表 67	CMEのNSS造船・修理・改修プロジェクト	82
図表 68	アーヴィング・ハリファックスの大型NSS造船プロジェクト	84
図表 69	オンタリオ造船所のNSS船舶耐用年数延長プロジェクト	87
図表 70	ハイクメタル・プロダクツのカナダ登録船隊	88
図表 71	カンターマリンのカナダ登録船隊	89
図表 72	カンターマリンのNSS小型造船プロジェクト	89
図表 73	メタルクラフトのカナダ登録船隊	90
図表 74	シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所のカナダ登録船隊	91
図表 75	シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所のNSS小型造船プロジェクト	91
図表 76	デイビー造船所のNSS大型造船プロジェクト	92
図表 77	デイビー造船所のカナダ登録船隊	93
図表 78	グループ・オーシャン・カナダ登録船団	94
図表 79	メリディアン・マリタイム・カナダ登録船隊	95
図表 80	カナダ沿岸警備隊の大型極地砕氷船	100
図表 81	アメリカン・アイスブレイカー・ファクトリー	101

1. 概要

1.1 カナダ海事産業の概要

カナダの主な航路は、セントローレンス水路（コンテナ船、RORO船、ドライ貨物船、液体貨物船が航行。航行可能最大船舶サイズは全長222.5メートル、全幅23.77メートル、喫水8.08メートル）、北極海、太平洋（コンテナ船、ドライバルク・ウェットバルクの輸入、増加するLNG輸出、クルーズ船が航行応）、そして東海岸（輸出入船、コンテナ船、国内の石油・ガス事業、そして成長が見込まれる洋上風力発電部門）で構成される。

カナダは面積で世界第2位の国である（9,984,670平方キロメートル：陸地9,093,507平方キロメートルと水域891,163平方キロメートル）。人口は約4,000万人で、人口密度は低く、分散している。さらに、カナダの約52,500の島のうち260の島に人が居住している。36,563の島からなるカナダ北極諸島は、世界最長の海岸線（202,080キロメートル）を誇る。広大な国土、分散した人口、そして多くの河川や水域により、活発な国内フェリー・貨物輸送ネットワークが形成されており、その一部は北極圏での運航となる。

カナダの船舶登記簿には、39,000隻強の登録船舶が含まれている。プレジャーボートとバージを除くと、登録船隊は約18,400隻となり、そのうち約80%が漁船である。登録総トン数500トン以上の船舶に焦点を当てると、カナダの登録船舶数は約410隻に減少する。この区分で最も大きな割合を占めるのは貨物船とOSV/作業船で、それぞれ登録船隊の24%を占め、次いでフェリーがカナダの登録船舶の18%を占めている。これら410隻のうち、約190隻はカナダで建造された。

1.2 政府の方針

カナダの造船所および船用機械産業の基盤となっているのは、2010年に開始された国家造船戦略（NSS）である。これは、カナダの海事産業を支援し、海軍、沿岸警備隊、政府機関船舶の国内建造を促進することを目的としている。これまでに55件のプロジェクトが計画されており、その中には、シースパン・バンクーバー、アーヴィング・ハリファックス、ケベック州のデイビー造船所との大型船（排水量1,000トン以上）23隻の建造が含まれている。さらに5件の小型船プロジェクトが計画されており、これらのうち48隻はカナダの造船所（CME、ハイクメタル・プロダクツ、カンターマリン、シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所、オーシャン・インダストリーズ）とのプロジェクトである。さらに、14の造船所で、20件の船齢延長、修理・改修、改造プロジェクトが計画されている。

カナダ政府はまた、ハリファックス級フリゲート艦（最初の契約はブリティッシュコロンビア州のシースパン・ビクトリア造船所、ノバスコシア州のアーヴィング造船所、ケベック州のデイビー造船所に発注され、各造船所には最低3隻のフリゲート艦が保証されている）、ビクトリア級潜水艦4隻（バブコック・カナダが契約をし、シースパンが運営する連邦政府所有のエスキモルト・グレイビング・ドックで建造が行われている）、小型軍艦および補助艦船（MWAV）の運用中サポート契約（タレス・カナダがキングストン級、オルカ級、補助艦艇（タグボート、潜水母艦、魚雷運搬船、小型ボート）を含む様々な艦級の約100隻を対象とした5年間の契約を締結）、北極海・沖合警備巡視船（AOPS）および統合補給艦の運用中サポート契約など、納入後20年以上に及ぶ長期サポート契約も締結している（タレス・カナダとの契約は、6隻のAOPSと2隻の統合支援艦の改修、修理、保守、訓練をカバーしている）。

デイビー造船所は、カナダが米国およびフィンランドとの砕氷船協力協定（ICE Pact）に参加していることに特に関心を持っている。ICE Pactは、経済および安全保障（中国とロシアに対抗）における利益を一致させるという意向表明であり、3カ国で新たな「クラス最高」の砕氷能力を設計、建造、維持するという共同の意思を表明するものであり、造船所、エンジニアリング、機器サプライヤーの能力を開発する必要性を強調している。この取り組みは、デイビーのヘルシンキ造船所への投資と、最近のガルフ・カ

ッパー・テキサス造船所の買収の基盤となっている。

カナダの国土の広さと人口が比較的少ないことを考えると、地方のフェリーサービスは交通インフラの重要な構成要素である。連邦政府のカナダ運輸省と州政府は、国内180以上の航路でフェリーの支援、所有、運航を行う上で重要な役割を果たしている。現在、この部門の焦点は、老朽化した船舶を最新の低排出ガスまたはゼロエミッションのフェリーに置き換えるか、アップグレードすることにある。

商業漁業はカナダの海事経済において重要な役割を果たしており、登録漁船約16,500隻を支えている。政府は様々な取り組みを通じてこの分野を支援している。

海洋エネルギーに関し、海洋石油・ガス開発はニューファンドランド・ラブラドル州沖に集中している。今後5～10年の間に新たなLNG輸出ターミナルが次々と建設され、太平洋岸のブリティッシュコロンビア州からのLNG輸出は増加する見込みである。また、ニューファンドランド・ラブラドル州とノバスコシア州では洋上風力発電が計画されている。

カナダは、2021年に成立したカナダ実質ゼロ排出説明責任法を通じて、温室効果ガス（GHG）の排出ゼロまたはオフセットによって2050年までにネットゼロエミッションを達成するという国家目標を法的に定めている。海運分野では、運輸大臣が2023年後半に1億6,540万カナダドルのグリーン海運回廊構想を発表し、8社による14件の実証プロジェクトに資金が交付された。この計画のハイレベルな目標は、五大湖とセントローレンス水路沿いの主要海運地域、およびカナダ東海岸と西海岸の脱炭素化である。州レベルでは、ブリティッシュコロンビア州、ノバスコシア州、オンタリオ州、ケベック州が、連邦政府全体の計画を支援するための具体的な枠組みを策定した。

1.3 船主

カナダ船舶登記簿には現在、500総トン以上の船舶が約410隻登録されている。最大の船舶所有者は、カナダ水産海洋省やカナダ運輸省などの連邦政府となっている。州政府や地方自治体も、貨物船、フェリー、旅客船、OSV/作業船などの船舶に投資している。大手民間船主としては、アルゴマ、JDアービング、CSL、シーспанなどが挙げられる。

複数の船主は、船隊の大部分を国際航行しており、船隊の中にはカナダ船籍を有していないものも含まれている。カナダ船籍は主にカナダ国内で運航する船舶となっており、国際航行する船舶の多くを必ずしもカバーしているわけではない。

1.4 造船所と修理業者

カナダには35以上の造船所と修繕工場が稼働しており、ブリティッシュコロンビア州、ノバスコシア州、オンタリオ州、ケベック州に特に集中している。NSSプログラムに見られるように、最大の造船所3社は、デイビー、アーヴィング、シーспанが所有している。小規模な造船所の多くは、漁船や作業船、小型フェリー、沿岸警備隊、政府機関の船舶をサポートしている。

1.5 業界団体

カナダ海事産業造船協会（CMISA）、カナダフェリー協会、ブリティッシュコロンビア海事産業協会（ABCMI）など、政府は14の海事業界団体を認定している。

1.6 調査方法

本報告書は、マリタイム・アクティビティ・レポートおよび同社独自のデータベースとデータライブラリからの情報のほか、以下の様々なデータソースによって補足されている。

- カナダ政府
- カナダ運輸省とカナダ船舶登録局
- 州政府
- 船舶の所有、運航、管理会社
- 造船所および船舶修繕ヤード
- 海事関連業界団体

2. カナダ海事関連産業

本章では、カナダの海事ネットワーク、登録船隊、そして国家造船戦略、港湾、内陸水路フェリー、漁業、砕氷船、石油・ガス生産、洋上風力開発、エネルギー転換など、海事関連について支援する政府の取り組みを概観し、カナダの船主と造船業者を調査するための背景を提示する。

2.1 カナダの紹介

カナダは13の州と準州で構成されている。

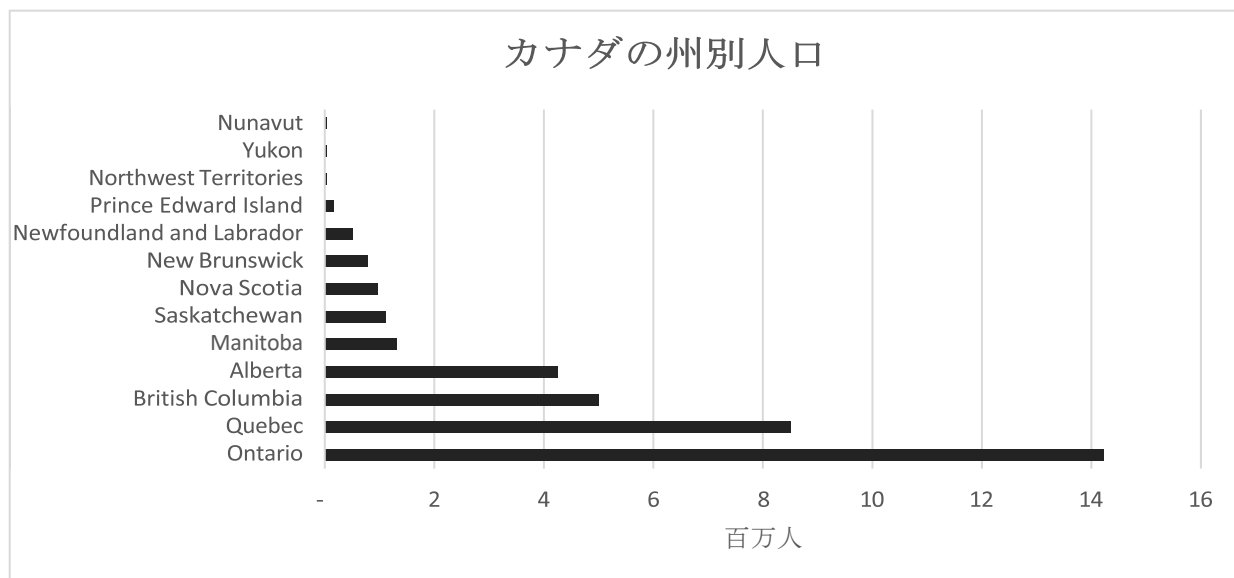
図表 1 カナダの州と準州



出典: カナダ政府

2021年の国勢調査によると、カナダの人口は3,995万人で、そのうちオンタリオ州が最大の州で、人口の約38%を占めている。

図表2 カナダの州および準州別の人口（2021年国勢調査結果）



出典:カナダ政府

カナダは世界で5番目に大きな国である。人口が比較的少ないため、人口密度は約25万平方キロメートルあたり1人という低く分散した状態にある。さらに、カナダには約5万2500の島があり、そのうち260の島に人が住んでいる。国土が広く、人口が分散していることに加え、多数の河川や水域を横断する必要があることから、重要な国内フェリー・貨物輸送網が形成されており、その一部は北極圏の環境下でも運航可能である。

2.2 カナダの海事ネットワーク

カナダの海事ネットワークは、セントローレンス水路、北極海、太平洋および東海岸における活動によって支えられている。ケベック州とオタワを通過する五大湖とセントローレンス水路システムは、主要な国内海上輸送の基盤となっている。

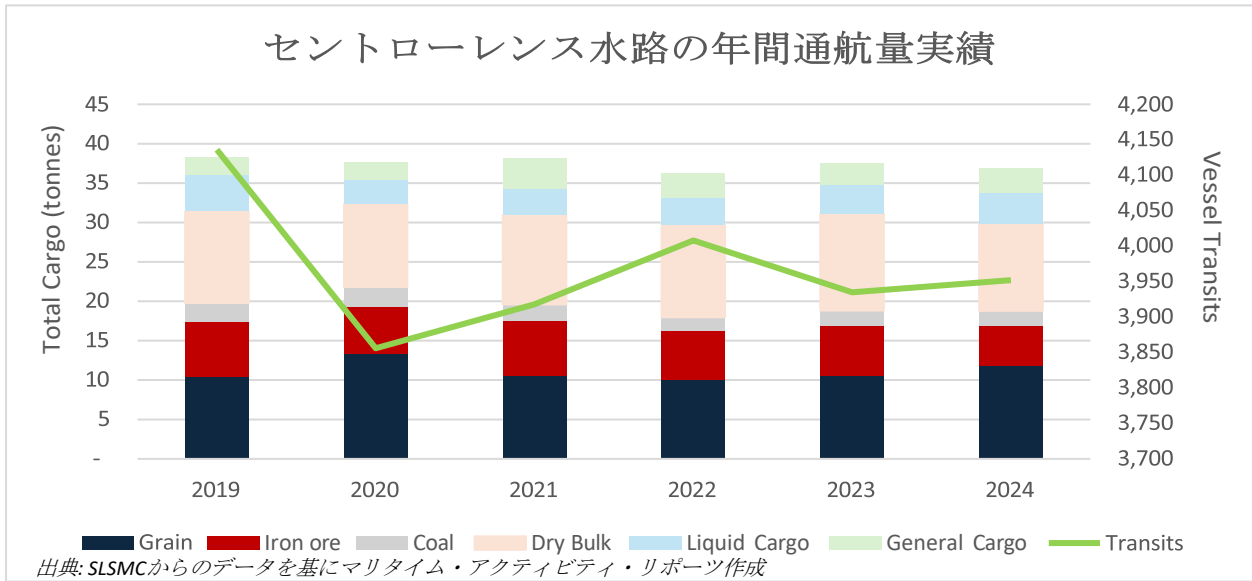
2.2.1 セントローレンス水路システム

カナダと米国の共同事業として建設され、1959年に深喫水船舶の航行に開放された五大湖・セントローレンス水路は、全長222.5メートル、幅23.77メートル、喫水8.08メートル、水面上高さ35.5メートルⁱの船舶が、大西洋から約3,700キロメートル離れた米国スペリオール湖畔のミネソタ州ダルスまでを航行することを可能にしている。セントローレンス水路管理公社（SLSMC）によると、大西洋からダルスまでの航行時間は、平均10.4ノットで約8.5日かかる。

このシステムの管理は、カナダのSLSMCと米国の五大湖セントローレンス水路開発公社（GLS）の2つの機関によって共同で行われている。

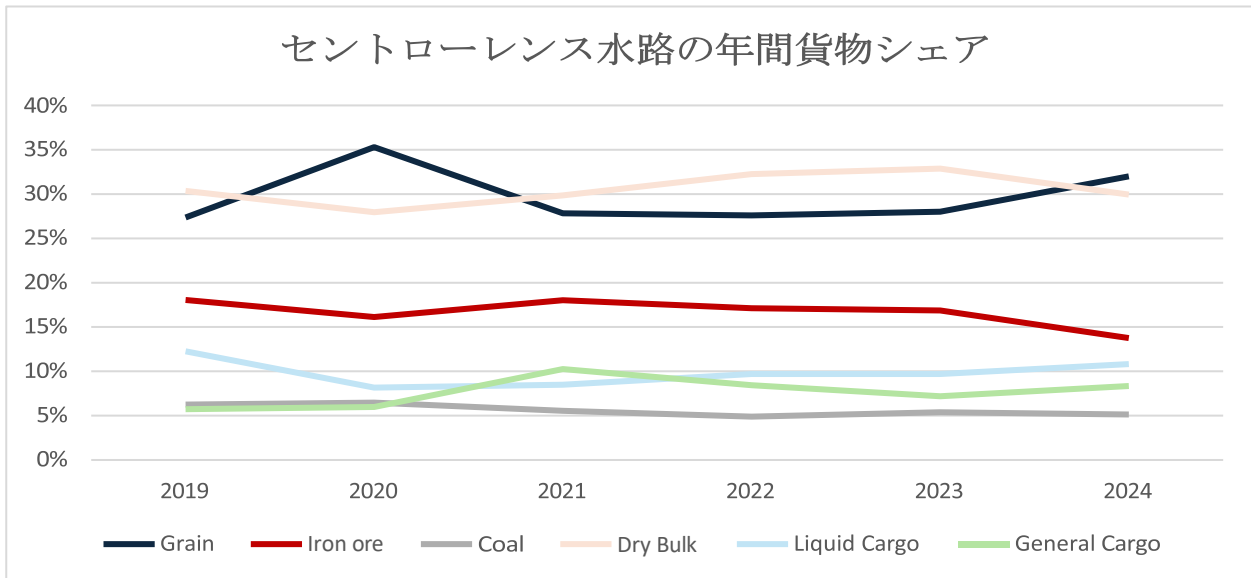
SLSMCによると、2019年から2024年までのセントローレンス水路の年間貨物量は約3,750万トンで、船舶の通過数は約4,000隻の船舶が通過したⁱⁱ。

図表3 セントローレンス水路の年間通航量実績



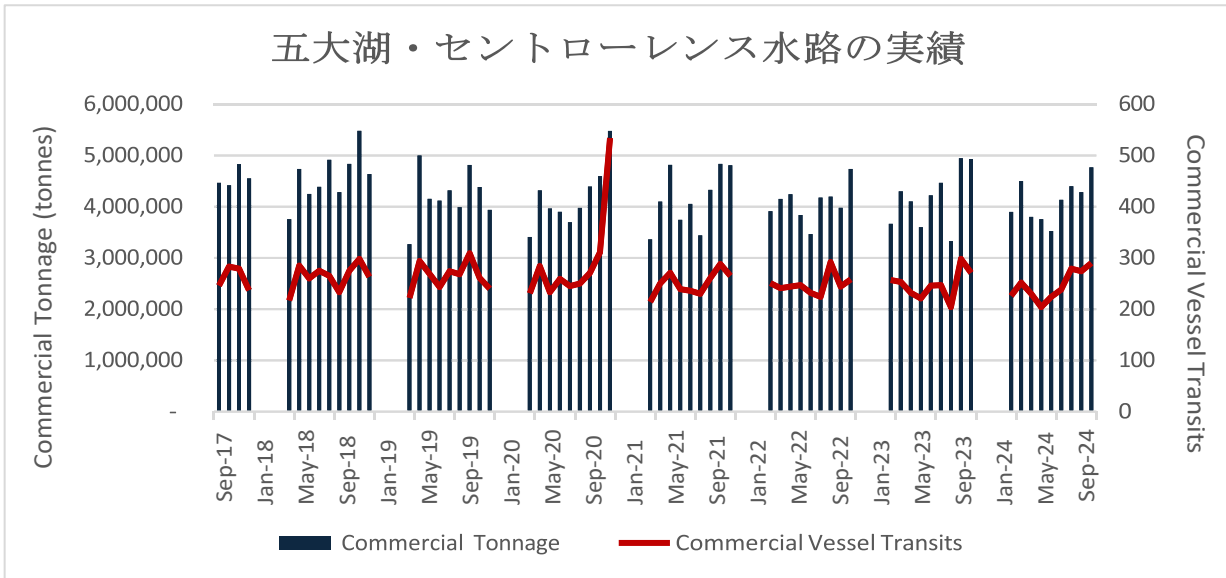
ドライバルク貨物と穀物の輸送量は、水路システム全体の貨物量の60%強を占めている。また、海事商工会議所によると、ドライバルク貨物と一般貨物には、アルミニウムや鉄鋼製品、石灰石やセメント、肥料、砂糖、塩、コンテナ、各種機械設備などが含まれるⁱⁱⁱ。

図表4 セントローレンス水路の年間貨物シェア



米国運輸省が五大湖・セントローレンス水路システムの月間実績の統計を報告しており、セントローレンスは毎年1月から3月にかけて通常閉鎖され、水路の開閉日は特定の気象条件に基づいて毎年異なることがわかる^{iv}。

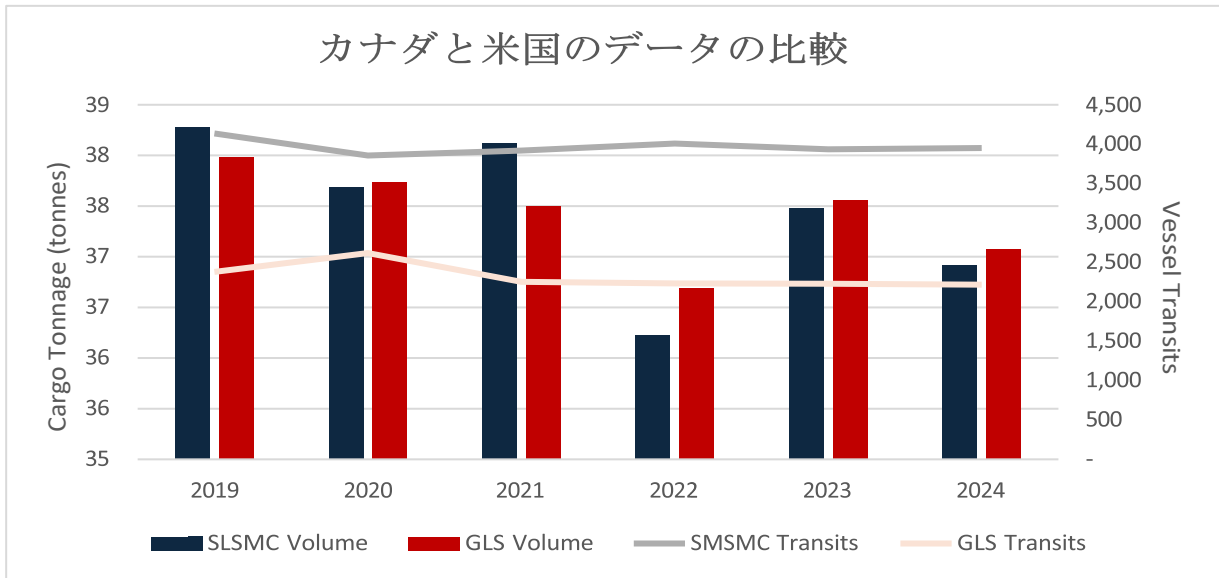
図表5 五大湖・セントローレンス水路の実績



出典: 米国運輸省・運輸統計局からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・レポート作成

カナダと米国の機関が作成した年次データを比較すると、貨物量に比較的小さな差が見られる。これは、システム全体を通過しない船舶に関連していると考えられる。しかし、通航船舶数には大きな差があり、おそらく小型船舶が関係していると考えられる。

図表6 カナダと米国のデータの比較



出典: SLSMCおよび米国運輸省・運輸統計局からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・レポート作成

2.2.2 北西航路

厳しい天候と非常に予測不可能な北極圏は、航行に多くの課題と危険をもたらす。

従来は海氷で閉ざされていた地域を通航する主要な水路で、欧州と米国北西部およびロシア北東部間の輸送距離を短縮できる可能性のあるものは3つある。北西航路（カナダ沿岸に近い）、北極海航路（ロシアによると、2024年に記録的な約3,800万トンの貨物を輸送し、92回の通航がある）、および極地横断航路（ロシアとバルト三国の沿岸に近いが、北極海航路ほど利用されていない）である^v。

北西航路は、カナダ北極諸島を通航し、大西洋と太平洋を結ぶ海路である。年間の大部分は氷で覆われることが多いが、近年の海氷の融解により、安全な航路として利用できる可能性が開かれた。

この航路の主権は政治的緊張の原因となっている。カナダは、この航路は自国の領海の一部であると主張している。一方、米国を含む他の国々は、この航路は国際海域であると主張している。既存の条約では、米国の砕氷船はカナダの許可を得ることを条件にこの航路で航行することができる。しかし、海氷が融解するにつれて、砕氷船以外の船舶が航行できる海域が拡大する。

アーケル・アーティク^{vi}によると、この航路の完全航行を達成した初の商用貨物船は2013年のノルディックオリオン号だった。2023年は24隻が航路を完全航行し、記録的な年となった。2024年には18隻の商船が完全航行した。2024年の航行のうち11航海は西行き（クルーズ船6隻、貨物船5隻）、7航海は東行き（クルーズ船2隻、貨物船4隻、タンカー1隻）だった。このデータには、航路の一部のみを航行した貨物船は含まれていない。

2.3 米国・メキシコ・カナダ協定と関税

2018年に署名され、2019年に更新された米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）は、既存の北米自由貿易協定（NAFTA）に取って代わった。

USMCAは、いくつかの例外を除き、カナダ、米国、メキシコ間のほぼすべての関税と税金を撤廃したNAFTAの関税なし市場アクセスの維持を目指した。

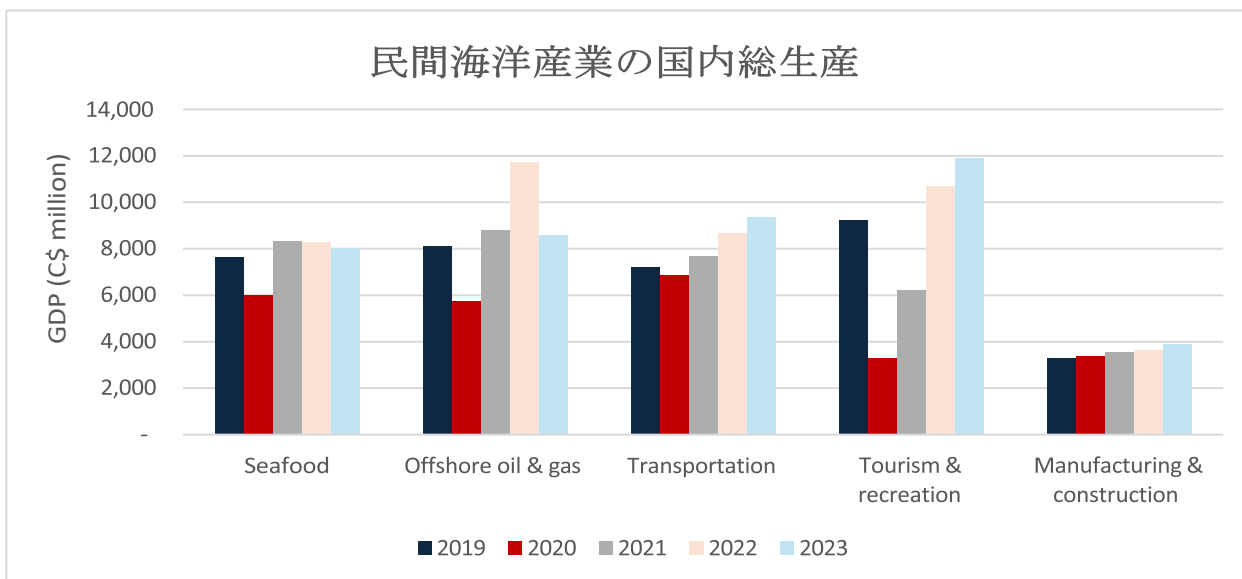
2025年1月のトランプ大統領就任以来、カナダ経由で米国に流入する違法薬物問題と貿易不均衡に対処するために関税が必要であるというトランプ政権の方針を受け、特に鉄鋼、アルミニウム、自動車部門を中心に、カナダ製品に対する様々な関税が発動され、また撤回されてきた。一部の関税猶予措置にもかかわらず、米国の立場とそれに対するカナダの反応は、両国間の貿易関係に変化が生じる可能性を示唆している。一部のコメンテーターは、2026年にUSMCAが改正されると予想している^{vii}。

2025年5月末、米国連邦国際貿易裁判所は、米国大統領にはほぼ全ての国に関税を課するためのメカニズムを利用する単独の権限はないとの判決を下した。同時に、裁判所は、米国への違法薬物輸入削減を目的としてカナダ、メキシコ、中国に個別に関税を課したトランプ政権の措置を不当とする判決を下した。その後、連邦控訴裁判所は控訴審を審理する間、関税の復活を一時停止した。状況は依然として流動的である。

2.4 海洋経済

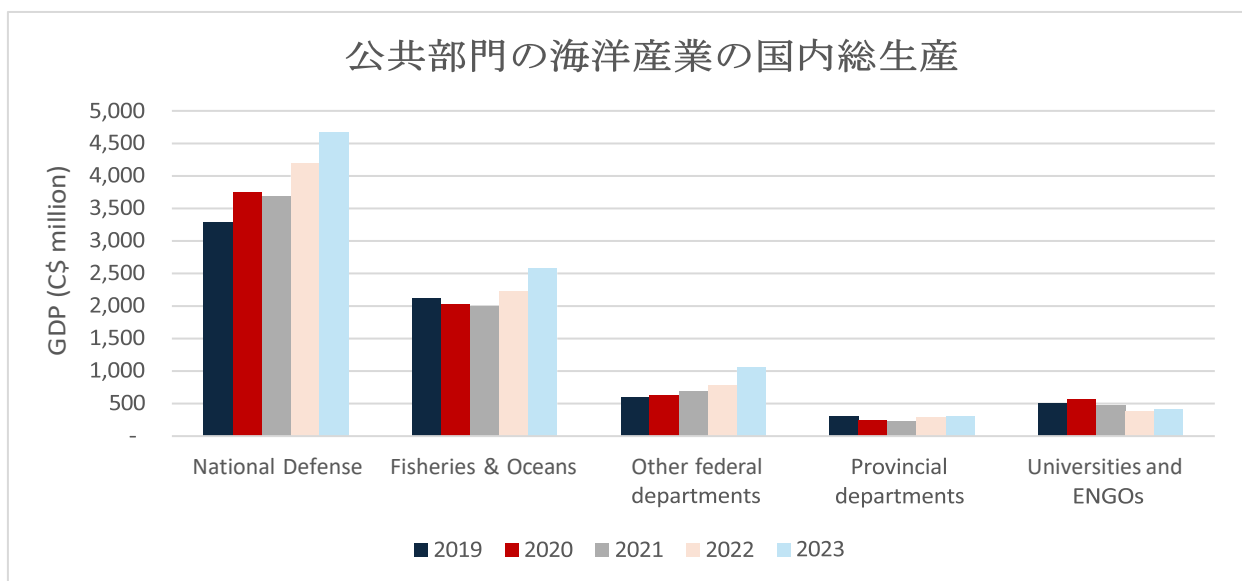
2024年に発表された政府データによると、カナダの海洋経済は2019年の約423億カナダドルから、2023年には約508億カナダドルに成長した。年によって異なるが、海洋GDPのうち民間部門で生み出された割合は78～85%だった。以下のグラフは、海洋経済の主要要素を示している。

図表 7 民間海洋産業の国内総生産（2023年）



出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

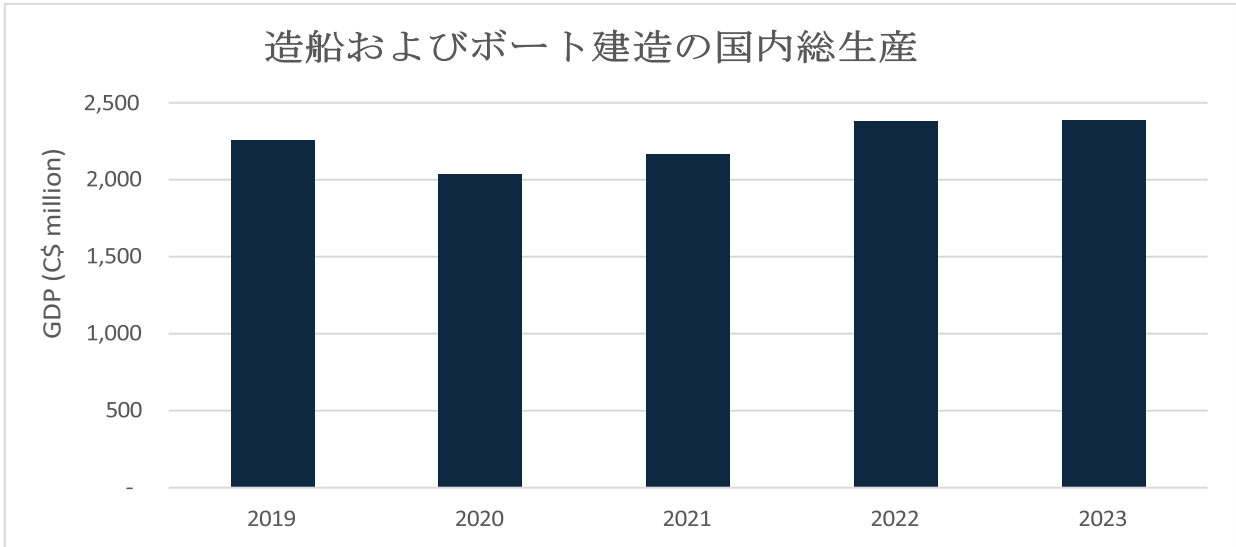
図表 8 公共部門の海洋産業の国内総生産（2023年）



出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

造船およびボートの建造（民間部門）は、2019年から2023年にかけて年間約20億～24億カナダドルを生み出した。

図表 9 造船およびボート建造の国内総生産（2023年）

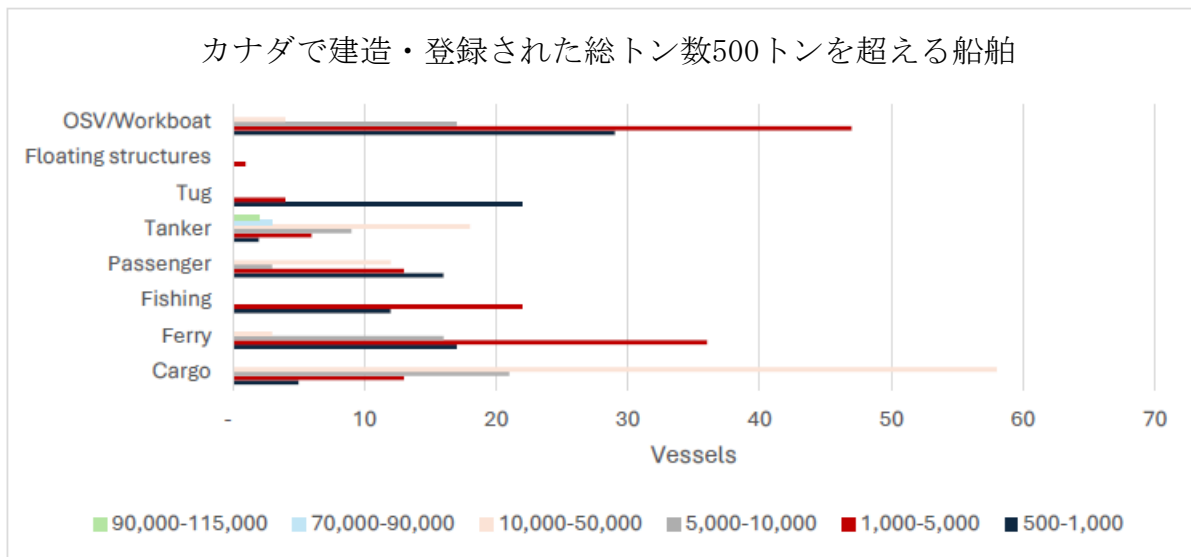


出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

2.5 カナダ船舶登記簿

カナダの船舶登記簿^{viii}には、39,000 隻強の登録船舶が含まれている。プレジャーボートとバージを分析から除外すると、登録船隊は約18,400隻となり、そのうち80%近くが漁船である。登録総トン数500トン以上の船舶に焦点を当てると、カナダの登録船舶数は約410隻に減少する。この分野で最も大きな割合を占めるのは貨物船とOSV/作業船で、それぞれ登録船舶数の24%を占め、次いでフェリーがカナダ登録船舶の18%を占めている。

図表 10 カナダで建造・登録された総トン数500トンを超える船舶

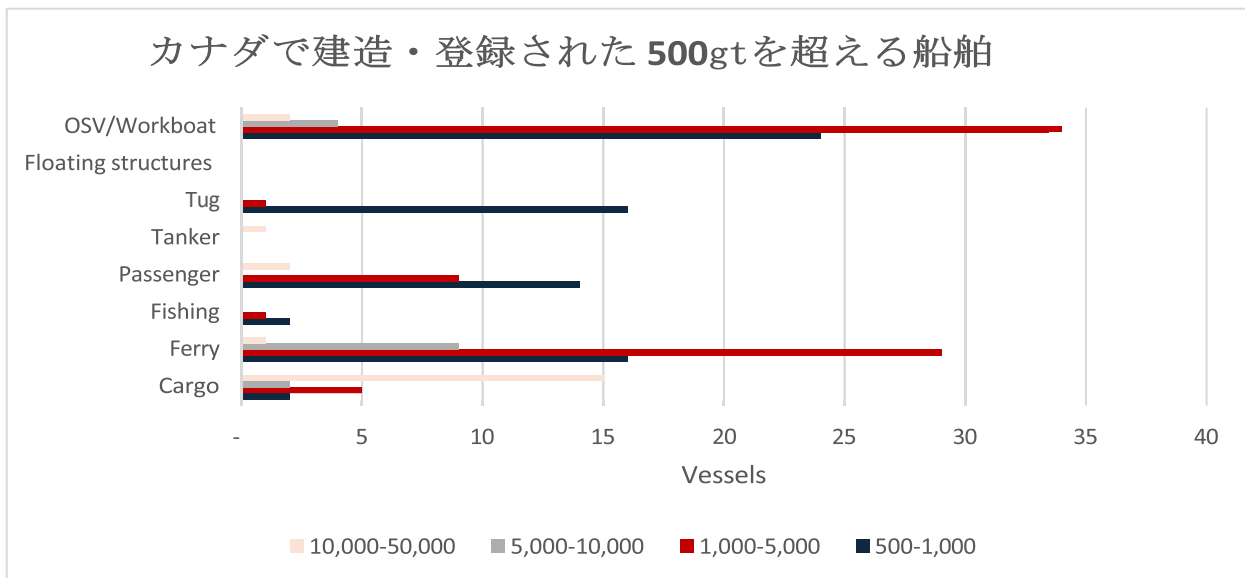


出典:カナダ船舶登記簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

これらの410隻のうち、約190隻はカナダで建造された。カナダで建造・登録された500トンを超える船舶

の大部分は、OSV/作業船（34%）とフェリー（29%）で構成されている。登録漁船全体の82%はカナダで建造されているのに対し、総トン数500トン以上の船舶に限るとわずか2%に過ぎない。

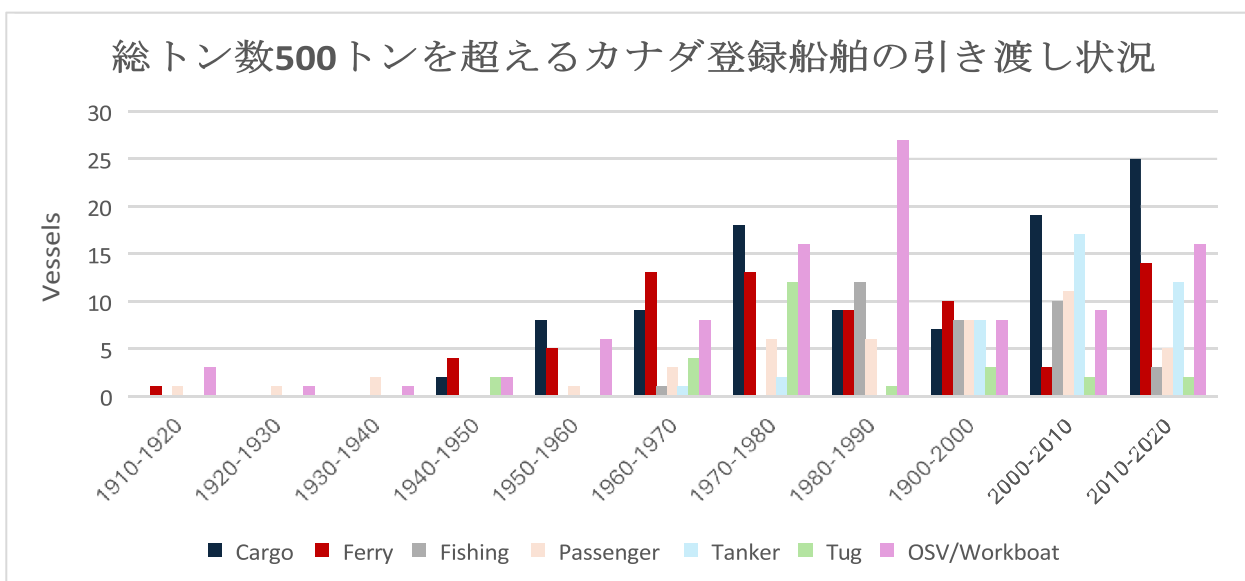
図表 11 カナダで建造・登録された総トン数500総トンを超える船舶



出典:カナダの船舶登記簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

カナダの船舶登記簿によると、2010年から2020年にかけて、カナダで就航中の船舶の引き渡し数は過去最多となり（就航中船舶は77隻）、連邦政府が2010年に商船輸入に対する25%の関税を廃止したことが、ここ10年ほどの船隊更新の促進要因となったと考えられている。

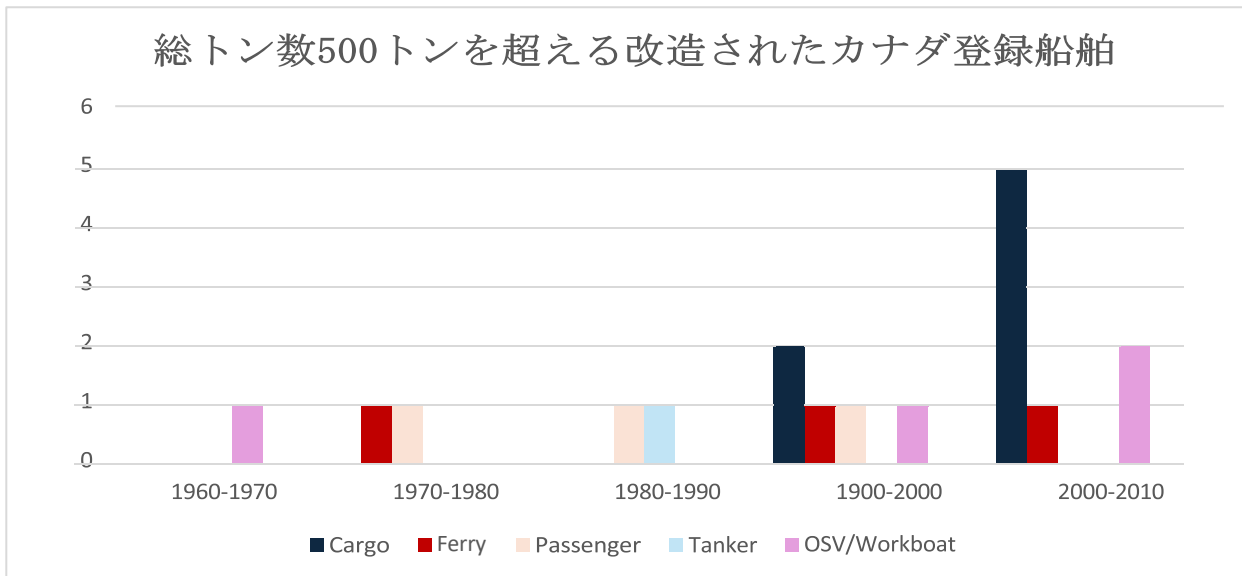
図表 12 総トン数500トンを超えるカナダ登録船舶の引き渡し



出典:カナダ船舶登記簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

カナダに登録されている総トン数500トン以上の船舶のうち、18隻が改造されたことが確認されており、最大の区分は貨物船で合計7隻である。

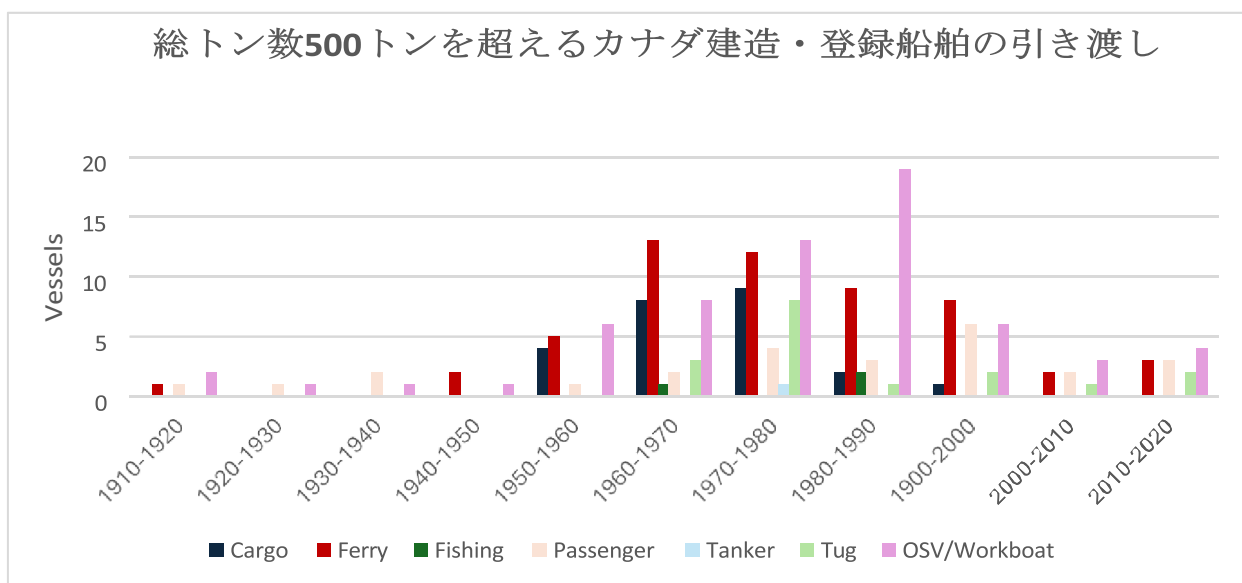
図表 13 総トン数500トンを超える改造されたカナダ登録船舶



出典:カナダ船舶登記簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

カナダに登録されている総トン数500トン以上の船舶410隻のうち、約190隻はカナダの造船所で建造されており、これは全体の46%に相当する。船舶登記簿によると、カナダ造船所は2000年以降、カナダ登録商船をわずか20隻しか引き渡ししていない。

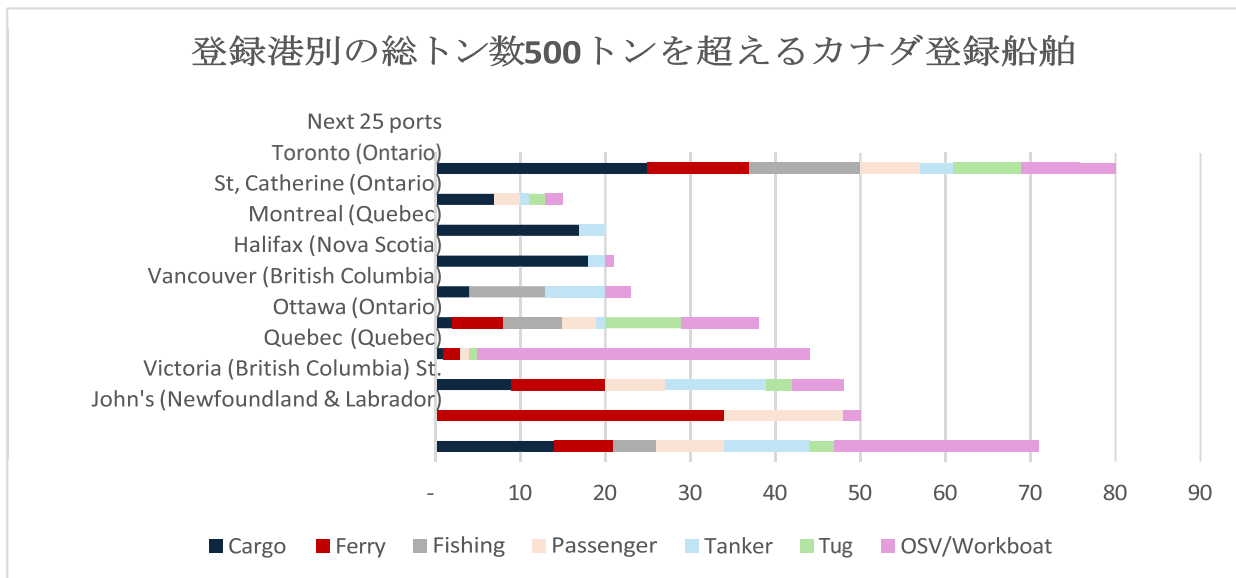
図表 14 総トン数500トンを超えるカナダ建造・登録船舶の引き渡し



出典:カナダ船舶登記簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

カナダに登録されている総トン数500トン以上の船舶410隻は、カナダ全土の34の港に登録されており、上位9つの港が船舶登録数の80%を占めている。

図表 15 登録港別の総トン数500トンを超えるカナダ登録船舶



出典:カナダ船舶登記簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

登録カテゴリーは船舶の種類を100%正確に記述するものではなく、一般的な説明であることに留意する必要がある。例えば、タンカーのカテゴリーには、カナダで稼働している数少ない浮体式石油・ガス生産システムが含まれる。

カナダの海事産業に影響を与える海事規制^{*)}は数多く存在する。カナダ政府は、この分野の振興に向けた政府の取り組みに注力し、国内造船業界が小型船舶や修理・改修プロジェクトに重点を置いていることを踏まえ、この分野を活性化させるための複数の計画を策定している。

2.6 国家造船戦略(NSS)

国際的な造船サイクルの影響を受けている老朽化した造船所に対処するため、NSSは2010年に開始され、カナダの海事産業を支援し、国内での船舶の建造を促進することを目指している。

この戦略は、カナダ海軍、カナダ沿岸警備隊、カナダ運輸省のプログラムを支援するための3つの要素から構成されている。

- 大型船舶の建造。
- 小型船舶の建造。
- 船舶の修理、改修、改造。

運用開始後の長期サービス契約を除き、現在の国家造船戦略では125を超えるプロジェクトが計画されている。

図表 16 NSSプロジェクトの概要

州及び造船所	大型船舶の 建造	小型船舶の 建造	耐用年数の 延長	修理と 改修	改造	総計
ブリティッシュコロンビア州	23	4	3	5		35
アライド造船所			1	2		3
CME		4		1		5
インターコン・マリン				1		1
ポイントホープ・マリタイム			1			1
シースパン・バンクーバー	23		1	1		25
ニューファンドランド・ラブラドール			1	3	1	5
DFバーンズセントジョンズ				1		1
ニュードック造船所			1	2	1	4
ノースウェスト準州			1			1
マリン・トランスポートーション・サービス			1			1
ノバスコシア州	23			1		24
CMEピクトゥ				1		1
アーヴィング・ハリファックス	23					23
オンタリオ		21	2			23
ハイクメタル・プロダクツ		10				10
カンターマリン		10				10
オンタリオ造船所			2			2
ケベック州	9	15	3			27
デイビー造船所	9		1			10
シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所		11				11
オーシャン・インダストリーズ		4	1			5
ヴェロー・ナビゲーション			1			1
未定		9				9
未定		9				9
英国		4				4
グリフォンマリン、英国		4				4

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

2.6.1 大型船舶（排水量1,000トン超）の建造

2030年代初頭まで続く計画の下、最大55隻の船舶を建造するため、3つの造船所が選定された（ブリティッシュコロンビア州のシースパン・バンクーバー造船所（23隻）、ノバスコシア州のハリファックスにあるアーヴィング造船所（23隻）、ケベック州のデイビー造船所（8隻））。

図表 17 NSSの大型造船プロジェクト

プロジェクト	顧客	造船所	建造予定船舶	納入	プロジェクト予算
北極海および沖合巡視船	カナダ沿岸警備隊	アーヴィング・ハリファックス	2	AOPS 7 (CCGS ドニェク氷河) 2026年、AOPS 8 (CCGS セルミリック氷河) 2027年	21億カナダドル
北極海および沖合哨戒艦-デウルフ級AOPV	カナダ海軍	アーヴィング・ハリファックス	6	AOPS 1 (HMCSハリリー・デウルフ) 2020年、APOS (HMCSマーガレット・ブルック) 2021年 AOPS 3 (HMCS マックス・バーネイズ) 2022年 AOPS 4 (HMCS ウィリアム・ホール) 2023年 AOPS 5 (HMCS フレデリック・ロレット) 2025年 AOPS 6 (HMCS ハンプトン・グレイ) 2025年	49億8千万カナダドル
フェリー建造	カナダ運輸省	デイビー造船所	2	2028/2029	未定
統合支援艦	カナダ海軍	シースパンバンクーバー	2	JSS 1 (HCMCプロテクター) 2025年 JSS 2 (HMCS プリサーバー) 2027年	60億9000万カナダドル
多目的船 (セントローレンス水路と五大湖地域での砕氷および捜索救助)	カナダ沿岸警備隊	シースパンバンクーバー	16 (最大)	2030年(初号船)	142億カナダドル
沖合漁業調査船	カナダ沿岸警備隊	シースパンバンクーバー	3	CCGS サー・ジョン・フランクリン、2019年 CCGS キャプテンジャックカルティエ、2019年 CCGS ジョン・キャボット、2020年	7億8,850万カナダドル
沖合海洋科学船	カナダ沿岸警備隊	シースパンバンクーバー	1	CCGS ナラク・ナッパアルク、2025年	14億7千万カナダドル

極地砕氷船 (CCGS アルパトゥークとCCGS イムナリュアク)	カナダ沿岸警備隊	シーSPANバンクーバー	1	2030	42億7000万カナダドル
		デイビー造船所	1	2030	33億9000万カナダドル
砕氷船プログラム	カナダ沿岸警備隊	デイビー造船所	6	未定	未定
リバー級駆逐艦	カナダ海軍	アーヴィング・ハリファックス	15	2030年代初頭	560億～600億カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

このプログラムで特定された56隻の船舶のうち48隻の予算は総額879億カナダドルに上る。アーヴィング・ハリファックスは大型NSS船の契約で646億カナダドル、シーSPAN・バンクーバーは225億カナダドルの契約を獲得している。デイビー造船所の事業予算は現在策定中である。なお、2025年3月、カナダ政府はデイビーがフィンランドのヘルシンキ造船所でポーラマックス極地砕氷船を建造することを承認している。

2.6.2 小型船舶（排水量1,000トン未満）の建造

カナダ沿岸警備隊、国防省、王立カナダ騎馬警察は、排水量1,000トン未満の小型船舶を最大52隻建造する計画を立てている。現在、計画されている52隻のうち、予算が確定しているのはわずか14隻で、総額は約3億カナダドルに上る。

図表 18 NSSの小型造船プロジェクト

プロジェクト	地位	顧客	造船所	建造船数
エアクッション船	進行中	カナダ沿岸警備隊	グリフォン・マリリン、サウサンプトン、英国	4
水路測量・測深船	完了	カナダ沿岸警備隊	カンターマリリン、オンタリオ州	2
沿岸警備艇(アルミ単胴船またはカタマラン)	進行中	王立カナダ騎馬警察	未定	3
沿岸調査船	完了	カナダ沿岸警備隊	カンターマリリン、オンタリオ州	1
水路調査船	完了	カナダ沿岸警備隊	カンターマリリン、オンタリオ州	7
沿岸多目的船	設計段階	カナダ沿岸警備隊	未定	6(最大)

海軍大型タグボート	進行中（2024年に2隻、2025年に1隻、2026年に1隻納入、それぞれ3,000万カナダドル）	国防省	オーシャン・インダストリーズ、ケベック州	4
近海漁業調査船（ディーゼル電気ハイブリッド）	進行中(2027年納入)	カナダ沿岸警備隊	シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所、ケベック州	1
捜索救助用救命ボート	進行中（2017～2025年、1艇あたり約1,790万カナダドル）	カナダ沿岸警備隊	シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所、ケベック州	10
捜索救助用救命ボート	進行中	カナダ沿岸警備隊	ハイクメタル・プロダクツ、オンタリオ州	10
スティー爾バージ	完了	国防省	CME、ブリティッシュ・ユクロンビア州	4

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

2.6.3 NSSに基づいて締結された船舶の修理、改修、および保守契約

NSSプログラムでは、修理・改修・保守プロジェクトが4つのカテゴリーに分けられている。船舶修理・改修（定期的な保守および規制検査）、船舶の耐用年数延長（カナダ沿岸警備隊の船舶76隻の運用寿命を最大15年延長）、船舶改造、および就航中サポート契約である。

以下の表は、2023～2024年にカナダ沿岸警備隊向けにNSSの枠組みで実施されたと報告されている船舶修理・改修を示す。

図表 19 NSSの修理・改修プロジェクト

船	種類	ホームベース	造船所	完了年	予算
CCGSヘンリー・ラーセン (改修)	Rクラス・ミディアム砕氷船	ニューファンランド・ラブラドル州セントジョンズ	ニュードック造船所、ニューファンランド・ラブラドル州セントジョンズ	2023	400万カナダドル
CCGS ウィルフレッド・グリーンフェル (修理)	高耐久性多目的船	ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	インターコン・マリン、ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	2024	140万カナダドル
CCGS ジャン・グッドウィル (改修)	中型砕氷船	ノバスコシア州ダートマス	ニュードック造船所、ニューファンランド・ラブラドル州セントジョンズ	2023	630万カナダドル
CCGSゴダード大佐SMSおよびCCGS M. チャールズMB (修理)	沿岸警備艇	ブリティッシュコロンビア州シドニー	アライド造船所、ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー	2024	240万カナダドル
CCGSサー・ジョン・フランクリン (修理)	沖合漁業調査船	ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	シースパン・バンクーバー・ドライドック・カンパニー、ブリティッシュコロンビア州バンクーバー	2024	290,000カナダドル
CCGS キャプテン・モリー・クール (改修)	中型砕氷船	ニューファンランド・ラブラドル州セントジョンズ	DFバーンズ、ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョンズ	2023	160万カナダドル
CCGS キャプテンジャックカルティエ (改修)	沖合漁業調査船	ノバスコシア州ダートマス	CME ピクトウ、ノバスコシア州	2024	410万カナダドル
CCGS イル・セント・ウルスとクレイブー島 (保守)	小型ブイと多目的船	オンタリオ州ソロルド	CME	2024	180万カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマタイム・アクティビティ・リポーツ作成

図表20は、2023年から2026年にかけてカナダ沿岸警備隊のNSS枠組み内で実施されると報告された船舶耐用年数延長プロジェクトを示す。

図表 20 NSS船舶の耐用年数延長プロジェクト

船	種類	ホームベース	造船所	完了年	予算
CCGS ルイ・サンローラン	砕氷船	ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョンズ	デイビー造船所、ケベック州	2024	1,440万カナダドル
CCGS ジョージズ・R・パーケス	砕氷船	ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョンズ	オンタリオ造船所、オンタリオ州ハミルトン	2024	3,614万カナダドル
CCGS テリー・フォックス	大型多目的砕氷船	ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョンズ	オンタリオ造船所、オンタリオ州ハミルトン	2025	1億3,550万カナダドル
CCGS レナード・J・カウリー	沖合巡視船	ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョンズ	ニュードック造船所、ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョンズ	2025	2,970万カナダドル
CCGS マーサ・L・ブラック	軽量型砕氷船	ケベック州	ケベック州ヴェローナビゲーシオン	2024	3,160万カナダドル
CCGS タヌ	沖合漁業巡視船	ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー	アライド造船所、ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー	2024	1,147万カナダドル
CCGS サー・ウィルフレッド・ローリエ	高耐久性多目的船	ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	シースパン・バンクーバー・ドライドック・カンパニー、ブリティッシュコロンビア州バンクーバー	2024	3,900万カナダドル
CCGS ネオカリガス	沖合漁業調査船	ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	ポイントホープ・マリタイム、ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	2024	676,000カナダドル
CCGS エカルー	航行援助船	ノースウエスト準州ヘイリバー	海上輸送サービス、ノースウエスト準州	2024	360万カナダドル
CCGS グリフォン	高耐久性多目的船	オンタリオ州プレスコット	オーシャン・インダストリーズ、ケベック州	2026	4,400万カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

図表 21は、カナダ沿岸警備隊のNSS枠組み内で実施されたと報告された船舶改造プロジェクトを示す。

図表 21 NSS船改造プロジェクト

船	種類	ホームベース	造船所	完了年	予算
CCGS ジュディ・マーシュ	砕氷船、捜索救助、ブイ管理船	五大湖とセントローレンス水路	ニュードック造船所、ニューファンドランド・ラブラドール州セントジョンズ	2025	3,430万カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

カナダ政府は、納入後も長期にわたるサポート契約を締結しており、その期間は20年以上に及ぶ場合が多い。プロジェクトにはいくつかの要素がある。

- ハリファックス級フリゲート艦：ブリティッシュコロンビア州のシーSPAN・ビクトリア造船所、ノバスコシア州のアーヴィング造船所、ケベック州のデイビー造船所が、15億カナダドルの初期契約を獲得した。契約では、各造船所に最低3隻のフリゲート艦が保証されている。2025年の計画では、HMCS トロントはデイビー造船所、HMCSハリファックスはアーヴィング、HMCSカルガリーはビクトリア造船所に入渠することが予定されている。
- ビクトリア級潜水艦：バブコック・カナダは、カナダ海軍のビクトリア級潜水艦4隻の改修契約を獲得した。このプログラムは2027年に完了する予定である。作業は連邦政府所有のエスクワイモルト・グレイピング・ドックで行われ、同ドックはシーSPAN社が運営している。
- 小型軍艦および補助艦艇（MWAV）の就役支援契約：2023年にタレス・カナダに授与された4億5,000万カナダドルの5年間の契約は、キングストン級、オルカ級、補助艦艇（タグボート、潜水支援船、魚雷運搬船、小型ボート）を含む様々な艦艇約100隻を対象としている。契約は最長19年間延長可能である。
- 北極海・沖合警備巡視船（AOPS）および統合補給艦の就航中支援契約：2017年にタレス・カナダに8億カナダドルの8年間の契約が締結され、AOPS 6隻と統合補給艦2隻の改修、修理、保守、訓練が含まれる。契約は最長35年間延長可能である。

2.7 カナダ運輸省

カナダ運輸省は、あらゆる輸送形態（航空、陸上、鉄道、海上）の運輸政策とプログラムを担当する連邦機関である。海運分野においては、カナダ運輸省は、海上輸送の免許、認証、登録、安全と訓練、航行援助装置、商船、プレジャーボートなど、カナダ国内のあらゆる輸送形態を監督する連邦機関である。

カナダ運輸省は、カナダの港湾および内陸フェリー部門でも主導的な役割を果たしている。

カナダ運輸省によると、2023年末時点でカナダには560の港湾施設、845の漁港、106のレクリエーション港がある^{xi}。連邦機関であるカナダ運輸省は、カナダ港湾局が独立して管理する17の港^{xii}と、カナダ運輸省が所有・運営するさらに34の港湾施設^{xiii}を監督している。

2.7.1 カナダ港湾局

カナダ海洋法により、17のカナダ港湾局^{xiv}が設立された。これらは連邦政府が法人化した独立機関であ

り、その管理委員会は港湾利用者と市、州、連邦政府から選出された理事で構成されている。

最新の政府統計によると、カナダ港湾局はカナダの商業貨物取扱量の約60%を取り扱っている。政府のデータによると、バンクーバー、モントリオール、プリンス・ルパート、ハリファックス、セントジョンが国内最大級のコンテナ港である。バンクーバー港はカナダ最大のバルク港でもある。

図表 22 カナダ港湾局（州別）

州	港湾局
ブリティッシュコロンビア州	ナナイモ、ポートアルバーニ、プリンスルーパー、バンクーバーフレイザー
オンタリオ州	ハミルトン・オシャワ、トロント、サンダーベイ、ウィンザー
ケベック州	モントリオール、ケベック、サグネ、セトイル、トロワリヴィエール
ニューブランズウィック州	ベルドゥーン、セントジョン
ノバスコシア州	ハリファックス
ニューファンドランド・ラブラドール州	

出典:カナダ運輸省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

港湾当局はターミナル曳航業務を通じてターミナル業務を管理している。

2.7.2 公共港湾

カナダ運輸省は、カナダ全土で3種類の港湾と港湾施設を所有および管理している³⁰。

図表 23 公共港湾（州別）

港湾の種類	州	港湾
遠隔	ブリティッシュコロンビア州	バンフィールドウェスト、ベラベラ、フォールスベイ、キングカムインレット、クレムトウ、キュクオート、クアツィノ、オウイケノ、サンドスピット
遠隔	ケベック州	ベ・ヨハン・ビーツ、ブラン・サブロン、カプ・オー・ムール、ハリントン・ハーバー、ケガスカ、ラ・ロメーヌ、ラ・タバティエール、ナタシユクアン、セント・オーガスティン、テテ・ア・ラ・バレヌ
地方/地域商業	アルバータ州	フォートチペワイアン
地方/地域商業	オンタリオ州	バーリントン、オーウェンサウンド、ペリー島、サウスベイモイウス、トバモリー、ウォルポール島
地方/地域商業	ケベック州	チャンドラー、レ・メチン、ミガジャ・ウェスト、ポワント・オ・ペール、ポルトヌフ
地方/地域商業	ニューファンドランド・ラブラドール州	チャールストン、メアリーズタウン
公共	ブリティッシュコロンビア州	ビクトリア
公共	マニトバ州	チャーチル
公共	オンタリオ州	コリングウッド、キングストン、キングスビル、オーウェンサウンド、サーニア、スーセント・マ

		リー
公共	ケベック州	キャップ・オ・ミュール、チャンドラー、パセビ アック
公共	ノバスコシア 州	ブリッジウォーター、ディグビー、ハントスポー ツ、ルイブール、リュネバーグ、マルグレイ ブ、ノースシドニー、ピクトウ、ポートホークス ベリー、パグウォッシュ、シェルバーン、シドニ ー、ヤーマス
公共	ニューファン ドランド・ラ ブラドール州	カム・バイ・チャンス、グースベイ、ホリール ード、ルイスポート、ロングハーバー、メアリーズ タウン、ポート・オー・バスク

出典:カナダ運輸省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

カナダ運輸省によると、最大の公共港はケベック州にある。主に塩、砂、砂利などのドライバルク貨物を取り扱っている。

2.7.3 非連邦港湾

カナダ運輸省は、オンタリオ州の5つの港湾委員会（サンダーベイ、ウィンザー、ハミルトン、トロント、オシャワ）、ブリティッシュコロンビア州の4つの港湾委員会（ポートアルバーニ、ナナイモ、フレージャーリバー、ノースフレージャー）、地方自治体や民間団体が管理する多数の小規模港、州港湾局（ハリファックス港湾局など）、そしてマニトバ州が管理するセンターポートなどの内陸港を含む、非連邦港湾の規制当局である。

2.8 フェリー

カナダの国土の広さと人口が比較的少ないことを考えると、地元のフェリーサービスは交通インフラの重要な要素である。

カナダフェリー協会（CFA）はカナダのフェリー業界の代表団体であり、そのメンバーは共同で、181航路で合計162隻のフェリーを所有・運航している^{xvi}。

図表 24 フェリーの航路

地域	州	フェリー航路
大西洋	ニューファンドランド・ラブラドール州、プリンスエドワード島、ノバスコシア州、ニューブランズウィック州	41
ケベック	ケベック州	24
オンタリオ	オンタリオ州	24
プレーリー	アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州	25
ブリティッシュコロンビア	ブリティッシュコロンビア州	62
カナダ北部	ユーコン準州、ノースウェスト準州、ヌナブト準州	5

出典:カナダフェリー協会からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

2.8.1 カナダ運輸省フェリープログラム - カナダ大西洋岸およびケベック州東部

カナダ運輸省は、フェリーサービス助成プログラムを運営している。このプログラムは、カナダ大西洋岸とケベック州東部における州間フェリーサービスへの資金を提供する。カナダ運輸省は、これらのサ

ービスを提供するために、4隻のフェリーと6つの陸上施設を所有し、運航者にリースしている。

図表 25 カナダ運輸省のフェリーサービス助成プログラム

船	納入	運航者	州
マドレーヌII	2019	CTMAフェリー株式会社	プリンスエドワード島
ファンディ・ローズ	1999	ベイフェリー	ノバスコシア州
コンフェデレーション	1992	ノーサンバーランドフェリー	ノバスコシア州
ノーサンバーランド	2007	ノーサンバーランドフェリー	ノバスコシア州

出典:カナダ運輸省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

2.8.2 カナダ運輸省フェリー代替プログラム

カナダ運輸省は現在、老朽化したフェリー（CTMAのマドレーヌとノーサンバーランドフェリーのホリデーアイランド）の代替として、フェリー2隻の建造資金を提供している。最初のディーゼル電気ハイブリッド船は2028年に、2隻目は2029年に納入される予定である。ケベック州のデイビー造船が建造契約を獲得した。

2.8.3 マリン・アトランティック・インコーポレイテッド

マリン・アトランティック・インコーポレイテッド（MAL）は、カナダ運輸省傘下の公社であり、ノバスコシア州ノースシドニーとニューファンドランド・ラブラドール州ポート・オー・バスクにサービスを提供している。同社は4隻のフェリーを運航している。

- 全長203メートルのアラスイヌは、2024年に納入されたステナE-フレクサーRo-Pax二元燃料LNGバッテリーハイブリッド船である。この船は中国の招商局威海造船所で建造された。この船には、バルチラ46DF主機、バルチラ20DF補機、コルバス・エナジー2,000kWhオルカバッテリーエネルギー貯蔵システムが搭載されている。この船はステナから長期チャーターされており、購入オプションもある。
- 全長200メートルのブルー・プティーズとハイランダーズの建造は、2004年にロシアのバルチスキー・ザヴォード造船所で開始され、2006年にノルウェーのフォーセン造船所で完了した。この船は2015年にステナから購入された。
- 全長203メートルのアトランティック・ビジョンは、2002年にドイツのキールで建造された。

2.8.4 オンタリオ湖における運航

2021年、カナダ運輸省は、オンタリオ湖を航行する完全電気フェリー2隻をダーメン・ルーマニアから引き渡しされた。1隻は全長72メートルのアマースト・アイランダーIIで、オンタリオ州ロイヤリスト・タウンシップによる運航でアマースト島フェリーサービスを運航し、もう1隻は全長99メートルのウルフ・アイランダーIVで同省が運航する。スイスのサプライヤーであるルクランジェは、アマースト・アイランダーIIに1,900kWh、ウルフ・アイランダーIVに4,600kWhのバッテリーエネルギー貯蔵システムを供給した。両船舶には、3,000kWhの陸上充電ステーションが両船を支援している。

2.9 砕氷船と北極圏

北極圏の極めて過酷で予測不可能な環境での航行は、航行に多くの課題と危険をもたらす。海氷に加え、過酷な気象条件や限られた港湾インフラも相まって、特殊な耐氷対策をした砕氷（アイスクラス）船が必要となる。これらの船は、一般的に厚い船体と強化構造（桁、梁、隔壁）を備え、場合によっては耐氷プロペラや舵も備えている。カナダの港湾と水路は冬季と海氷の影響を強く受け、年間最大10か月間、

運航が妨げられる可能性がある。

アイスクラス船は一般的に、砕氷船の航跡に沿って航行するように設計されており、砕氷船は氷を砕くために特別に設計されている。

海水の多い地域での運航という課題に対処するには、砕氷活動や捜索救助活動などを支援する必要がある。カナダではカナダ沿岸警備隊がこれらの役割を担っている。その他の主要な砕氷船隊は、ロシア、フィンランド、スウェーデン、米国が保有している。アーカー・アークティックによると^{xviii}、2024年1月1日現在、世界の砕氷船隊は稼働中の砕氷船179隻、建造中の砕氷船29隻、そして「造船所の注文書に記載されているか、様々な調達プログラムに含まれている」35隻で構成されている。

カナダ沿岸警備隊は、20隻の砕氷船の艦隊を維持している^{xix}。

図表 26 カナダ沿岸警備隊の砕氷船隊

種類	名前
大型砕氷船	CCGS テリー・フォックス
大型砕氷船	CCGS アン・ハーヴェイ
中型砕氷船	CCGS ジーン・グッドウィル
中型砕氷船	CCGS ヴィンセント・マッセイ
中型砕氷船	CCGS アムンセン
中型砕氷船	CCGS デグロシリエ
中型砕氷船	CCGS ヘンリー・ラーセン
中型砕氷船	CCGS ピエール・ラディソン
中型砕氷船	CCGS キャプテン・モリー・クール
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS アニー・ハーヴェイ
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS コピット・ホプソン 1752
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS ジョルジュ・R・ピアークス
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS グリフォン
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS マーサ・L・ブラック
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS サー・ウィルフレッド・ローリエ
小型砕氷船- 高耐久性のマルチタスク	CCGS サー・ウィリアム・アレクサンダー
小型砕氷船 中程度の耐久性マルチタスク	CCGS アールグレイ
中程度の耐久性のマルチタスク船	CCGS サミュエル・リズリー
エアクッション船	CCGS マミロッサ
エアクッション船	CCGS シプムイン

出典:カナダ沿岸警備隊からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

船舶の新造、修理・改修、および延命工事は、連邦政府との契約を締結した造船所で実施される。

米国、カナダ、フィンランドは、2024年末に北極圏および極地向け砕氷船の建造を支援するための覚書である砕氷船協力協定（ICE Pact）を締結した^{xx}。この覚書は、事実上、経済と安全保障（基本的には中国とロシアに対抗する）の利益を一致させるという意思表示であり、3か国で新たに「アイスクラスで最高」の砕氷能力を設計、建造、維持するという共同の意思を表明しており、造船所、エンジニアリング、機器サプライヤーの能力開発の必要性を強調している。

2.10 漁業

商業漁業はカナダの海洋経済において重要な役割を果たしている。2023年の最新の政府統計によると

xxi、年間漁獲量は約71万3000トンに達する。

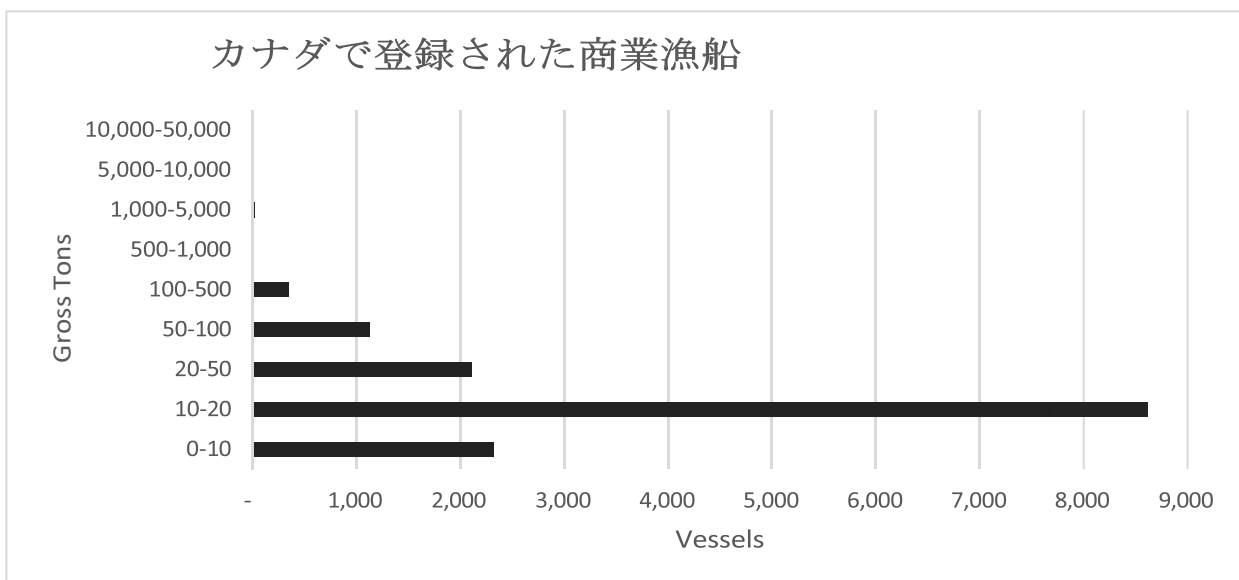
図表 27 カナダの漁業

	地魚	遠洋	貝類	その他	合計	登録船舶数
大西洋	75,838トン	89,230トン	390,748トン	16,403トン	572,219トン	14,388
太平洋	82,839トン	15,598トン	16,166トン	0トン	114,603トン	2,165
内陸					25,880トン	150
カナダ					712,702トン	16,703

出典:カナダ漁業海洋省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

漁船の隻数に関しては、最新の登録船舶数によると、カナダに登録されている漁船は14,542隻で、そのうち14,384隻はカナダで建造された。漁船の大部分はカナダの造船所で整備されている。

図表 28 カナダで登録された商業漁船



出典:カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

2.11 カナダ沖合での石油・ガス

カナダ沖合での石油・ガス事業は、主に東海岸、特にニューファンドランド・ラブラドール州沖で行われている。沖合でのプロジェクトの主要なものには、1992年にノバスコシア州で生産開始したコハセット・パヌーク（現在は廃止されている）、1997年にニューファンドランド・ラブラドール州で生産開始したハイバーニア（同州で60万トンのコンクリート重力式構造物を建造）、サンコールのテラ・ノバ（FPSOで生産、2005年、ニューファンドランド・ラブラドール州）、セノバスのホワイト・ローズ（FPSOシーローズで生産、2005年、ニューファンドランド・ラブラドール州）、そして2017年に生産を開始したエクソンモービル社のヘブロン（同州でコンクリート重力式構造物を建造）などがある。

セノバスは現在、FPSOシーローズに接続する新たな生産プラットフォームを含むウェスト・ホワイト・

ローズ・プロジェクトを完了させている。最初の原油生産は2026年半ばに予定されている。

ニューファンドランド・ラブラドール州沖合のジャンヌ・ダルク盆地における天然ガスの潜在的可能性の探査と評価は、2023年から2025年にかけて実施された。中長期的な資源生産を見据え、2025年から2026年にかけて更なる活動が計画されている。

石油・ガス事業を支えるオフショア船舶の主要業務は、掘削支援、オフショアターミナルの曳航、補給に加え、氷塊管理である。

2.12 液化天然ガス

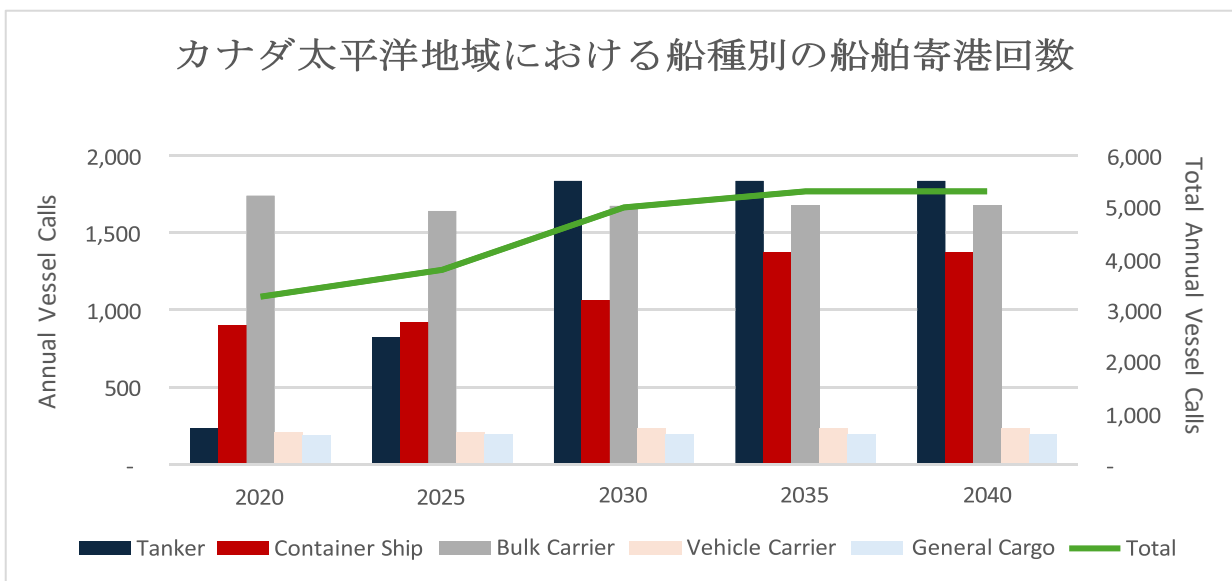
カナダには、ニューブランズウィック州のセントジョンLNG輸入施設とオンタリオ州のハミルトン港の2つのLNG輸入施設があり、後者は船舶用バンカー燃料を供給している。

ブリティッシュコロンビア州には8つのLNG輸出ターミナルがあり、すべてのプロジェクトが完成すれば、今後10年初頭までに年間合計5,000万トンのLNGを輸出すると予想されている。

- 4つのプロジェクトに40年間の輸出ライセンスが付与された：キティマット1（最初のLNG貨物は2025年の出荷済）、キティマット2（最終投資決定は未定）、ウッドファイバー（建設中、2027年に初生産予定）、KSIリシムズLNG（最終投資決定は未定）。
- 2つのプロジェクトが25年間の輸出ライセンスを取得した：ティルベリー・フェーズ2（最終投資決定は未定）とシーダー（2024年6月に最終投資決定済）。
- 1つのプロジェクトが輸出申請を準備中：サミット・レイク。

LNG輸出プロジェクトは、カナダ太平洋岸の船舶寄港予測に大きな影響を与える。クリア・シーズが2025年5月に発表した、2040年までの太平洋岸の船舶交通量予測報告書によると^{xxx}、総交通量は2020年の約3,250隻から2025年には約5,000隻に増加し（53%増）、その後2035年にはさらに6%増加して約5,300隻に達すると予想されている。LNG輸出タンカーの活動は2030年までの予想船舶寄港活動を牽引し、コンテナ輸送量は2030年以降増加し、ドライバルク輸送量は比較的安定している。

図表 29 カナダ太平洋地域における船種別の船舶寄港回数



出典: クリア・シーズによるカナダ太平洋地域の2040年までの船舶交通量予測 (2025年5月) からのデータに基づきマリタイム・アクティビティ・リポート作成

2.13 洋上風力発電

連邦議会は2024年10月、ノバスコシア州、ニューファンドランド・ラブラドール州沖における洋上風力発電プロジェクトの展開を支援する法案を可決した。この法律は、洋上再生可能エネルギー開発の枠組みを確立し、ノバスコシア州、ニューファンドランド・ラブラドール州石油委員会の役割を洋上エネルギー規制当局へと再編するものである。

2.13.1 ニューファンドランド・ラブラドール州

2023年末、連邦政府と州政府は、内湾におけるプロジェクトに関する規制の主導権を州が握る覚書（MOU）に署名した。その他の地域については、連邦政府は各州省庁と連携し、洋上風力資源の共同管理に取り組んでいる。

特定された予備的な洋上風力発電の許可区域は31,620平方キロメートルに及び、理論上の可能性は約94.5GWである。作業チームは引き続き予備的な区域の精緻化を進める。

図表 30 ニューファンドランド・ラブラドール州の予備的な洋上風力発電の許可区域

水深(m)	エリア数	面積（平方キロメートル）
≤60	17	5,000
60-80	28	6,700
80-300	32	20,000
	77	31,700

出典:ニューファンドランド・ラブラドール州における洋上風力開発地域評価委員会のデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

2.13.2 ノバスコシア州

ノバスコシア州は、2030年までに5GWの洋上風力発電を含むリース契約を締結する計画を策定し、2025年に最初の入札を開始する予定である。洋上風力発電による電力は、主要電力網と州のグリーン水素産業の両方に供給される。同州の首相はまた、発電容量目標を40GWに引き上げることも提案している。

ノバスコシア州の州政府機関は、2030年までに5GWの発電容量を達成するという目標達成に向け、2025年に競争入札を募る5つの風力発電地域を特定した。これらの地域は、フレンチバンク、ミドルバンク、セーブルアイランドバンク、シドニーバンク、ウェスタン/エメラルドバンクである。フレンチバンクとウェスタン/エメラルドバンクはどちらも浮体式風力発電技術にのみ適しており、残りの3つのリースは着床式と浮体式の両方のソリューションに適している。

2.14 エネルギー転換

カナダは、2021年に成立した「カナダ・ネットゼロ排出説明責任法」に基づき、2050年までに温室効果ガス（GHG）の排出ゼロまたはオフセットによってネットゼロ排出を達成するという国家目標を法的に定めている。

海事分野では、運輸大臣が2023年後半に1億6,540万カナダドル規模のグリーン海運回廊構想を発表した。この計画のハイレベルの目標は、五大湖とセントローレンス水路沿いの主要海運地域、そしてカナダの東海岸と西海岸の脱炭素化である。

グリーン回廊プログラムの取り組みには次のものが含まれる。

- グリーン海運回廊プログラムの一環であるクリーン船舶実証プロジェクトxxiiiにおいて、カナダ運輸省は2024年半ばに14件の助成金を交付した。

図表 31 2024 年グリーン海運回廊プログラム－クリーン船舶実証プロジェクト

会社	プロジェクトタイプ	プロジェクト概要	助成金
アルゴマ	風の研究	カナダのばら積み貨物船への風力補助推進システムの導入に関する実現可能性調査	125,000カナダドル
アルゴマ	ばら積み貨物船の研究	メタノール燃料船のコンセプト設計を開発し、実現可能性調査を実施する	125,000カナダドル
アルゴマ	陸上電源供給の研究	アルゴマの船舶を陸上電源対応に改造することによる技術的、商業的実現可能性と排出量削減のメリットを探る。	97,500カナダドル
アルゴマ	バイオ燃料研究	バイオ燃料の影響の拡張性、経済的実現可能性、環境性能を研究する	125,000カナダドル
アルゴマ	設計研究	バージによって支えられたタグボートの動力を主な燃料貯蔵として定義する	125,000カナダドル
CSLグループ株式会社	レイカーズ設計研究	ディーゼル電気式バッテリーハイブリッドのレイカーズの技術的実現可能性と設計を開発する。	125,000カナダドル
フェドナブ株式会社	燃料電池研究	ばら積み貨物船への燃料電池発電システム搭載の実現可能性調査	120,000カナダドル
フェドナブ株式会社	バッテリーESSの実現可能性の研究	ばら積み貨物船へのバッテリーエネルギー貯蔵システム搭載の実現可能性調査	125,000カナダドル
フェドナブ株式会社	風の研究	ばら積み貨物船への風力補助推進システム搭載の実現可能性調査	125,000カナダドル
マージー・シーフーズ有限会社	ゼロカーボン燃料を動力源とする大型漁船の実現可能性研究	大型沖合漁船における低炭素/ゼロ炭素燃料および技術の使用に関する実現可能性調査	125,000カナダドル
ミアプテック・ホライゾン・コーポレーション (ホライゾン・マリタイム)	ゼロエミッション船の研究	ネットゼロ多目的船舶の最適な設計を決定するための低炭素およびゼロ炭素技術を評価する実現可能性調査	125,000カナダドル
オセアネックス	陸上電力調査	陸上電源のアップグレードの実現可能性を判断するために必要な技術的な実現可能性とエンジニアリングソリューションを検討する、実現可能性調査。	125,000カナダドル
シースパンフェリー	ハイブリッドタグボートレトロフィット研究	船舶のバッテリーストレージを改造するための船隊と関連コストの実現可能性の調査	115,380カナダドル
トランスポート・デスガニエ株式会社	バッテリーESSの実現可能性の研究	バッテリーエネルギー貯蔵システム導入の実現可能性調査	125,000カナダドル

出典:カナダ運輸省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

- 2024年10月、連邦政府は、ノバスコシア州ポイント・タッパーのグリーンアンモニア輸送・積載施設において、エバーウィンド・フューエルズ^{xxiv}に2,250万カナダドルの資金提供を発表した。この資金は、2025年第1四半期にタグボート3隻、ダーメン製ASD 3212型65トンボラードプルタグ3隻の購入も支援する。
- カナダ運輸省は、ケベック州に対し、貨物船の電動化、陸上電源インフラの整備、次世代クリーン船舶の就航促進に投資するため、3,000万カナダドルの資金拠出を発表した。ケベック港は、フェデナビと協力し、ケベック港の陸上電源インフラへの投資として2,250万カナダドルを確保した。モントリオール港は、五大湖とサンダーベイに就航するCSLの船舶にサービスを提供するビテラ・ターミナルに陸上電源システムを設置するため、300万カナダドルの資金拠出を受けた。さらに、ビッカーダイク・ターミナルの陸上電源インフラ整備のために450万カナダドルの資金拠出を受けた。
- オンタリオ州は、2024年末に連邦政府から2,520万カナダドルの資金を確保し、既存のインフラの改修し、グリーン燃料バンカリングインフラの改修・建設し、そして新しい港（スーセントマリー港がアルゴマ港を調査）の建設の実施可能性を調査した。この資金の一部として、ハミルトン・オンシャワ港は、カナダ・クリーン・フューエルズおよびカナダ・スチームシップ・ラインと提携し、ポート・コルボーンに年間800万リットルのバイオ燃料ターミナルを建設する。スターリング・フューエルズは、ウィンザーとハミルトンのグリーン燃料インフラへの追加投資として496万カナダドルを受け取った。QSLは、五大湖とセントローレンス川流域を航行する船舶への陸上電源設置のために600万カナダドルを受け取った。
- 2025年2月、カナダ運輸省はハリファックス港湾局に2,500万カナダドルを交付した。その大部分は、水素製造、港湾設備の電化、貨物の鉄道輸送への移行を促すインセンティブを特徴とするハリファックス・ハンブルク間のグリーン海運回廊の支援を目的としている。
- 2025年に実施された連邦政府のイニシアチブにより、ブリティッシュコロンビア州の港湾における排出量削減に向け3,550万カナダドルの資金が提供された。これにより、輸送・港湾インフラにおけるクリーンエネルギーの利用拡大、停泊中の船舶への陸上電源供給、港湾区域における低排出・低騒音化が促進される。このプログラムの一環として、シースパン・フェリーズは、4つのフェリーターミナルに陸上電源設備を設置し、ターミナルに寄港する4隻のRoRo船をアップグレードして陸上電源を利用できるようにするために、640万カナダドルの資金を確保した。グレーター・ビクトリア港湾局は、オグデン・ポイント・クルーズ船ターミナルに陸上電源設備を設置するために2,250万カナダドルを確保した。バンクーバー・フレーザー港も、陸上電源インフラのアップグレードのために660万カナダドルを確保した。

カナダの法律事務所マクミラン^{xxv}によると、各州は連邦計画全体を支援するための具体的な枠組みも策定している。

- ブリティッシュコロンビア州：同州は2008年に北米初の広域炭素税を導入した。2030年までに排出量を40%削減するという同州の計画であるクリーンBCイニシアチブ^{xxvi}は、その他の輸送ソリューションとともに、ゼロエミッション船舶の導入を推進している。フェリー部門の脱炭素化は2019年のクリーン・フューチャーズ・プランで取り上げられており、ハイブリッドフェリーや完全電動フェリーへの投資につながっています。また、同州は電化ケーブルフェリーも就航させている。

最近の取り組みの一つとして、比較的最近設立されたBC海洋・脱炭素化ハブ^{xxvii}がある。これは、ビクトリア大学と海洋応用持続可能技術センター（COAST）のパートナーシップであり、海洋の脱炭素化を促進することを目的としている。このハブは、連邦政府と州政府のプログラムによって資金提供されている。

- ノバスコシア州^{xxviii}：海洋電化の機会を評価するための同州の2022年の調査では、近海船舶（主に漁船と作業船）の電化の機会と、長距離航海のための水素とアンモニアの可能性が特定された。

- オンタリオ州^{xxx}：オンタリオ州は、セントローレンス水路における貨物輸送、フェリー網、そして観光部門における排出量削減に重点を置いている。4つの「柱」からなるこの計画では、4つ目の柱が海上輸送のグリーン化である。取り組みにはフェリーの電化（例えば、州による電動旅客フェリーアマーハースト・アイランダーIIとウルフ・アイランダーIIの購入などが挙げられる）が含まれる。同州は、五大湖とセントローレンス水路システムにおけるゼロエミッション技術と代替燃料の推進のため、官民の団体と協力する。2024年の計画改訂版では、具体的な取り組みは示されていない。
- ケベック州^{xxx}：セントローレンス水路システムと東海岸における排出量の削減を目指し、貨物船ではグループ・デガニエが二元燃料LNG燃料船の使用を増やし、フェリー部門では、ケベックフェリー会社（STQ）がハイブリッドフェリーと完全電気フェリーの導入を増やしている。

最近のIMO海洋環境保護委員会の会合で、カナダは、燃料のGHG強度を下げ、GHG排出量の価格設定メカニズムを確立するための中期的技術対策を支持する投票を行った63カ国のうちの1つであり、海洋エネルギー転換に対する政府の支持を反映している。

2.15 沿岸貿易

沿岸貿易とは、カナダ水域内で行われるあらゆる商業的な海洋活動を指す用語である。

沿岸貿易法に基づき、沿岸貿易はカナダ籍船舶およびカナダ人乗組員に限定されているが、一部の限定的な例外がある。

2.16 先住民とコミュニティ

カナダの人口の約5%は先住民に分類され、ファースト・ネーションズ、イヌイト、メティスと定義される。

人口構成は小さいものの、先住民とそのコミュニティは政治的にも商業的にも重要であり、カナダでビジネスを行うには、この問題に対する文化的な配慮が求められる。

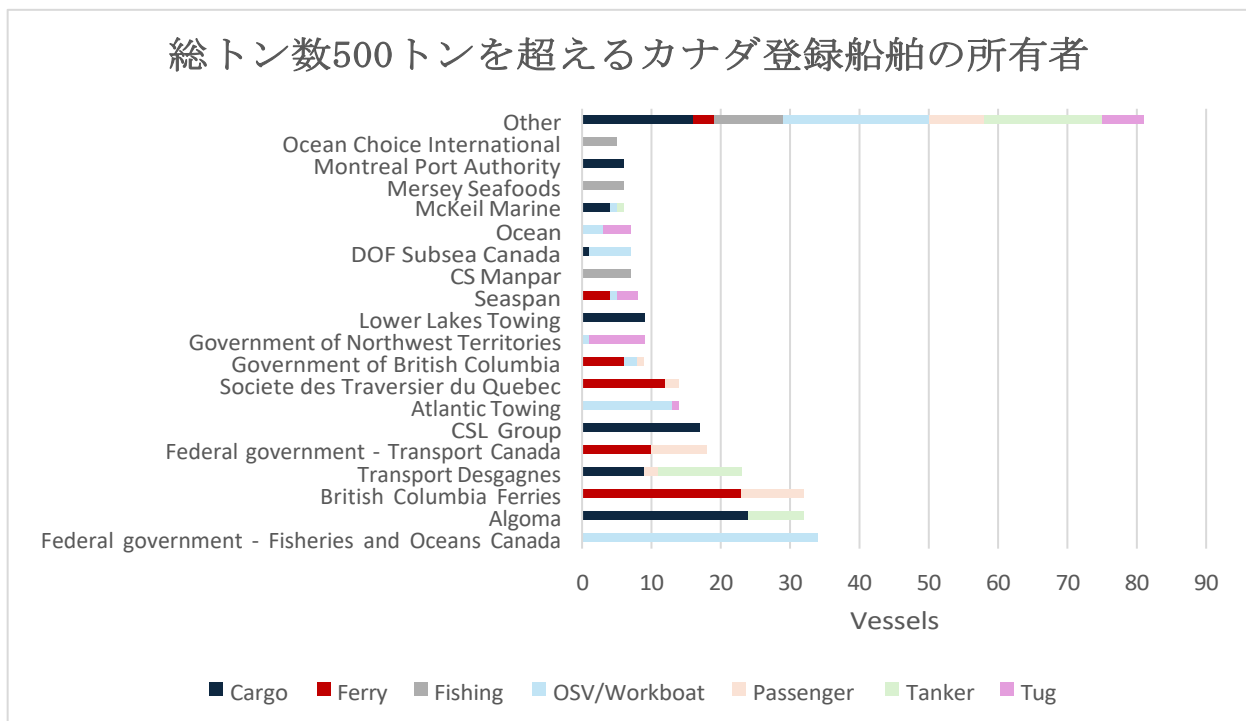
3. カナダの船主

この章では、カナダの船舶所有部門をレビューし、連邦政府、州政府、地方自治体の機関と民間企業の役割を確認する。

カナダ船舶登録簿には現在、総トン数500トン以上の船舶が約410隻登録されている。この部門における最大の所有者は、カナダ漁業海洋省やカナダ運輸省などの連邦政府である。州政府や地方自治体も、貨物船、フェリー、旅客船、OSV/作業船などの船舶に投資している。民間の大手所有者には、アルゴマ、JDアービング、CSL、シーспанなどがある。

公開されている登録簿には、船主や船籍の変更など、既に有効ではない船舶情報が含まれている可能性があると考えられ、可能な限り修正を加えている。

図表 32 総トン数500トンを超えるカナダ登録船隊の所有者



出典:カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

複数の船主が、船隊の大部分について、国際的に運航しているか、あるいはカナダ船籍を有していない船隊を所有していることに留意が必要である。また、カナダの船舶登録は主にカナダ国内で運航する船舶を対象としており、国際貿易に従事する船舶の多くを必ずしも対象としているわけではないことにも留意が必要である。

3.1 アルゴマ

アルゴマは1899年に設立された、カナダの上場企業である。

アルゴマは、国内用ドライバルク船、製品タンカー、洋上セルフアンローダーに分類される船舶96隻を保有していると報告している。

図表 33 アルゴマ船隊

名前	種類	市場	載貨重量 (トン)
ボーンホルム*	セメントキャリア	インターナショナル	4,537
キプロスセメント*	セメントキャリア	インターナショナル	5,533
ゴットランド*	セメントキャリア	インターナショナル	4,537
グリーンランド*	セメントキャリア	インターナショナル	7,558
グリットセメントII*	セメントキャリア	インターナショナル	9,148
グリットセメントIII*	セメントキャリア	インターナショナル	16,325
グリットセメントIV*	セメントキャリア	インターナショナル	13,020
アイスランド*	セメントキャリア	インターナショナル	4,536
アイルランド*	セメントキャリア	インターナショナル	7,558
マルタセメント*	セメントキャリア	インターナショナル	3,961
NACCアリクディ*	セメントキャリア	インターナショナル	7,939
NACCアンティグア*	セメントキャリア	インターナショナル	16,800
NACCアルゴノート*	セメントキャリア	五大湖 - セントローレンス水路	13,977
NACCカプリ*	セメントキャリア	インターナショナル	7,100
NACCコスメル*	セメントキャリア	インターナショナル	8,388
NACCインディアン*	セメントキャリア	インターナショナル	16,061
NACCイサカ*	セメントキャリア	インターナショナル	7,966
NACCキングダム*	セメントキャリア	インターナショナル	22,638
NACCニューヨーカー*	セメントキャリア	インターナショナル	29,000
NACCパナレア*	セメントキャリア	インターナショナル	5,897
NACCポロス*	セメントキャリア	インターナショナル	7,702
NACCプロビデンス*	セメントキャリア	インターナショナル	20,200
NACCケベック*	セメントキャリア	五大湖 - セントローレンス水路	10,243
NACCシリア人*	セメントキャリア	インターナショナル	7,300
NACCスター*	セメントキャリア	インターナショナル	7,150
NACCベガ*	セメントキャリア	インターナショナル	7,450
シュトランド*	セメントキャリア	インターナショナル	8,050
サイダー・プロチダ*	セメントキャリア	インターナショナル	7,702
サイダービバラ*	セメントキャリア	インターナショナル	7,480
アルゴマ・エクイノックス	エクイノックスクラス、クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	30,242
アルゴマハーベスター	エクイノックスクラス、クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	30,263
アルゴマ・ストロングフィールド	エクイノックスクラス、クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	30,303
キャプテン・ヘンリー・ジャックマン	エクイノックスクラス、クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	31,226
G3 マーキス	エクイノックスクラス、クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	30,275
アルゴマ・ベア	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	29,749
アルゴマ・コンベア	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	28,110
アルゴマ・エンデバー	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	24,100
アルゴマ・イノベーター	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	24,454
アルゴマ・イントレピッド	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	24,100
アルゴマ・ナイアガラ	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	28,535
アルゴマ・ソールト	エクイノックスクラス、セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	28,579
アルゴマ・ディスカバリー	クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	25,246
アルゴマ・ガーディア	クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	25,661
ティム・S・ドゥール	クレーンなしばら積み貨物船	五大湖 - セントローレンス水路	28,033

ICSオセアヌス*	ミニバルカー	インターナショナル	5,751
ICSオリオン*	ミニバルカー	インターナショナル	7,600
サイダー・エイミー*	ミニバルカー	インターナショナル	14,215
サイダー・アテナ*	ミニバルカー	インターナショナル	39,128
サイダー・ベア*	ミニバルカー	インターナショナル	39,090
サイダー・ビルバオ*	ミニバルカー	インターナショナル	14,184
サイダー・バッファロー*	ミニバルカー	インターナショナル	7,600
サイダー・カルタヘナ*	ミニバルカー	インターナショナル	14,121
サイダー・コロンビア*	ミニバルカー	インターナショナル	14,695
サイダー・イビス*	ミニバルカー	インターナショナル	7,600
サイダー・リウ*	ミニバルカー	インターナショナル	14,690
サイダー ロンドン*	ミニバルカー	インターナショナル	14,142
サイダー・モンボックス*	ミニバルカー	インターナショナル	14,695
サイダー・モニカ*	ミニバルカー	インターナショナル	8,048
サイダー・ロディ*	ミニバルカー	インターナショナル	8,063
サイダー・タイロナ*	ミニバルカー	インターナショナル	14,690
サイダー・ユニコーン*	ミニバルカー	インターナショナル	7,600
サイダー・ヴルカーノ*	ミニバルカー	インターナショナル	7,266
アルゴベルタ	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	18,894
アルゴカナダ	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	11,267
アルゴルナ	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	16,536
アルゴマ・イースト・コースト	プロダクトタンカー	沿岸	37,000
アルゴノワ	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	11,240
アルゴスコシア	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	18,610
アルゴソリス	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	16,544
アルゴテラ	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	16,512
アルゴタイタン	プロダクトタンカー	五大湖 - セントローレンス水路	18,894
フューレ・スカーゲン*	プロダクトタンカー	インターナショナル	16,958
フューレ・スピア*	プロダクトタンカー	インターナショナル	16,585
フューレ・ヴァンガード*	プロダクトタンカー	インターナショナル	17,999
フューレ・ヴェスボーグ*	プロダクトタンカー	インターナショナル	17,999
フューレ・ビクトリア*	プロダクトタンカー	インターナショナル	17,999
フレ・ヴィーケン*	プロダクトタンカー	インターナショナル	17,999
フューレ・ヴィスカー*	プロダクトタンカー	インターナショナル	17,999
フューレ・ヴィル*	プロダクトタンカー	インターナショナル	17,999
アルゴマ・バッファロー	セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	22,415
アルゴマ・コンパス	セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	26,541
アルゴマ・インテグリティ	セルフアンローダー	インターナショナル	46,293
アルゴマ・マリナー	セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	25,690
アルゴマ・ヴァラー	セルフアンローダー	インターナショナル	70,034
アルゴマ・バリュー	セルフアンローダー	インターナショナル	75,569
アルゴマ・ベリティ	セルフアンローダー	インターナショナル	50,259
アルゴマ・ビクトリー	セルフアンローダー	インターナショナル	66,188
アルゴマ・ビジョン	セルフアンローダー	インターナショナル	71,405
バハマ・スピリット	セルフアンローダー	インターナショナル	44,389
オナラブル・ヘンリー・ジャックマン	セルフアンローダー	インターナショナル	75,597
ジョン・D・リーチ	セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	29,243
ラドクリフ・R・ラティマー	セルフアンローダー	五大湖 - セントローレンス水路	26,145
ヴェーザー・スタール	セルフアンローダー	インターナショナル	46,257

出典:アルゴマからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

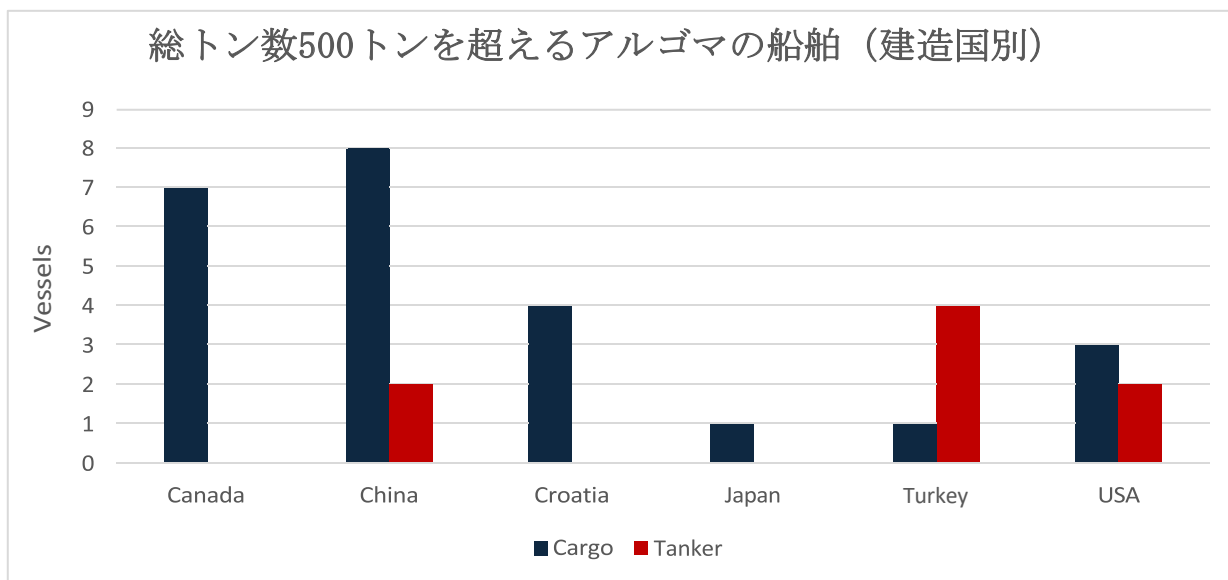
注:船舶名の後に「*」が続くものは合弁事業船

2025年3月、アルゴマは、2013年以降23隻の船舶を引き渡し、さらに12隻を発注済みまたは建造中であると発表した（フューレベアJV向けのプロダクトタンカー5隻と、HD現代尾浦造船のメタノール対応アイスクラスプロダクト船（アルゴマ・アカディアン）を含む）。同社の財務報告書によると、アルゴマは2025～2027年に国際プロダクトタンカー5隻、洋上セルフアンローダー2隻、セメント運搬船1隻、ミニバルカー2隻、国内ドライバルク船1隻を引き渡す予定である。

2025年までに引き渡しされた船舶には、フューレ・ヴェスボルク製プロダクトタンカー、クロアチアの3メイ（Maj）造船所のアルゴマ・エンデバーセルフアンローダー、およびHD現代尾浦造船のアルゴマ・イースト・コーストアイスクラスプロダクトタンカーが含まれている。

企業報告書とカナダ船舶登録簿によると、アルゴマは多くの新造船を国際的に登録している。カナダ船舶登録簿には、総トン数500トン以上のアルゴマのカナダ船籍船舶が32隻登録されており、そのうち25隻はカナダ国外で建造された。

図表 34 アルゴマのカナダ登録船舶



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツデータ作成

アルゴマは、脱炭素化への取り組みの一環として、クローズドループスクラバー、2023年と2024年に5隻の船舶でのバイオ燃料試験（ティム・S・ドゥール、アルゴマ・ガーディアン、ラドクリフ・R・ラティマー、アルゴマ・ディスカバリー、ジョン・D・レス向けの20～100%バイオ燃料を混合した船舶用ディーゼル燃料）に投資し、カナダ運輸省のグリーン海運回廊プログラムに参加している。

図表 35 アルゴマのグリーン海運回廊プログラム－クリーン船舶実証プロジェクト

プロジェクト概要	提供された 資金額
カナダのばら積み貨物船への風力支援推進システムの導入に関する実現可能性調査	125,000 カナダドル
メタノール燃料ばら積み貨物船のコンセプト設計を策定し、実現可能性調査を実施する。	125,000 カナダドル
アルゴマ社の船舶を陸上電源対応に改造することによる技術的・商業的実現可能性と排出削減効果を調査する。	97,500 カナダドル
バイオ燃料の影響の拡張性、経済的実行可能性、および環境パフォーマンスを研究します。	125,000 カナダドル
主な燃料貯蔵庫としてバージによって支えられたタグボートを備えた連結式タグボート・バージユニットの設計研究。	125,000 カナダドル

出典:カナダ運輸省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツデータ作成

アルゴマ セントラル コーポレーション 63 Church Street, Suite 600 St. Catharines, Ontario,
CANADA, L2R 3C4
電話番号: +1-905-687-7888

3.2 BCフェリー

ブリティッシュコロンビアフェリー局が所有するBCフェリー^{xxxii}は1960年に運航を開始し、現在は25の航路で47のターミナルにサービスを提供している。また、40隻近くの旅客フェリーと車両フェリーを所有し、毎年2,200万人以上の旅客と900万台の車両を輸送している。

図表 36 BCフェリーのカナダ登録船舶

船	造船所	造船所の 所在国	納入	総トン数
ベインズ・サウンド・コネクター	バンクーバー造船所	カナダ	2015	753
コースタル・セレブレーション	フレンスブルク造船所	ドイツ	2007	21,777
コースタル・インスピレーション	フレンスブルク造船所	ドイツ	2008	21,777
コースタル・ルネッサンス	フレンスブルク造船所	ドイツ	2007	21,777
アイランド・オーロラ	ダーメン	ルーマニア	2020	2,277
アイランド・ディスカバリー	ダーメン	ルーマニア	2020	2,277
アイランド・グワウイス	ダーメン	ルーマニア	2021	2,277
アイランド・クルタ	ダーメン	ルーマニア	2021	2,277
アイランド・クウィグウィス	ダーメン	ルーマニア	2021	2,277
アイランド・ナギリス	ダーメン	ルーマニア	2021	2,277
カーロック			1973	466
クリツァ			1972	345
クウナ			1975	347
マラピンサスカイ			2008	4,313
ノーザンアドベンチャー	アサラキス造船所	ギリシャ	2004	9,844
ノーザン・エクスペディション	フレンスブルク造船所	ドイツ	2009	17,729
ノーザン・シー・ウォルフ	パナギオタキス・ブラザーズ	ギリシャ	2000	2,695
プネー・ルクスト			1985	537
クアドラクイーンII	アライド造船所	カナダ	1969	936
クイーン・オブ・アルベルニ	バンクーバー造船所	カナダ	1976	5,863
クイーン・オブ・キャピラノ	バンクーバー造船所	カナダ	1991	2,885
クイーン・オブ・コキットラム	バラードドライドック	カナダ	1976	13,646
クイーン・オブ・カウチン	ヤロウズ・リミテッド	カナダ	1976	6,551
クイーン・オブ・カンバーランド	バンクーバー造船所	カナダ	1991	2,885
クイーン・オブ・ニューウ	ビクトリア・マシナリー・	カナダ	1964	8,786

エストミンスター	デポ			
クイーン・オブ・オーク・ベイ	バラード・ヤローズ	カナダ	1981	6,969
クイーン・オブ・サリー	バラード・ヤローズ	カナダ	1981	6,969
キニツァ	バンクーバー造船所	カナダ	1977	1,107
クインサム	バンクーバー造船所	カナダ	1982	1,458
サリッシュ・イーグル	レモントワ	ポーランド	2016	8,728
サリッシュ・ヘロン	レモントワ	ポーランド	2021	
サリッシュ・オルカ	レモントワ	ポーランド	2016	8,728
サリッシュ・レイヴン	レモントワ	ポーランド	2016	8,728
スキーナ・クイーン	アライド造船所	カナダ	1996	2,652
スピリット・オブ・ブリテイッシュ・コロンビア	統合フェリー建設会社	カナダ	1992	21,958
スピリット・オブ・バンクーバー・アイランド	統合フェリー建設会社	カナダ	1993	21,958
タチェック	アライド造船所	カナダ	1969	1,119

出典: BCフェリーとカナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

ダーメンは最近、ルーマニアの造船所でアイランド級フェリー10隻のうち最後の3隻を完成させる作業を開始した。調達プログラムは3段階に分かれており、第1段階で2隻、第2段階でディーゼル・電気ハイブリッドフェリー4隻、そして2027年までに完全電気船の4隻が就航する予定である。ダーメンは充電インフラも提供している。

2024年9月、BCフェリーはフェリーコミッショナーに対し、新大型船（NMV）プロジェクトの申請を提出した。NMVプロジェクトは、予測される人口増加に対応し、老朽化した船舶の代替を目的として策定された。このプログラムは3つの要素で構成されている。

- 中国の招商局威海造船所で、ディーゼル・バッテリーハイブリッド式のダブルエンド型Ro-Pax船4隻を建造し、2029年から2031年に引き渡し予定である。建造開始は2026年に予定されている。当初の申請は5隻だったが、4隻の承認が確定した。これらの新しいフェリーは、いずれも船齢50年を超えるクイーン・オブ・コキットラム、クイーン・オブ・ニューウエストミンスター、クイーン・オブ・カウチン、クイーン・オブ・アルバーニの4隻の代替船となる予定である。
- 当初の4隻の発注が完了した後、さらに2隻の両頭型Ro-Pax船を2033年までに発注し、2037年に引き渡し予定である。これらの新しいフェリーは、クイーン・オブ・オーク・ベイとクイーン・オブ・サリーの代替となる予定である。
- クイーン・オブ・サリーとクイーン・オブ・オーク・ベイの延命は、地元の造船所で実施される。

ブリテイッシュコロンビアフェリー

Suite 500-1321 Blanshard Street Victoria, BC

V8W 0B7

3.3 カナディアン・フォレスト・ナビゲーション・グループ(CANFORNAV)

1976年にモンリオールで設立されたCanfornavは、カナダ東部およびセントローレンス水路からヨーロッパや地中海への木材と紙の輸出を支援することから始まった。その後、同社は五大湖地域での存在感を拡大し、貨物を鉄鋼、穀物、その他のドライバルク製品へと拡大した。

同社はハンディサイズ船とレイカー船で自社所有およびチャーター船を運航している^{xxii}。カナダ船籍の船舶は1隻もない。Canfornavが所有する33隻の船舶のうち、31隻は中国の造船所で建造され、2隻は日本で建造された。

図表 37 Canfornavの船舶

名前	所有	船籍	納入	大きさ	DWT	全長 (m)
バフルヘッド	チャーター	パナマ	2022	ハンディサイズ	39,700	182.9
カルメ	所有	キプロス	2014	ハンディサイズ	35,906	179.9
クレスティ	所有	キプロス	2014	ハンディサイズ	35,977	179.9
エベレストK	所有	マーシャル諸島	2009	ハンディサイズ	35,065	169.17
ガドウォール	チャーター	マーシャル諸島	2024	ハンディサイズ	39,838	179.99
ガルガニー	チャーター	マーシャル諸島	2024	ハンディサイズ	39,830	179.99
ゴールドンアイ	所有	キプロス	2014	ハンディサイズ	35,949	179.9
ハルトラウブ	チャーター	パナマ	2024	ハンディサイズ	39,600	179.99
マーガンサー	チャーター	マーシャル諸島	2023	ハンディサイズ	39,700	182.9
マスキー	所有	マーシャル諸島	2014	ハンディサイズ	36,026	179.9
パポラ・ウィスタム	所有	パナマ	2009	ハンディサイズ	28,344	161.21
ピンテール	チャーター	パナマ	2021	ハンディサイズ	38,129	179.9
ポチャード	チャーター	マーシャル諸島	2023	ハンディサイズ	37,780	180
ルビナ	所有	ポルトガル	2018	ハンディサイズ	39,959	179.99
スコッター	チャーター	マーシャル諸島	2021	ハンディサイズ	38,270	179.9

名前	所有	船籍	納入	大きさ	DWT	全長 (m)
シルバー	チャーター	マーシャル諸島	2023	ハンディサイズ	37,359	179.9
スミュー	所有	キプロス	2014	ハンディサイズ	35,998	179.9
デーベ	所有	キプロス	2014	ハンディサイズ	35,988	179.9
ベルベツト	チャーター	マーシャル諸島	2021	ハンディサイズ	37,324	179.9
ホワイトウイング	チャーター	マーシャル諸島	2022	ハンディサイズ	37,359	179.9
ウッディ	チャーター	マーシャル諸島	2019	ハンディサイズ	37,359	179.9
イエロービル	チャーター	パナマ	2024	ハンディサイズ	39,583	179.99
アンディアン	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,770	185
バーナクル	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,803	185
ブラックー	所有	キプロス	2008	レイカーズ	30,802	185
ブルービル	所有	マーシャル諸島	2004	レイカーズ	37,332	199.85
ブラント	所有	キプロス	2008	レイカーズ	30,777	185
ケープ	所有	マーシャル諸島	2010	レイカーズ	30,689	186
チェスナット	所有	リベリア	2010	レイカーズ	30,810	185
シナモン	所有	マーシャル諸島	2003	レイカーズ	26,738	186.4
アイダー	所有	アンティグア・バーブーダ	2010	レイカーズ	29,653	189.67
グリーンウイング	所有	マーシャル諸島	2002	レイカーズ	26,722	186.4
ラブラドール	所有	キプロス	2010	レイカーズ	30,899	185
マコア	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,898	185
マンダリン	所有	マーシャル諸島	2003	レイカーズ	26,734	186.4
モトラー	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,807	185
プナ	所有	キプロス	2010	レイカーズ	29,975	190
レッドヘッド	所有	アンティグア・バーブーダ	2010	レイカーズ	29,724	190
ラディ	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,930	185
シャヴラー	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,928	185
スندا	所有	リベリア	2010	レイカーズ	30,692	186
トレント	所有	キプロス	2010	レイカーズ	30,890	185
タフティ	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,803	185

名前	所有	船籍	納入	大きさ	DWT	全長
ツンドラ	所有	キプロス	2009	レイカーズ	30,892	185
ウイスター	所有	マーシャル諸島	2007	レイカーズ	37,272	199.9
ウィジョン	所有	マーシャル諸島	2007	レイカーズ	37,249	199.9
ハーレクイン	チャーター	パナマ	2023	ハンディサイズ	40,636	182.93
ノース・オーシマ	チャーター	パナマ	2024	ハンディサイズ	40,093	182.93

出典:Canfornavからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

Canfornav

11 Grigori Auxentiou Street, Centro Imperio, 1st Floor Office 102 Mesa Geitonia, 4003 Limassol, CYPRUS

電話番号: +357 25 255521

Eメール: corporate@canfornav.com

3.4 カンパック・マリン・サービス

カンパック・マリン・サービスは、1965年の設立以来、バンクーバー港を拠点とし、沖合、沿岸、内陸の各分野において海洋支援サービスを提供してきた。同社はケーブル敷設・修理、ROVサービス、海洋建設、サルベージ、船舶修理のための潜水サービスなど、幅広い分野で事業を展開している。

2隻のケーブル敷設バージの引き渡し日は、バージの本来の引き渡し日ではなく、ケーブル敷設が追加された日を表していることに留意が必要である。

図表 38 カンパックのカナダ登録船舶

船	種類	造船所	造船所の所在国	納入	総トン数
カンパック・ヴァルキリー	MPSV	ウルシュタイン	ノルウェー	1991	2,775
カンパック・ヴァラー	MPSV	マスターボートビルダー	米国	2006	80
カンパック・ビクター	ケーブル敷設船	マッケンジーバージ・アンド・マリン	カナダ	2010	175
ジョージア・トランスポーター	上陸用舟艇	マッケンジーバージ・アンド・マリン	カナダ	-	142
カンパック・コネクタ	ケーブル敷設船	シーブリッジマリン・コントラクターズ	カナダ	2024	175
カンパック・ラッカス	上陸用舟艇	リップタイドマリン	カナダ	2019	1.8
カンパックレンジャー	上陸用舟艇	リップタイドマリン	カナダ	2018	1.8

出典:カンパック・マリン・サービスからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

カンパック・マリン・サービス

7-5 Senator Rd., North Vancouver, B.C. V7P 3H9

3.5 カナダ・スチームシップ・ライン

1845年創業のカナダ・スチームシップ・ライン（CSL）は、セルフアンローディング船、ばら積み貨物船、多目的プロダクト船、積み替え船、バージを保有している。CSLは、五大湖とセントローレンス水路、そして国際海運における沿岸および地域近海輸送を専門としている。

CSLによると、CSLは「セルフアンローダー船の世界最大の所有者および運航者であり、セメント運搬船の運航者としては世界第3位、そして高効率積み替えソリューションのリーダー」であるとしている。

図表 39 CSLの船舶^{xxxiii}

種類	アフリカ	南北アメリカ・カリブ海	アジア太平洋地域	ヨーロッパ	五大湖とセントローレンス水路	合計
バージ	4		2			6
セメント船			5	11	1	17
クレーン付きばら積み貨物船			1			1
クレーンなしばら積み貨物船					5	5
マルチプロダクト船	1	7		6		14
セルフアンローダー		18	3	10	12	43
積み替え船	6	1	4			11
タグボート	8					8
合計	19	26	15	27	18	105

出典: CSLからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

CSLの船舶のうち48隻は同社が100%所有しており、さらに57隻は合弁事業船である。

図表 40 所有者別CSL船舶

種類	CSL	合弁会社	合計
バージ	2	4	6
セメント船	5	12	17
クレーン付きばら積み貨物船	1		1
クレーンなしばら積み貨物船	5		5
マルチプロダクト船		14	14
セルフアンローダー	29	14	43
積み替え船	6	5	11
タグボート		8	8
合計	48	57	105

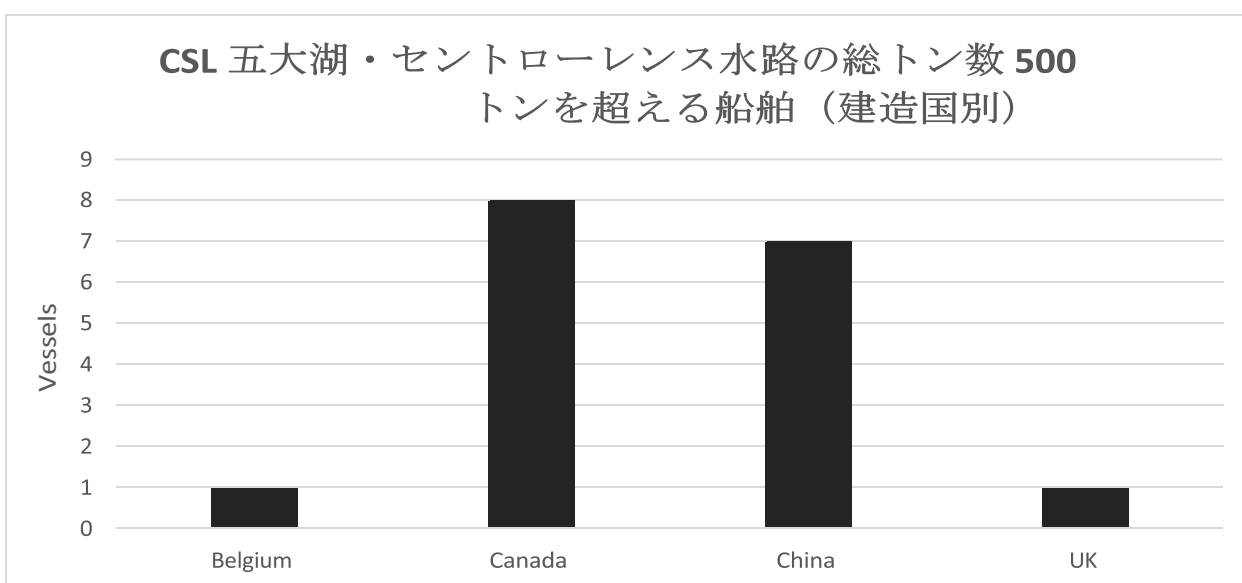
出典: CSLからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

2024年11月、CSL洋上風力ロジスティクスのパートナーシップであるCSL OWLは、欧州の洋上風力発電セクターを支援するため、全長166.8メートル、載貨重量約21,000トンの新造岩盤設置船2隻への投資を発表した。1隻目は2026年8月、2隻目は2026年11月に引き渡し予定である。

CSLは、ディーゼル電気式バッテリーハイブリッドレイカーの技術的実現可能性と設計を研究するため、連邦政府のグリーン海運回廊の基金から12万5000カナダドルを確保した。

CSLは現在、五大湖とセントローレンス水路システムで18隻の船舶を運航しており、そのうち12隻はセルフアンローダー、1隻はセメント船、5隻はクレーンなしばら積み貨物船である。カナダ船籍のレイカーのうち、半数強は海外で建造された。

図表 41 2024 年 CSLカナダ登録レイカーズ (建造国別)



出典:カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

レイカー船隊以外では、CSLの新造船の多くは主にアジアとヨーロッパの造船所で国際的に行われている模様である。

カナダ・スチームシップ・ライン

759 Square Victoria, 6th Floor Montreal, Quebec

Canada H2Y 2K3

電話番号: +1-514-982-3800

3.6 トロント市 (フェリー)

トロント市は2022年、15年間かけて既存の主要フェリー4隻を完全電気フェリーに置き換える計画を策定した。トロント市は年間140万人以上の乗客と5,000台の車両をトロント・アイランド・パークへ輸送している。

ダーメンは2024年末にトロント市から、ケベック州を拠点とする造船会社コンセプト・ナバルが設計し

た完全電気フェリー2隻を受注した。

フェリーサービスの責任がどの市役所にあるのかは明らかではない。

3.7 クリアウォーター・シーフード

クリアウォーター・シーフードは1976年にノバスコシア州で設立され、プレミアムブランドと先住民コミュニティが所有している。

同社は垂直統合型の会社となり、調査船1隻を含む自社船舶21隻を所有・運航し、北大西洋（カナダとスコットランド）とアルゼンチン大陸棚で漁業を行っている。

カナダに登録されている大型漁船7隻（総トン数500トン超）は、子会社のCSマンパーが所有している。

図表 42 CSマンパー 総トン数500トンを超えるカナダ登録漁船

種類	納入	建造国	総トン数
アン・リズリー	2010	ロシア	4,478
ベル・カーネル	2002	ノルウェー	4,325
アトランティックエンタープライズ	2002	ノルウェー	3,457
アークティック・エンデュランス	2000	ノルウェー	3,038
アトランティック・プリザーブ	1997	ドイツ	1,090
アトランティック・プロテクター	1997	ドイツ	1,090
ランデル・ドミノー	1988	フェロー諸島	599

出典:カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

クリアウォーターは、スコットランドの子会社であるマクダフ・シェルフィッシュを通じてホタテ貝収穫船団を運航しているほか、アルゼンチンのグレイシャー・ペスケラとの合弁事業を通じてホタテ貝収穫工船2隻を運航している。また、クリアウォーター・オーシャン・プラウンズ合弁事業を通じて、貝類の収穫、加工、冷凍を行う新造船2隻を運航している。

同社の海洋事業および新規建造計画に関する公開情報は極めて限られている。

3.8 クリッパー・ナビゲーション（フェリー）

クリッパー・ナビゲーションは、世界中で70隻以上のフェリーを所有・運航するドイツの海事会社FRSの子会社である。

クリッパー・ナビゲーションは、ブリティッシュコロンビア州ビクトリアと米国シアトル間を航行する双胴船「ビクトリー・クリッパーV」と、ホエールウォッチング用の双胴船「サンファン・クリッパー」の2隻を運航している。また、アイスクラスフェリー4隻も運航している。

3.8.1 FRSクリッパー

2701 Alaskan Way, Pier 69
Seattle, WA 98121
電話番号: 206-443-2560

3.9 コースト・マウンテン・バス・カンパニー (CMBC)

CMBCはバンクーバーにサービスを提供するトランスリンクの子会社である。バス事業が同社の中核事業であるが、CMBCはバラード湾を横断する旅客専用アルミ製双胴船であるシーバス4隻も運航していた。バラード・ビーバーとバラード・パシフィック・ブリーズはカナダのビクトリアで建造され、それぞれ1976年と2009年に納入され、後者はシースパンによって建造されました。バラード・オッターIIIは2014年にシンガポールで、バラード・チヌークは2019年にオランダのダーメンから納入された。

3.9.1 トランスリンク

400-287 Nelson's Ct.,
New Westminster, BC V3L0E7

3.10 コースタル・トランスポート

コースタル・トランスポートは、グランド・マナン (グランド・マナン・アドベンチャーとグランド・マナンV)、ホワイトヘッド・アイランド (カーフェリーのウィリアム・フランクランド)、ディア・アイランド (ジョン・E・リグビーとディア・アイランド・プリンセスII) に3つのサービスで5隻のフェリーを運航している。

現在、新造船の建造計画が進行中であるという情報はない。

3.10.1 コースタル・トランスポート・リミテッド

PO Box 20078
Saint John, New Brunswick Canada E2L 4S6
電話番号: +1-506-662-3724

3.11 DOFサブシーカナダ

2024年、ノルウェーのオフショア企業DOFはマースク・サプライ・サービスの買収を完了した。

DOFは、自社所有のスカンディ・ビンランドに加え、マースクとの取引を通じて買収したカナダ籍の大型アンカーハンドラー3隻 (スカンディ・クリッパー、スカンディ・カッター、スカンディ・モビライザー) を運航している。これらの船舶は、東海岸の石油・ガス分野で活動している。

マースクは2024年、カナダの石油会社セノバス・エナジーがニューファンドランド沖で開発するホワイトローズ油田向けのオフショア支援船を建造する契約を獲得した。全長110メートルのこの船はシードラゴンと名付けられ、ポーランドのクリストにて建造中で、2027年に引き渡しされる予定である。DP3アイスクラスの船体設計はMMCシップ・デザイン・アンド・コンサルティングが担当する。船の動力は、コングスベルグ製の1,000kWhバッテリーエネルギー貯蔵システムでサポートされるMAN 12V175D主機関6基で供給される。推進システムはフィンランドのステアプロップが担当する。セーフウェイはシーガル・ウォーク・トゥー・ウォーク・ギャングウェイ・システムを、パルフィンガー・マリンはアンカーハンドリングウインチおよび曳航ウインチと船尾ローラーを供給する。

3.12 フェドナブ

フェドナブは1944年に設立されたカナダの民間企業で、オーナーはパシー家である。

フェドナブは、カナダ北極圏および五大湖・セントローレンス水路システムを中心とした、大手外航ドライバルク船会社で、砕氷ばら積み貨物船を含むハンディサイズ、スプラマックス、ウルトラマックス船約120隻を所有または定期用船（長期および短期の定期用船）し、運航している。そのうち約65隻はフェドナブが所有している。フェドナブは、船舶をマーシャル諸島とパナマに登録している。

図表 43 フェドナブの船隊

名前	種類	DWT	納入	全長 (m)
アリタス	ハンディサイズ ノンレイカー	36,782	2011	186
アムステルタイガー	ウルトラマックス	60,454	2016	200
アルビクI.	砕氷ばら積み貨物船	30,323	2021	182
ベリスランド	ウルトラマックス	61,252	2016	200
セリーナ	多目的船	17,300	2008	143
クリッパーケイト	ウルトラマックス	63,607	2017	200
ドリームスカイ	ウルトラマックス	63,480	2019	200
フェデラル・アルスター	ハンディサイズレイカー	36,583	2016	200
フェデラル・アサヒ	ハンディサイズレイカー	36,563	2000	200
フェデラル・バルティック	ハンディサイズレイカー	34,564	2015	200
フェデラル・バレンツ	ハンディサイズレイカー	34,564	2015	200
フェデラル・ビューフォート	ハンディサイズレイカー	34,564	2015	200
フェデラル・ベーリング	ハンディサイズレイカー	34,564	2015	200
フェデラル・ビスケー	ハンディサイズレイカー	34,564	2015	200
フェデラル・ブリストル	ハンディサイズレイカー	34,564	2015	200
フェデラル・カリブー	ハンディサイズレイカー	34,564	2016	200
フェデラル・シダー	ハンディサイズレイカー	34,564	2016	200
フェデラル・シャンプレーン	ハンディサイズレイカー	34,564	2016	200
フェデラル・チャーチル	ハンディサイズレイカー	34,564	2016	200
フェデラルクライド	ハンディサイズレイカー	34,564	2016	200
フェデラルコロンビア	ハンディサイズレイカー	34,564	2016	200
フェデラル・ダーツ	ハンディサイズレイカー	34,492	2018	200
フェデラル・ディー	ハンディサイズレイカー	34,492	2018	200
フェデラルデルタ	ハンディサイズレイカー	34,492	2018	200
フェデラル・フランクリン	ハンディサイズレイカー	34,492	2021	200
フェデラル・フレイザー	ハンディサイズレイカー	34,492	2021	200
フェデラル・フリーダム	ハンディサイズレイカー	34,492	2021	200
フェデラル・フロンティア	ハンディサイズレイカー	34,492	2021	200
フェデラルハミルトン	ハンディサイズレイカー	34,763	2023	200
フェデラルハドソン	ハンディサイズレイカー	36,563	2000	200
フェデラルハンター	ハンディサイズレイカー	36,563	2001	200
フェデラル・イベルビル	ウルトラマックス	63,386	2018	200
フェデラル・イブキ	ウルトラマックス	63,386	2018	200
フェデラルアイコン	ウルトラマックス	63,640	2021	200
フェデラル・イリノイ	ウルトラマックス	63,386	2019	200
フェデラル・イマバリ	ウルトラマックス	63,449	2016	200
フェデラル・インパクト	ウルトラマックス	63,729	2022	200
フェデラル・インディアナ	ハンディサイズレイカー	34,763	2024	200
フェデラル・インダス	ウルトラマックス	63,458	2019	200
フェデラル・インフィニティ	ウルトラマックス	63,653	2024	200
フェデラル・イノコ	ウルトラマックス	63,480	2020	200
フェデラル・インスパイア	ウルトラマックス	63,693	2022	200

フェデラル・インテグリティ	ウルトラマックス	63,729	2023	200
フェデラルアイリス	ウルトラマックス	63,449	2016	200
フェデラルイズミ	ウルトラマックス	63,454	2020	200
フェデラル・カツラ	ハンディサイズレイカー	32,594	2005	190
フェデラル・キブネ	ハンディサイズノンレイカー	36,824	2012	178
フェデラル・キヴァリナ	ハンディサイズレイカー	36,563	2000	200
フェデラル・クドス	ウルトラマックス	63,812	2022	200
フェデラル・クマノ	ハンディサイズレイカー	36,489	2003	200
フェデラル・クシロ	ハンディサイズレイカー	32,762	2004	190
フェデラル・レクシー・ローズ	ハンディサイズレイカー	34,763	2025	200
フェデラル・マサムネ	ウルトラマックス	62,464	2021	200
フェデラル・マユミ	ハンディサイズレイカー	35,885	2012	200
フェデラル・ミシガン	ハンディサイズレイカー	34,763	2024	200
フェデラル・ミネソタ	ハンディサイズレイカー	34,763	2024	200
フェデラルモントリオール	ハンディサイズレイカー	34,492	2019	200
フェデラルモーゼル	ハンディサイズレイカー	36,575	2017	200
フェデラル・ナガラ	ハンディサイズレイカー	34,492	2018	200
フェデラル・ナカガワ	ハンディサイズレイカー	36,489	2005	200
フェデラル・ニューヨーク	ハンディサイズレイカー	34,763	2024	200
フェデラルオーク	ウルトラマックス	60,467	2020	200
フェデラル・オハイオ	ハンディサイズレイカー	34,763	2024	200
フェデラル・オオサカ	ウルトラマックス	60,467	2020	200
フェデラル・オオシマ	ハンディサイズレイカー	36,563	1999	200
フェデラル・パッション	ハンディサイズノンレイカー	42,692	2022	183
フェデラル・パワー	ハンディサイズノンレイカー	42,692	2022	183
フェデラル・プレスティージ	ハンディサイズノンレイカー	42,701	2023	183
フェデラル・プライド	ハンディサイズノンレイカー	42,686	2023	183
フェデラルプライム	ハンディサイズノンレイカー	42,696	2023	183
フェデラル・ルール	ハンディサイズレイカー	36,575	2017	200
フェデラルセーブル	ハンディサイズノンレイカー	37,169	2012	190
フェデラルサクラ	ハンディサイズレイカー	32,583	2005	190
フェデラルサツキ	ハンディサイズレイカー	35,885	2012	200
フェデラル・セット	ハンディサイズレイカー	36,489	2004	200
フェデラル・セバーン	ハンディサイズノンレイカー	37,169	2012	190
フェデラル・シメント	ハンディサイズレイカー	32,787	2001	190
フェデラル・スキーナ	ハンディサイズノンレイカー	37,168	2012	190
フェデラルスカイ	ハンディサイズノンレイカー	37,140	2012	190
フェデラル・スペイ	ハンディサイズノンレイカー	37,140	2012	190
フェデラルスプルース	ハンディサイズノンレイカー	37,141	2012	190
フェデラル・サンローラン	ハンディサイズレイカー	34,492	2019	200
フェデラル・サットン	ハンディサイズノンレイカー	37,140	2012	190
フェデラル・スイフト	ハンディサイズノンレイ	37,141	2012	190

	カー			
フェデラル・タカセ	スープレマックス	55,178	2016	190
フェデラル・タンボ	スープレマックス	55,160	2013	190
フェデラルサンダーベイ	ハンディサイズレイカー	34,763	2023	200
フェデラル・デヴェレ	スープレマックス	55,160	2013	190
フェデラル・トコロ	スープレマックス	55,543	2015	190
フェデラル・トライデント	スープレマックス	55,178	2016	190
フェデラルツイード	スープレマックス	55,317	2013	190
フェデラルタイン	スープレマックス	55,160	2014	190
フェデラルウェランド	ハンディサイズレイカー	36,563	2000	200
フェデラル・ウィリアム・ホール	ハンディサイズレイカー	34,763	2025	200
フェデラル・ウィスコンシン	ハンディサイズレイカー	34,763	2024	200
フェデラル・ヤマスカ	ハンディサイズノンレイカー	37,153	2013	180
フェデラル・イエローストーン	ハンディサイズノンレイカー	37,153	2013	180
フェデラル・ユキナ	ハンディサイズレイカー	35,868	2010	200
フェデラル・ユーコン	ハンディサイズレイカー	36,563	2000	200
ロッホ・クリナン湖	スープレマックス	56,108	2013	190
メープルハーベスト	ウルトラマックス	64,282	2021	200
メープルアイランド	ハンディサイズノンレイカー	40,521	2025	183
モーニングオーキッド	ハンディサイズノンレイカー	37,340	2019	180
ヌナビク	砕氷ばら積み貨物船	31,754	2014	189
RBディラン	スープレマックス	56,129	2012	190
スパーノーマ	ウルトラマックス	63,165	2017	200
スパーピクシス	ウルトラマックス	63,267	2015	200
スプリング・スカイ	ウルトラマックス	61,413	2014	200
サマー・スカイ	ウルトラマックス	63,415	2017	200
ウミアックI	砕氷ばら積み貨物船	31,992	2006	189
ユニティライフ	ウルトラマックス	63,482	2017	200
ユニティスピリット	ウルトラマックス	60,552	2015	200
ベクティス・プライド	多目的船	11,183	2012	124
ベクティス・プログレス	多目的船	11,183	2012	124

出典:フェドナブからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

フェドナブは大島造船所と緊密な関係を築いており、2015年から2021年にかけて34,500 dwtのドライバルク船22隻を引き渡しされた。

住友商事は、ジャパンマリンユナイテッド（JMU）へのポーラークラス4砕氷ばら積み貨物船3隻の発注にも関与しており、ウミアックIIは2006年に、ヌナビクは2014年に、そしてアルビクIIは2021年にそれぞれ納入された。

フェドナブは、一部の法定検査作業および修理ドッキングについてはカナダの造船所を選択している。これには、2024年にケベック州オーシャングループ傘下のヴェロー造船所で実施のウミアックIのドライドッキングが含まれる。

フェドナブは、GHG排出量削減のための5つの戦略を策定しており、2050年頃までにGHG排出量を実質ゼロにするというIMOの戦略、そして2030年までに代替燃料の導入率を5%、そして2030年までにGHG総排出量を20%、2040年までに70%削減するという中間目標にも合致している。

図表 44 フェドナブのGHG削減プログラム

戦略	プロジェクトの種類
船舶のエネルギー効率的な運航と船上エネルギー効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> • 五大湖の特定海域における減速。 • 自社所有およびチャーター船に水中検査ドローンを装備し、船体付着物の検査と対応を行う。 • 塗料サプライヤーのサフィナと協力して、塗料の選定と検査を支援する。
フリート更新プログラム	<ul style="list-style-type: none"> • 大島造船所から新型エコレイカー10隻納入。 • 新船が艦隊に加わるにつれ、フェドナブは一部の古い船を解撤しており、最近では少なくとも1隻がトルコの造船所で解体された。
デジタルソリューション	<ul style="list-style-type: none"> • 船上データの取得、通信、管理に関する具体的な戦略の策定。 • 航海計画と最適化。
「グリーン」技術の研究	<ul style="list-style-type: none"> • 風力補助推進。フェドナブは英国のカリスブルック シッピングと提携し、2025年初頭に全長112メートルの多目的船ベクティス・プログレスでGTウィングスエアウィングを試験。 • 新造船向け空気潤滑システムの研究
顧客と協力して再生可能燃料の消費量を増やす	<ul style="list-style-type: none"> • フェドナブは、アンモニアとメタノールをベースとしたソリューションは、現在の自社の船隊および貿易プロファイルには実用的ではないと結論付けた。 • フェドナブはバイオ燃料の試験を実施し、一部顧客にバイオ燃料を提供している。 • グリーン海運回廊プログラム・プロジェクト：フェドナブは、1) ばら積み貨物船への燃料電池発電システムの設置に関する調査、2) ばら積み貨物船へのバッテリーエネルギー貯蔵システムの設置に関する調査、3) ばら積み貨物船への風力補助推進システムの設置（エアウィング試験を想定）のために、37万5,000カナダドルを確保した。 • 国際電気機械委員会を通じて、世界標準の陸上電源接続の開発を支援。
<p>出典:フェドナブからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・レポート作成</p> <p>フェドナブ 1000 De La Gauchetière Street West, Suite 3400, Montreal, Quebec, H3B 4W5 Canada 電話番号: +1-514-878-6500</p>	

3.13 フロンテナック・ハウ・アイランダー・フェリー

2004年に建造されたケーブルフェリーは、オンタリオ州運輸省が所有し、フロンテナック郡が運営している。

フロンテナック・ハウ・アイランダー・フェリー
2 Howe Island Ferry Road RR# 2 Kingston, Ontario K7L 4V1
電話番号: 613 542-4959

3.14 ブリティッシュコロンビア州政府

BCフェリーが州の沿岸フェリーサービスを運営している一方、ブリティッシュコロンビア州は州内の内陸水路で14隻の小型フェリー（多くの場合、ケーブルフェリーまたはリアクションフェリー）も運航している。9航路は運輸インフラ省と締結した2028年までの管理契約に基づき管理されている。5航路は州道維持管理契約を通じて管理されている。

フェリーサービスの責任がどの州政府機関にあるのかは明らかではない。

3.15 ニューブランズウィック州政府

同州は10隻の小型カーフェリーと旅客フェリーを運航している。

3.16 ノースウェスト準州政府

準州政府は、高速道路網の一部として川を渡るための4つの小型フェリー（ルイ・カーディナル、エイブラハム・フランシス、ラファティ、ジョニー・ベレンス）を運航している。

3.17 ノバスコシア州政府

州の公共事業局は、州の高速道路網内で7隻のフェリー（4隻のケーブルフェリーと3隻の外洋航行自走フェリー）を運航している。

3.18 オンタリオ州政府

オンタリオ州は、グレノーラとウルフ島のフェリーサービスを独自の名前で運航しており、オーウェン・サウンド・トランスポートーションとの管理契約を通じて、ペリー島、チ・チーマウン、ニスカのフェリーを運航している。

オーウェン・サウンド・トランスポートーション・カンパニー

1921年に設立されたオーウェン・サウンド・トランスポートーション・カンパニーは、1960年に建造されたペリー・アイランダー（オンタリオ州エリオ造船所）、ペリー・アイランドII（チリのアセナフ造船所から2019年に納入）、チ・チーマウン（オンタリオ州コリングウッド造船所で1974年に建造）、ニスカ1（シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所から2010年に納入）を運航している。

オーウェン・サウンド・トランスポートーション・カンパニー
717875, Hwy 6
Owen Sound, Ontario, N4K 5N7電子メール : info@ontarioferries.com

3.19 マニトバ州政府

同州は9隻の小型フェリーを所有しており、そのほとんどが老朽化した小型フェリーである。

図表 45 マニトバ州のフェリー船隊

船	造船所	造船所の 所在国	納入
チャールズ・ロバート	プリブスナブコン造船所	カナダ	1977
ジョー・キーパー	リバートンボートワークス	カナダ	1977
エドガー・ウッド	リバートンボートワークス	カナダ	1958
ジェームズ・アペタゴン	リバートンボートワークス	カナダ	1977
インゲマー・カールソン	再生可能資源・交通局	カナダ	1977
アルフレッド・セッティ ー・シニア	リバートンボートワークス	カナダ	1982
インゲマール・カールソンII	リバートンボートワークス	カナダ	1977
ジョニー・ポール	M&Tファブリケーター	カナダ	2004
ギルバート・ラウアー	キネティックマシンワークス株式 社	カナダ	2016

出典: マニトバ州政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

3.20 サスカチュワン州政府

同州は小型（主にケーブル）フェリー12隻と河川横断用のバージ1隻を運航している。

3.21 グリーンライン・マリン

グリーンラインは、150人乗りの全電気フェリー2隻を建造し、2027年にバンクーバーに納入する計画である。船舶の設計はBMTが担当している。グリーンライン・マリンは、シンガポールの造船所を選定したと発表した。船舶用バッテリーはコルバス・エナジーが供給し、システムインテグレーターにはバルチラが選定された。充電は、1.8MWの放電能力を持つ32メートルの充電バージ3隻によって行われる。

Eメール: info@greenlineferries.com

3.22 ハリファックス・トランジット

ハリファックスの市政府は、2つの小型フェリーサービスを運航している。

3.23 ホライゾン・マリタイム・サービス株式会社

カナダとノルウェーで事業を展開するホライズンは、過酷な深海におけるアンカーハンドリング業務のスペシャリストである。

同社は、世界最大級のアンカーハンドラーである2016年建造の307トンの牽引力を持つホライズンアークティック（VARD プラットヴァーグで建造され、2019年にバーボンから購入）、UT 717 PSV ホライズンドラゴン（2024年にアイランドオブショアから購入）、砕氷船ポーラープリンス、耐氷性小型タグボート3隻、ホライズン・グレイシャー（2014年ケベック州GFFMルクレールで建造）、ホライズン・チヌーク（全長12メートル、900馬力のタグボートで、ケベック州メリディアン・マリタイムで建造され、2019年に納入）、ホライズン・オーロラ（ケベック州GFFMルクレールで建造）など、カナダ船籍の船舶6隻を保有している。

ホライズンは2022年に全長102メートルのMPSVホライズン・スターをオーストラリア国防軍に売却した。ホライズン・マリタイムは新造船の建造ではなく、船舶の売買を行ってきた実績がある。

ホライズンは、連邦政府のグリーン海運回廊プログラムを通じて、低炭素およびゼロ炭素技術の評価を支援し、ネットゼロの多目的船舶に最適な設計を決定するために、12万5,000カナダドルの資金を確保した。

ホライズンは、KOTUG カナダの合弁会社を通じて主にカナダ西部で事業を展開している。

ホライズン・マリタイム・サービス株式会社
87 Water Street, St. John's, Newfound & Labrador
A1C 1A5, Canada
電話番号:+1-709-757-0183
Eメール: info@horizonmaritime.com

3.24 ホーンブローワー・ナイアガラ・クルーズ

米国グループ、ホーンブローワーの子会社である同社は、ナイアガラ公園委員会との30年契約に基づき、700人乗りのフェリー2隻を運航していた。フェリーはナイアガラワンダーとナイアガラサンダーで、いずれも2014年にオンタリオ州のハイクメタル・プロダクツから引き渡しされた。

3.25 ハロー

バンクーバー島フェリー会社のブランドであるハロー (Hullo) は、ブリティッシュコロンビア州のジョージア海峡を横断し、バンクーバーとナナイモの間を運航する高速4エンジン双胴船フェリーを2隻を運航している。これらのフェリーはスプヘルズとストウキと命名され、ダーメンのベトナム造船所で建造され、2024年に引き渡しされた。

3.26 J.Dアーヴィンググループ企業

アトランティック・トーイングとハーバー・デベロップメントは、アーヴィング造船所と修理工場を含むJ.D.アーヴィンググループの一員である。アトランティック・トーイングまたはハーバー・デベロップメントが所有する船舶は45隻近く確認されている。

J.D.アーヴィング
P.O. Box 5777, 300 Union St. Saint John, New Brunswick E2L 4M3, Canada
電話:+1-506-632-7777

3.26.1 アトランティック・トーイング

アトランティック・トーイングはニューブランズウィック州セントジョンに拠点を置き、カナダ国内および海外で事業を展開する港湾・沿岸曳航およびオフショアサービス会社である。同社の大型オフショア船舶は、カナダ東海岸の石油・ガス分野で活躍している。

図表 46 アトランティック・トーイングのカナダ登録オフショア船舶

船	造船所	船種	造船所の 所在国	納入	総トン数
アトランティック・イーグル	アーヴィング	AHTS	カナダ	1999	3,157
アトランティック・キングフィッシャー	アーヴィング	AHTS	カナダ	2002	3,453
アトランティック・オスプレイ	アーヴィング	AHTS	カナダ	2003	3,453
アトランティック・レイヴン	オルスコフ	AHTS	デンマーク	1999	2,981
アトランティック・チョウゲンボウ	ジャヤ	AHTS	シンガポール	2012	6,186
アトランティック・マーリン	ジャヤ	AHTS	シンガポール	2014	6,186
ポール・A・サクタ	ダーメン	MPSV	オランダ	2017	6,422
アトランティック・シュライク	ダーメン (船体)、 ハリファックス・シド (艀装)	PSV	オランダ カナダ	2017	6,053
アトランティック・ヘロン	ダーメン (船体)、 ハリファックス・シド (艀装)	PSV	オランダ カナダ	2017	6,053
アトランティック・グリフォン	ダーメン (船体)、 ハリファックス・シド (艀装)	PSV	オランダ カナダ	2017	6,053

出典:アトランティック・トーイングからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

2025年6月、アトランティック・トーイングは、2012年に建造されたAHTSアトランティック・ケストレルをスウェーデンのバイキング・サプライシップ（ベン・バイキングに改名予定）に売却することを発表した。

アトランティック・トーイングは、10隻の大型オフショア船に加え、ロバート・アレン設計の港湾・沿岸曳航タグボート16隻、作業船2隻、そしてフラットデッキ貨物輸送バージ4隻を所有・運航している。

アトランティック・トーイング
300 Union Street, 2nd Floor
Saint John, New Brunswick, E2L 4M3, Canada
電話:+1-506-648-27

3.26.2 ハーバー・デベロップメント

ハーバー・デベロップメントは、カナダにおける海洋建設・浚渫事業に注力しており、浚渫船、バージ、作業船、タグボート、クレーンを運航している。

カナダ船舶登録簿によると、ハーバー・デベロップメントはカナダ登録船舶10隻を所有しており、そのうち3隻はバージ、3隻はOSV/作業船、4隻はタグボートである。2隻（クレーン付きバージ1隻と作業船1隻）を除く全船が500総トン未満である。

ハーバー・デベロップメント
 380 Bayside Drive
 Saint John, New Brunswick Canada
 E2J 4Y8
 電話番号: +1-506-632-7777

3.27 コタグ・カナダ

コタグ (KOTUG) ・カナダは、オランダのコタグ (KOTUG) インターナショナルとカナダのホライズン・マリタイム・サービス株式会社が2019年に設立したターミナルおよび港湾曳航事業の合弁会社である。

同社は、トランス・マウンテン拡張プロジェクト (TMEP) 契約に基づき、ブリティッシュコロンビア州バーナビーのウェストリッジ・マリン・ターミナルから出港するタンカーに対し、タンカー護衛曳航サービスを提供している。現在、このサービスは、ロバート・アランが設計しトルコのサンマルで建造された、115トンの牽引力を持つ二元燃料メタノール護衛タグボート2隻 (SD アイセマットとSD クウィー・アーク・サラ) に先行して提供されている。納入は2025年半ばを予定している。

コタグ・カナダはまた、ウエスタン・カナダ・マリン・レスポンス・コーポレーション (WCMRC) との契約に基づき、セイリッシュ海、ハロ海峡、ファン・デ・フカ海峡の支援のため、2008年に建造された207トンの牽引力を持つアンカーハンドラー K.J. ガドナーも提供している。

コタグ・カナダ
 4909 East Sooke Road Sooke, British Columbia
 V9Z 1C2, Canada
 電話番号: +1 250 252 3558

3.28 ローワーレイクス・トーイング

1994年に設立されたローワーレイクス・トーイングは、米国に拠点を置くランド・ロジスティクス株式会社の傘下企業である。同社は、老朽化したセルフアンローディングばら積み貨物船5隻と従来型ばら積み貨物船2隻を五大湖で運航している。ローワーレイクス・トーイングは、さらに10隻の船舶を運航する米国の姉妹会社グランド・リバー・ナビゲーションと統合している。

ローワーレイクス・トーイングの船は全てカナダ船籍である。

図表 47 ローワーレイクス・トーイングの船隊

種類	名前	建造年	造船所	造船所の所在国	総トン数
セルフアンローディングばら積み貨物船	カヤホガ	1943	アメリカン・シップビルディング・カンパニー	米国	10,532
セルフアンローディングばら積み貨物船	マニトウーリン	1983	ウルジャニク	クロアチア	19,570
セルフアンローディングばら積み貨物船	ミチピコテン	1952	ベツレヘム スパローズ ポイント造船所	米国	15,366

セルフアンローディング ばら積み貨物船	ロバート・S・ ピアソン	1974	アメリカン・シップ ビルディング・カン パニー	米国	12,792
セルフアンローディング ばら積み貨物船	サギノー	1953	マニトワック	米国	14,066
従来型ばら積み貨物船	カミニステイ クア	1983	ゴバン	英国	22,388
従来型ばら積み貨物船	オジブウェイ	1952	ベイシティ	米国	12,296

出典: ローワーレイクス・トーイングおよびカナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

同社の7隻の船舶のうち、オジブウェイ1隻のみが、2005年に再建されたと登録されている。

ローワーレイクス・トーイング
517 Main Street
Port Dover, ON N0A 1N0, Canada
電話:+1-519-583 0982

3.29 リーウェイ・マリン

リーウェイ・マリンは、オフショア調査、オフショア支援、過酷環境サービスをサポートしている。同社はカナダ船籍の船舶4隻を所有し、セントビンセントおよびグレナディーン諸島に登録された海洋調査船ノーチラスを管理している。

同社は、1976年に建造された全長37メートルのアルミ製海洋調査船リーウェイ・オデッセイ、全長23メートルのアルミ製水路・音響調査支援双胴船ノーバス（2010年にドイツのアベキング・アンド・ラスマッセンから引き渡し）、高速で全長22メートルの複合材製近海調査支援船リーウェイ・ストライカー（米国製）、そして全長7メートルのリーウェイ・ベンチャー（ノバスコシア州建造）を所有している。

リーウェイ・マリン
Suite 106, 120 Western Pkwy Bedford, Nova Scotia
B4B 0V2
電話番号: +1-902-442-4654

3.30 マリン・トランスポート・サービス

2017年からノースウエスト準州政府によって運営されているマリン・トランスポート・サービス（MTS）は、マッケンジー川沿岸地域および西北極圏沿岸地域にデッキカーゴと石油製品を輸送している。

MTSは8隻の浅喫水貨物船を運航しているが、船舶の詳細はカナダ船舶登録簿や会社情報には記載されていない。

マリン・トランスポート・サービス Terminal "C" Freight Yard 42003 Mackenzie Highway Hay River,
Northern Territories
電話番号: +1-867-874-2023

3.31 マッキール・マリン

1956年に設立されたマッキール・マリンは、五大湖、セントローレンス水路、東海岸、そしてカナダ北極圏でサービスを提供している。同社は48隻の船舶を運航しており、内訳はドライバルク船9隻、タンカー4隻、バージ約20隻、タグボート16隻である。同社の成長の大部分は、船舶の売買によってもたらされた。

図表 48 マッキール・マリンの船隊

船	建造年	再建造年	種類	総トン数	長さ(m)	造船所	造船所の所在国
グローバータウン・スピリット	2012		バージ	2,073	71.28	ダーメン造船所	オランダ
ヒューロンスピリット	1995		バージ	4,542	100.00	江都造船所	中国
ジャッキアップ50	1959		バージ	84	17.07	ラッセル・ヒップウェル	カナダ
ジャッキアップ600	1939		バージ	217	28.38	ミュア・ブラザーズ・ドライドック	カナダ
MM110	2013		バージ	409	32.79	江蘇省揚子造船	中国
MM 111	2013		バージ	409	32.79	江蘇省揚子造船	中国
MM 140	2013		バージ	625	41.38	江蘇省揚子造船	中国
MM 141	2013		バージ	542	42.14	江蘇省揚子造船	中国
MM 142	2013		バージ	542	42.14	江蘇省揚子造船	中国
MM 143	2013		バージ	542	42.14	江蘇省揚子造船	中国
MM 161	2010		バージ	706	46.82	ラッドサービス	米国
MM 170	2013		バージ	850	49.45	江蘇省揚子造船	中国
MM 180	2013		バージ	824	52.90	江蘇省揚子造船	中国
MM 182	1990		バージ	854	52.67	エクイタブル・エクイップメント	米国
MM 220	2013		バージ	1,178	64.51	江蘇省揚子造船	中国
MM ニューファンドランド	2011		バージ	2,165	76.08	シグナルインターナショナル	米国
ナイアガラスピリット	1984		バージ	9,164	99.10	FMC株式会社 海事・鉄道機器部門	米国
ヌナブトスピリット	1983		バージ	6,076	116.50	FMC株式会社 海事・鉄道機器部門	米国
ヴィアトゥールの精神	2004		バージ	253	43.03	ポートウェラー・ドライドック	カナダ
ブレア・マッケイル	2010		ドライバルク	9,286	134.74	トゥズラ造船所	トルコ
エバンス・スピリット	2007		ドライバルク	9,286	134.74	KNS	オランダ
フィレンツェ・スピリット	2004		ドライバルク	8,935	126.88	旭洋造船	日本
ハーベストスピリット	2012		ドライバルク	11,907	152.50	セフィネ造船所	トルコ
キャシー・マツ	1998	2025	ドライ	15,366	179.3	澄西船舶修造廠	中国

ケイル			バルク		3		
ランバート・スピリット	1968		ドライバルク	5,662	120.00	エイボンデール造船所	米国
マッケイル・スピリット	2007		ドライバルク	9,472	137.74	ロイヤル・ニエステル・サンデル	オランダ
ノーザンベンチャー	1998	2023	ドライバルク	12,542	154.98	新来島どつく	日本
アルエット・スピリット(ATBバージ)	1969	2005	ドライバルクバージ	10,087	129.59	ガルフポート造船所	米国
アトランティック・スピリット	2011		液体バルク	13,239	161.68	舟山造船所	中国
ヒンチスピリット	2009		液体バルク	8,638	16.77	セラハッティン・アスラン	トルコ
ノーザンスピリット	2011		液体バルク	13,239	161.70	舟山造船所	中国
ウィッキー・スピリット	2008		液体バルク	8,638	136.77	トゥズラ造船所	トルコ
ビバリーMI	1993		タグボート	450	32.75	今村造船所	日本
ドーバー・スピリット	1998		タグボート	83	19.81	ドーバークラフトマリン	カナダ
エコッセ	1979		タグボート	143	23.50	ハイクメタル・プロダクツ	カナダ
ジャレット・M	1945		タグボート	96	23.13	ラッセルブラザーズ	カナダ
ジョン・D			タグボート				
レナード・M	1986		タグボート	490	33.53	マクテイ・マリン	イングランド
ロイス・M	1991		タグボート	453	32.83	松浦鉄工所	日本
モリー・M・I	1962		タグボート	207	27.61	デイビー造船	カナダ
シーハウンド	1941	1999	タグボート	58	18.90	エクイタブル・エクイップメント	米国
シャロン・M・I	1993		タグボート	450	32.75	今村造船所	日本
ストーモント	1953		タグボート	107	22.98	カナディアンドレッジ&ドック	カナダ
ティム・マッケイル	1991		タグボート	453	32.83	松浦鉄工所	日本
Vac	1942	1981	タグボート	36	16.83	ジョージ・ギャンブル	カナダ
ビジラントI	1944		タグボート	111	23.41	ラッセル・ブラザーズ	カナダ
ウィルフ・シーモア(ATBタグ)	1961	2005	タグボート	442	34.46	ガルフポート造船所	米国
ワイアットM	1948	1999	タグボート	109	24.52	ラッセル・ブラザーズ	カナダ

出典: マッケイル・マリンおよびカナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

グループの姉妹会社であるオンタリオ造船所は、3つの造船所を運営している。

マッキーール・マリン
1001 Champlain Ave, Suite 401 Burlington, Ontario, L7L 5Z4
電話: +1-905-528-4780

3.32 マーギー・シーフード

1964年に設立されたマーギーは、民間の水産会社で、4隻の大型漁船を所有している。4隻は、2002年にノルウェーのウモエで建造された総トン数3,423トンのマーギー・フェニックス、1988年にノルウェーのヴァード（VARD）で建造された総トン数2,337トンのマーギー・ベンチャー、2005年にカナダのイーストアイル造船所で建造された総トン数580トンのフォーチュン・レディ、そして1963年にケベック州ローゾンで建造され、1995年と2023年に再建された総トン数310トンのマーギー・セブンである。

マーギーは2019年にスコシア・ハーベストの株式を取得した。スコシア・ハーベストは、主に総トン数250トン未満の小型船舶を8隻保有しており、そのうち6隻は1993年から2006年にかけてケベック州のテリオール・アンド・サンズで建造された。

マーギーはノバスコシア州のマーギー・マリンとシェルバーン・シップ・リペアという2つの船舶修理会社も所有している。

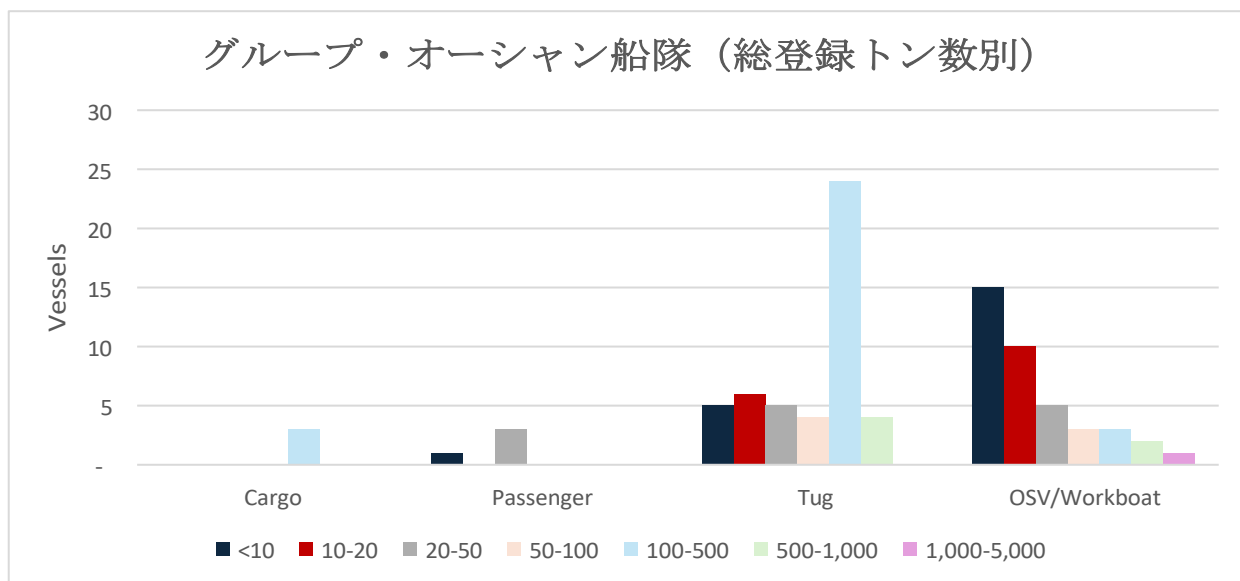
マーギー・シーフードは最近、大型沖合漁船向けの低炭素/ゼロ炭素燃料と技術の活用を研究するため、連邦政府のグリーン海運回廊プログラムから12万5000カナダドルの資金を獲得した。

マーギー・シーフード
26 Bristol Avenue, PO Box 1290 Liverpool, Nova Scotia
BOT 1K0
902-354-3467

3.33 オーシャン

グループ・オーシャンは1972年に設立され、港湾曳航、海上輸送、浚渫、バージおよび作業船のレンタル、海上曳航および救助、造船、商船および海軍艦艇の修理など、多様な海洋事業を展開している。

図表 49 グループ・オーシャンのカナダ登録船隊



出典:カナダ船舶登録局からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

同社のカナダ籍船のうち87隻はカナダで建造された。タグボート4隻は海外で建造され、フィンランド、ノルウェー、英国、米国でそれぞれ1隻ずつ建造された。OSV/作業船3隻もカナダ国外で建造された。

カナダ籍船のうち7隻は、総登録トン数500トン以上である。

図表 50 グループ・オーシャンの総登録トン数500トンを超えるカナダ登録船隊

名前	納入	種類	造船所	造船所の所在国	総トン数
オーシャン・アークティーク	200 5	タグボート	アーヴィング造船	カナダ	512
オーシャンバスク2	194 7	OSV/作業船	インダストリーズ・オーシャン	カナダ	515
オーシャンボロミーヴェロー	195 2	OSV/作業船	セントジョンドライドック	カナダ	647
オーシャンタイガ	201 6	タグボート	インダストリーズ・オーシャン	カナダ	719
オーシャントラバースノース	201 2	OSV/作業船	インダストリーズ・オーシャン	カナダ	1,165
オーシャンツンドラ	201 2	タグボート	インダストリーズ・オーシャン	カナダ	719
メガ	197 5	タグボート	バルチラ	フィンランド	768

出典:カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

オーシャン
105 Abraham-Martin St., # 500, Québec, QC
Canada G1K 8N1
電話: +1-418 694-1414

3.34 オーシャネックス

オーシャネックスはニューファンドランド・ラブラドール州と共同で貨物輸送を行っている。オーシャネックスは2隻のRoRo船と1隻のリフトイン・リフトオフ船を運航している。

図表 51 オーシャネックスの総登録トン数500トンを超えるカナダ登録船隊

名前	納入	船種	造船所	造船所の所在国	総トン数
オーシャネックス・コナイグラ	2013	貨物	フランネルバーガー	ドイツ	26,786
オーシャネックス・アバロン	2004	貨物	JJシエタス	ドイツ	14,639
オーシャネックス・サンダーリング	1977	貨物	佐世保重工	日本	21,849

出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

最近のグリーン海運回廊の資金提供発表において、オーシャネックスは船舶運航をサポートするための陸上電力アップグレードの実現可能性調査を支援するため、12万5,000カナダドルを確保した。

オーシャネックス
Suite 701, Baine Johnston Centre 10 Fort William Place
St. John's NL A1C 1K4
電話: +1-709 758-0382

3.35 RGJコンストラクション

RGJ コンストラクションは1991年に設立され、海洋建設および重土木建設分野で事業を展開している。同社はニューファンドランド州セントジョンズに拠点を置いている。

同社は、1975年に建造されたAHTS ジム・キルバック（バンクーバー建造）、1974年に建造された多目的タグボートキークティン（バンクーバーのヤーロウ造船所で建造）、そして1987年に建造されたタグボートリングウッドの3隻のカナダ船籍の船舶を所有・運航している。

RGJコンストラクション
162 Duckworth Street, Suite 300 St. John's, Newfoundland
電話:+1-709-753-5229

3.36 シースパン・マリン

3.36.1 タグボートとバージ

シースパン・マリンは、「カナダ西海岸で最大かつ最も多様なタグボート・バージ会社であり、年間2,500隻以上の船舶支援・護衛サービスを提供している。また、100隻を超える特殊用途および汎用バージ船を保有する船隊は、ブリティッシュコロンビア州の多くの大規模産業や主要な海洋建設プロジェクトにとって重要な輸送手段となっている。」としている。シースパンは、バンクーバー、ビクトリア、プリンス・ルパートの各港に寄港する船舶にサービスを提供している。シースパンは、主にロバート・アレン設計のカナダ籍タグボート24隻を所有・運航している。

図表 52 シースパンのカナダ登録タグボート

タグタイプ	名前	BHP	牽引力 (トン)	建造 年	造船所	造船所 の所在 国
外洋タグ	シースパンレイダー	3,600	46	2006	ベルジャヤ造船 所	マレー シア
外洋タグ	シースパンローグ	3,600	46	2007	ベルジャヤ造船 所	マレー シア
沿岸タグ	シースパンコマンダー	1,700	26	1970		
沿岸タグ	シースパンキャバリア	1,800	24	1975		
沿岸タグ	シースパンコルセア	1,800	26.2	1975		
沿岸タグ	シースパンカトラス	1,800	28.5	1975		
沿岸タグ	シースパンプロテクター	1,000	19.7	1974		
シップアシ スト	シースパンイーグル	5,000	70	2011		
シップアシ スト	シースパンファルコン	3,100	40.9	1993		
シップアシ スト	シースパンホーク	3,100	41	1993		
シップアシ スト	シースパンケストレル	6,300	80	2011	ジェムサン	トルコ
シップアシ スト	シースパン・オスプレイ	6,300	80	2011	ジェムサン	トルコ
シップアシ スト	シースパンレイヴン	5,000	71	2010	ピルラント・テ ルネージ	トルコ
シップアシ スト	シースパンレゾルーシ ョン	6,000	82	2009	J.M.マルティナ ック	米国
シップアシ スト	ケイツIII	2,400	35.6	1990		
シップアシ スト	ケイツIV	900	9.9	1974		
シップアシ スト	ケイツV	1,800	25.4			
シップアシ スト	ケイツVIII	1,800	22.7	1980		
シップアシ スト	シースパンハリアー	6,300	75	2016	サンマール造船	トルコ
シップアシ スト	シースパンラプター	6,300	75	2015		
リバータグ	J.R.W.	1,000	13.1	1987		
リバータグ	シースパンスカウト	1,500	20.6	1992		
リバータグ	シースパンテンペスト	1,700	23.2	1992		
リバータグ	シースパンベンチャー	1,700	20.2	2003		

出典:シースパンからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

¹約 225 隻のコンテナ船を所有する米国上場コンテナ船会社であるシースパン株式会社の船舶資産は除外。

シーSPANは、タグボートに加え、フラットデッキバージ7隻、チップバージ5隻（林業用木材チップ、破碎燃料、原木バルクケミカル、完成木材、紙製品を輸送）、屋根付きバージ2隻、石油バージ4隻とケミカルバージ2隻（セイリッシュ海周辺で石油や製品を輸送）、鉄道バージ1隻を運航している。

シーSPANは、カナダ船籍のばら積み貨物船2隻、16,000載貨重量トンのシーSPAN252と12,900載貨重量トンのシーSPAN251も運航している。

3.36.2 ハイシー・マリン

ハイシー・マリンは、ハイスラ・ネーションとシーSPANの合弁会社である。この合弁会社は、ブリテイッシュコロンビア州キティマットにあるLNGカナダの輸出施設向けの港湾タグボートの建造・運航をLNGカナダと締結した。最初のLNG運搬船は2025年4月にキティマットに到着する予定である。

この合弁会社は、ロバート・アランが設計し、トルコのサンマール造船所で建造された5隻のタグボートを受領した。

- ElectRA 2800電気港湾タグボート3隻。ハイシー・ワミス、ハイシー・ウィーギット、ハイシー・ブレイブは全長28メートル、牽引力70トン、5,288kWhのバッテリーエネルギー貯蔵システムを備えている。
- RAStar 4000-DF型二元燃料LNG護衛タグボート2隻。ハイシー・カーモードとハイシー・ウォリアーは全長40メートル、牽引力は100トンである。

3.36.3 シーSPAN・エナジー

シーSPAN・エナジーは、LNGバンカリングソリューションを提供しており、パナマ籍船で総トン数7,976トンの新型LNGバンカリング船3隻（シーSPAN・ガリバルディ、シーSPAN・ライオンズ、シーSPAN・ベイカー）を運航している。最初の2隻は2024年に、最後の1隻は2025年に納入された。ヴァードが設計したこれらの船舶は、中国の南通中集太平洋海洋工程で建造された。

シーSPAN・ベイカーは、2025年6月に米国ロングビーチ港で自動車運搬船（日本郵船のプルメリア・リーダー）の初の船舶間LNG燃料供給を完了し、話題となった。

3.36.4 マリン・ペトロバルク

シーSPANの子会社であるマリン・ペトロバルクは、バンクーバー、ニューウェストミンスター、ビクトリア、プリンス・ルパート、キティマット、ナナイモの港において、クルーズ船、ドライバルク船、タンカー向けに積載量4,500トンの二重船殻構造のバンカーバージ3隻を運航している。

3.36.5 シーSPAN・フェリー

シーSPANはバンクーバー島に拠点を置き、4隻のRoRo自走船（シーSPAN・リライアント、シーSPAN・スウィフト、シーSPAN・トレーダー、シーSPAN・トランスポーター）と3隻のATB（シーSPAN・チャレンジャー/コースタル・スピリット、シーSPAN・プッシュャー/スイフトを含む）を所有・運航している。

シーSPAN・フェリーズは、グリーン海運回廊の資金調達の最新ラウンドにおいて、自社の船隊および船舶へのバッテリー貯蔵装置の改造に関連するコスト実現可能性を調査するため、11万5,380カナダドルを確保した。

3.37 シー・ワン・オフショア

シー・ワン・オフショアは、カナダ東海岸沖の石油・ガス事業支援のために、カナダ船籍の140トンの牽引力をもつAHTS船（アンカー・ハンドリング・タグ・サプライ船）アバロンシーを配備した。本船は2016年にポーランドのレモントワ造船所から引き渡された。

3.38 ケベックフェリー会社（SOCIÉTÉ DES TRAVERSIERS DU QUÉBEC (STQ)）

ケベック州に拠点を置くこのフェリー運航会社は、1971年に設立された。ケベック州政府が所有する非営利企業である。STQの運営予算の約85%は州政府から賄われ、残りの15%はチケット販売によるものである。フェリーはケベック州の道路網の一部であり、そのほとんどが無料で利用できる。

STQ初の二元燃料LNGフェリーであるF.A. ゴーティエは、2014年にフィンカンティエリによって納入された。2018年に納入されたアルマン・アンボーIIとジョス・デシェネスIIは、運航寿命を通じてLNGで運航される予定である。2025年のインタビュー^{xxxiv}において、STQの社長兼最高経営責任者（CEO）は、STQが既に3隻の新造船プロジェクトを「検討中」とであると報告した。これらの船舶はハイブリッド電気フェリーとなる。コンセプト・ナバルがプロジェクトの船舶設計者として選定され、船舶仲介業者のサイモンシップが適切な造船所の入札を特定するために選定された。造船所の入札は2026年、船舶の引き渡しは2029年を予定している。

図表 53 STQ所有のフェリー船隊

名前	造船所	造船所の所在国	建造年
ラディソン	デイビー造船	カナダ	1954
アルフォン・デジャルダン	デイビー造船	カナダ	1971
ロマー・グアン	デイビー造船	カナダ	1971
アレクサンドラ・シャリフ	マリンインダストリーズ	カナダ	1980
ディディアス・グヴルモン	マリンインダストリーズ	カナダ	1980
クレーン・オブ・ザ・アイランド	ターベック ボート	カナダ	1980
キャサリン・ルガルドゥール	デイビー造船	カナダ	1983
ジョセフ・サヴァール	デイビー造船	カナダ	1985
スパークリングウォーターズ	ハイクメタル	カナダ	1989
メカティーナII	タルボット&ハンター	カナダ	1989
フェリックス・アントワーヌ・サヴァール	デイビー造船	カナダ	1996
イワン・クイン	メリディアン・マリタイム		2009
サーラマーI	フィスカーストランド	ノルウェー	2010
ザ・スピリット・オブ・パクアシピ	グリフィン・ホバーワーク	英国	2012
ピーター・フレイザー	シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所	カナダ	2012
F.A. ゴーティエ	フィンカンティエリ、カステッランマーレ・ディ・スタビア	イタリア	2014
アルマン・アンボーII	デイビー造船	カナダ	2018
ジョス・デシェネスII	デイビー造船	カナダ	2018
セントオーガスティン・リバー	オーシャン・インダストリーズ	カナダ	2020

出典: マニトバ州政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

STQは2023年、フェリー フェリックス・アントワーヌ・サヴァールの修繕をデイビー造船所と契約した。STQは、カン・フィヨルドが1992年に建造したノルウェーフェリー スヴァノイなどの船舶のチャーターも行っている。

ケベックフェリー会社 (Société des traversiers du Québec)
 250, Saint-Paul St. Quebec QC
 G1K 9K9
 電話番号: +1-418-643-2019
 Eメール: stq@traversiers.gouv.qc.ca

3.39 カナダ運輸省

3.39.1 フェリーサービス貢献プログラム

このプログラムは、カナダ大西洋岸とケベック州東部の州間フェリーサービスに資金を提供する。カナダ運輸省は、これらのサービスを提供するために、4隻のフェリーと6つの陸上施設を所有し、運航会社にリースしている^{xxxv}。

図表 54 カナダ運輸省のフェリーサービス貢献プログラム

船	納入	運航会社	州
マドレーヌII	2019	CTMAフェリー株式会社	プリンスエドワード島
ファンディ・ローズ	1999	ベイフェリー	ノバスコシア州
コンフェデレーション	1992	ノーサンバーランド・フェリー	ノバスコシア州
ノーサンバーランド	2007	ノーサンバーランド・フェリー	ノバスコシア州

出典:カナダ運輸省からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

3.39.2 カナダ運輸省フェリー交換プログラム

カナダ運輸省は現在、老朽化したフェリー (CTMAのマドレーヌとノーサンバーランド・フェリーのホリデー・アイランド) の代替として、2隻のフェリー建造に資金を提供している。最初のディーゼル電気ハイブリッド船は2028年に、2隻目は2029年に引き渡しされる予定である。ケベック州のデイビー造船所が建造契約を獲得した。

3.39.3 CTMAフェリー株式会社

CTMAは、2018年に建造されたフェリーであるマドレーヌIIを運航しており、乗客1,500名と車両300台を収容できる。当初はバイキングラインと契約し、最終的にトランスメディテラニーに納入されたこのフェリーは、スペインのアスティレロス・デ・セビリアで建造された。

3.39.4 ノーサンバーランド・ベイフェリー

同社は3つのサービスを運営している。

CATは、ノバスコシア州と米国メイン州間を航行する高速双胴船のカー・旅客フェリーで、2007年にオースタルUSAからハワイ・スーパーフェリーに納入された。その後、米国海軍軍事海上輸送司令部に買収され、2016年にベイ・フェリーズの所有権に移管された。ファンディ・ローズは、1999年に大宇でブ

ルー・スター・フェリーズ向けに建造され、ニューブランズウィック州とノバスコシア州間を航行するカー・旅客フェリーである。コンフェデレーションは、1993年にノバスコシア州ピクトゥで建造され、プリンスエドワード島とノバスコシア州間を航行している。

コンフェデレーションは 2024年後半に事故に巻き込まれ、造船所で修理を受けていた。

ファンディ・ローズは、2024年後半にケベック州のヴェロー造船所において、隔年で行われた検査のため45日間停泊した。

本社はプリンスエドワード島州シャーロットタウンにあるが、フェリー運航を行うためにいくつかの地方支社を通じて業務を行っている。

3.39.5 マリン・アトランティック・インコーポレイテッド

マリン・アトランティック・インコーポレイテッド (MAL) は、カナダ運輸省傘下の非営利企業で、ノバスコシア州ノースシドニーとニューファンドランド・ラブラドール州ポート・オー・バスクにサービスを提供している。同社は4隻のフェリーを運航している。

全長203メートルのアラスイヌは、ステナのE-フレクサー Ro-Pax二元燃料LNGバッテリーハイブリッド船で、2024年に納入された。本船は、中国の招商局威海造船所で建造された。本船は、バルチラ社製46DF主機、バルチラ製20DF補機、そしてコルバス・エナジー製2,000kWhオルカ・バッテリーエネルギー貯蔵システムを搭載している。本船はステナから長期チャーターされており、購入オプションが付与されている。

全長200メートルのブルー・プッティーズとハイランダーズの建造は、2004年にロシアのバルチック造船所で開始され、2006年にノルウェーのフォーセンヤードで完成した。この船は2015年にステナから購入された。

全長203メートルのアトランティック・ビジョンは、2002年にドイツのキールに建造された。

3.39.6 オンタリオ湖の事業

2021年、カナダ運輸省は、オンタリオ湖を航行する全電気フェリー2隻をダーメン・ルーマニアから納入された。オンタリオ州ロイヤリスト・タウンシップが運航する全長72メートルのアマースト・アイランダーIIIは、アマースト島フェリーサービスを運航し、全長99メートルのウルフ・アイランダーIVはオンタリオ州運輸省が運航する。スイスのサプライヤーであるルクランシェは、船舶用のバッテリーエネルギー貯蔵システムを供給し、アマースト・アイランダーIIIには1,900kWh、ウルフ・アイランダーIVには4,600kWhの電力を供給した。3,000kWhの陸上充電ステーションが両船をサポートする。

3.40 トランスポート・デガニエ株式会社

ケベック州に拠点を置くトランスポート・デガニエは、19隻の船舶を所有・運航しており、内訳は、一般およびドライバルク船9隻、タンカー9隻、旅客・貨物船1隻となっている。

同社が最後に報告した新造船の引渡しは2019年であった。載貨重量15,000トンのポーラークラス二元燃料LNG石油/ケミカルタンカーであるT ポール・デガニエとロッシA.デガニエは、4隻の船舶建造プログラムのうち最後の2隻であった。これらの船はトルコのベシクタシュ造船所で建造された。

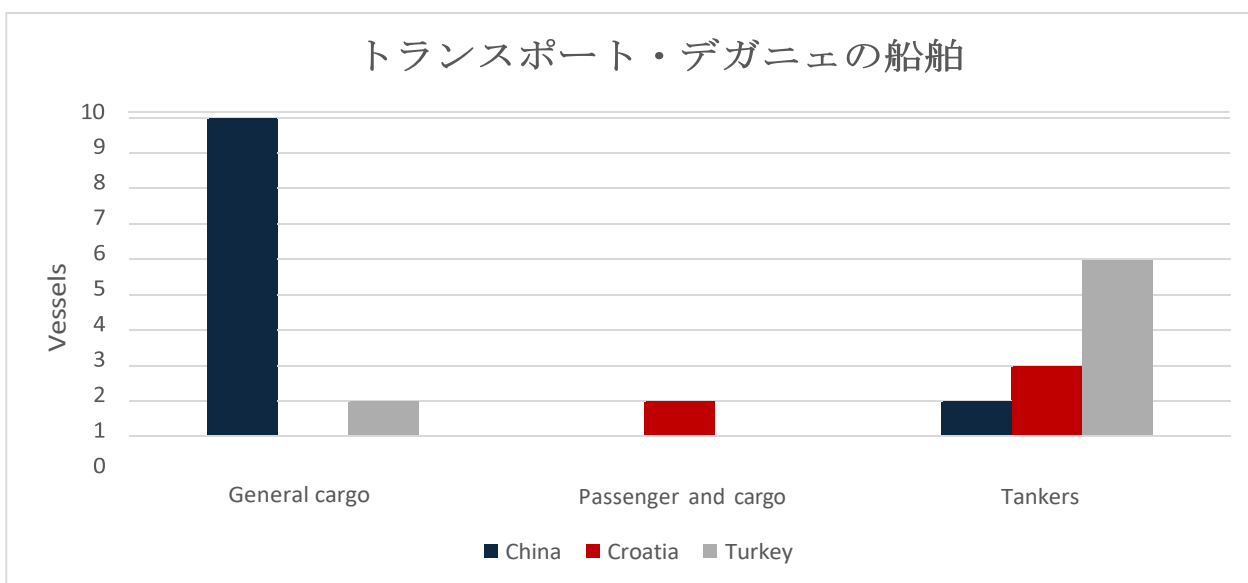
図表 55 トランスポート・デガニエの船隊

船	船種	建造年	造船所	総トン数
アカディア・デガニエ	一般貨物	2013	中国山東百舜亭造船有限公司	7,875
アルヘンティア・デガニエ	一般貨物	2007	トルコのウスタオウル	6,369
ノルディカ・デガニエ	一般貨物	2010	中国の天津新港	12,974
クロード・デガニエ	一般貨物	2011	中国の泰州三福	9,627
セドナ・デガニエ	一般貨物	2009	中国の青山造船	9,611
ロザリー・デガニエ	一般貨物	2007	オランダのヴォルハーディング (Volharding) 中国の江西江州新造船廠	9,611
タイガ・デガニエ	一般貨物	2007	中国の天津新港	12,936
ゼルダ・デガニエ	一般貨物	2009	中国の青山造船	9,611
ミエナ・デガニエ	一般貨物	2017	中国の江西江州新造船廠	11,492
マルセリン・A・デガニエ	一般貨物	2012	中国の天津新港	12,974
エスパダ・デガニエ	タンカー	2007	クロアチアのブロドスプリット	42,810
ローレンシア・デガニエ	タンカー	2007	クロアチアのブロドスプリット	42,810
ダミア・デガニエ	タンカー	2017	トルコのベシクタシュ	11,978
ガイア・デガニエ	タンカー	2018	中国のアビック・ディンヘン	12,770
ミア・デガニエ	タンカー	2017	トルコのベシクタシュ	12,061
ポール・デガニエ	タンカー	2018	トルコのベシクタシュ	12,061
ロッシ・デガニエ	タンカー	2019	トルコのベシクタシュ	12,061
サラ・デガニエ	タンカー	2007	トルコのトゥズラ	11,711
ベラ・デガニエ	旅客・貨物船	2013	クロアチアのクラリエヴィツァ マルタのパルンボ	6,655

出典: トランスポート・デガニエからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

トランスポート・デガニエの船隊は、いずれもカナダで建造されたものではない。

図表 56 トランスポート・デガニエの船舶 (建造国別)



出典: トランスポート・デガニエからのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

同社は連邦政府のグリーン海運回廊プログラムの一環として、船舶へのバッテリーエネルギー貯蔵システムの導入を検討する実現可能性調査プロジェクトに12万5000カナダドルを確保した。

トランスポート・デガニェ
 Québec City, Québec
 21 Marché-Champlain Street Québec, Québec G1K 8Z8 Canada
 電話番号: 418-692-1000
 Eメール: info@desgagnes.com

3.41 トラバース・オカ・ハドソン

同社は、ケベック州とオンタリオ州間の2キロメートルのフェリー航路を運航する小型カーフェリー1隻を運航している。

3.42 ブルボネフェリー

同社は1963年に操業を開始し、現在6隻のフェリーボートと2隻の砕氷船を所有しており、年間365日オタワ川を横断している。

3.43 ウッドワード・グループ・オブ・カンパニーズ

3.43.1 コースタル・ SHIPPING・リミテッド

コースタル・SHIPPING・リミテッド (CSL) は1973年に設立され、ウッドワード・グループ・オブ・カンパニーズの一員として、カナダ北極圏およびラブラドル沿岸の港で石油・ケミカルタンカー4隻を運航している。

図表 57 コースタル・SHIPPING・リミテッドの船隊

タンカー	造船所	造船所の所在国	建造年	総トン数
キティクメート W.	イクダス造船所	トルコ	2010	13,097
トゥヴァック W.	江蘇省	中国	2012	5,422
キヴァリク W.	江南造船	中国	2004	8,882
キキクタアルク W.	イクダス造船所	トルコ	2011	13,097

出典: CSLからのデータのマリタイム・アクティビティ・リポートによる解釈

CSLタンカー船団のうち、マーシャル諸島に登録されているのキティクメートWを除く全船がカナダ籍船である。

コースタル・SHIPPING・リミテッド 115 Terminal Road Conception Bay South, NL Canada, A1X 7B5
 Eメール: info@woodwards.nf.ca

3.43.2 ラブラドル・マリン

1980年代から事業を展開するラブラドル・マリンは、ウッドワード・グループの一員である。ラブラドル・マリンは、2隻の自動車・旅客フェリーを運航している。

- カジャクWは、乗客300名と車両120台を積載可能な自動車・旅客フェリーで、ベルアイル海峡を横断する。本船はノルウェーでフィスケルトランド・バートとして建造され、2010年に元の所有者であるエストニアのサーレマ・SHIPPINGに引き渡された。本船は2018年にフィスケルトランド・バ

ートに戻り、2019年に新所有者向けに改修され、2019年に再度引き渡された。

- カムティックWは、ラブラドル沿岸航路で最大240名の乗客、125個の20フィートコンテナユニット、そして少なくとも30台の車両を運ぶ。本船はノルウェーでフィスケルトラント・バートとして建造され、2011年に元の所有者であるエストニアのサーレマ・ SHIPPINGに引き渡された。本船は2018年にフィスケルトラント・バートに戻り、2019年に新所有者向けに改修され、2019年に再度引き渡された。

4. カナダの造船所と船舶修理業者

このセクションでは、造船会社と船舶修理会社を州別に紹介する。造船所の情報はカナダ政府の慣行に従っている^{xxxv}。州と造船所はアルファベット順に記載する。

4.1 ブリティッシュコロンビア州

ビクトリア州にあるエスクワイモルト・グレイビング・ドックは、連邦政府の公共事業・政府サービスが所有・運営している。このドックは、カナダ西海岸に展開するカナダ海軍とカナダ沿岸警備隊の艦隊を支える戦略的国家インフラと位置付けられており、国家造船戦略（NSS）に不可欠な存在である。

1887年に建造されたこのドックは、長さ357.5メートル、幅38.4メートルである。

シースケープやインターコン・マリンなどのNSSパートナーはエスクワイモルト・ドックを使用している。

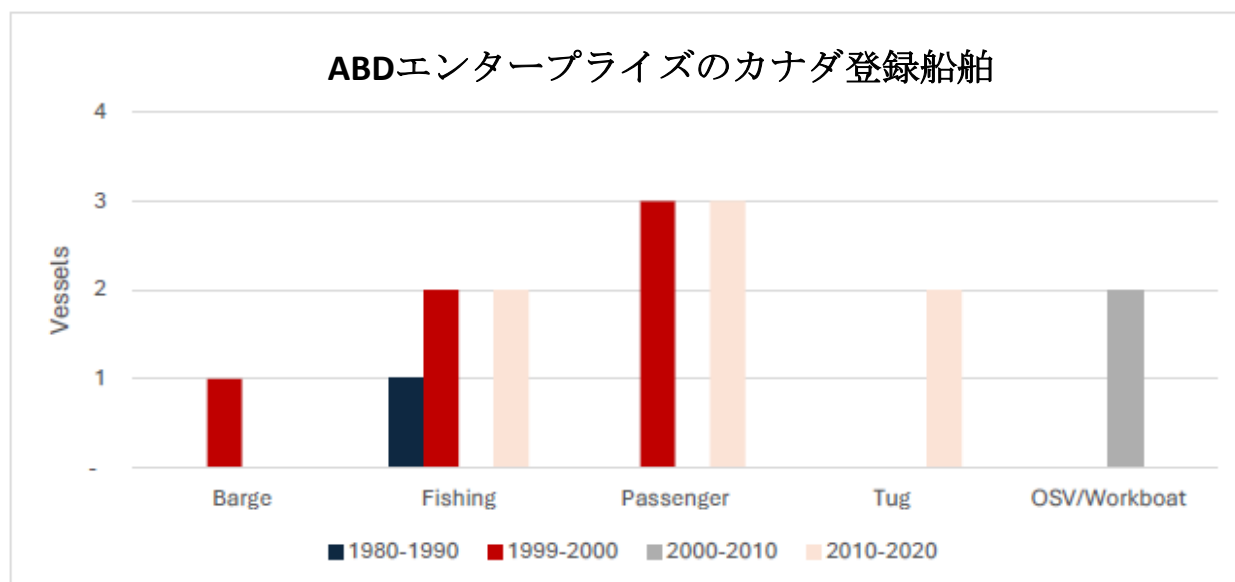
4.1.1 ABDエンタープライズ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
?	√	?	小型	?

カナダ政府によって現存する造船所として登録されているにもかかわらず、2022年以降、この造船所に関する情報は見つかっていない。

カナダ船舶登録簿には、ABDエンタープライズによって建造されているCas登録船舶が16隻登録されている。

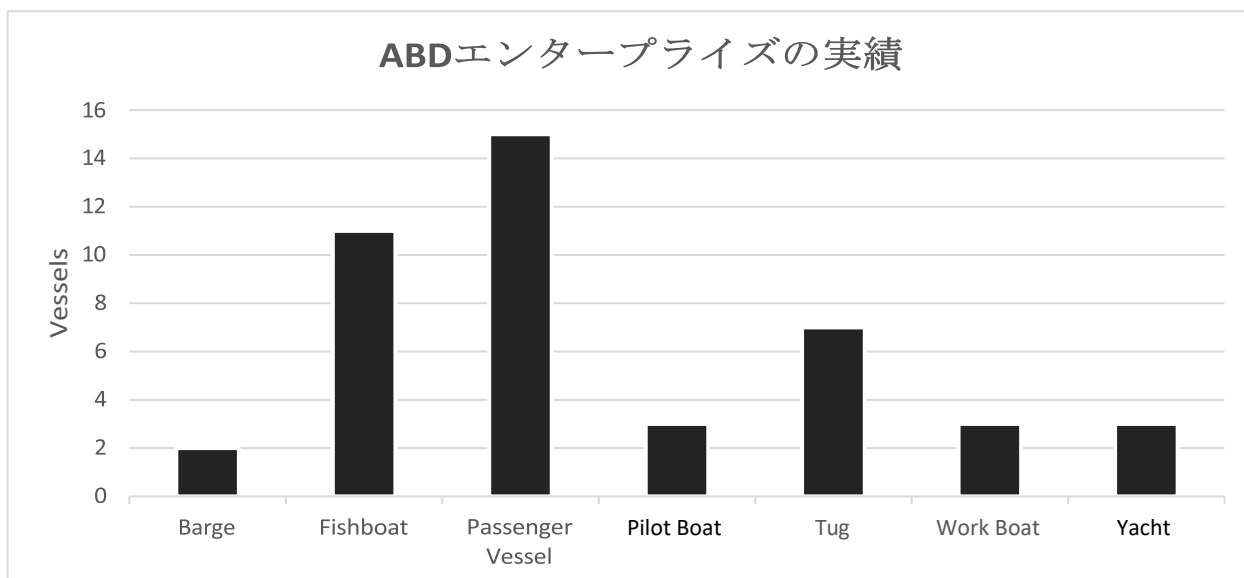
図表 58 ABDエンタープライズのカナダ登録船舶



出典: カナダ船舶登録簿からのデータに基づきマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

別の情報によると、1988年から2022年に建造された船舶は約45隻で、その大半は旅客船と漁船であった。

図表 59 ABDエンタープライズの実績



出典: ノーティカペディア (Nauticapedia) からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

ABDはNSS関連の仕事を確認していない。

ABD エンタープライズ
1667 Columbia Street
North Vancouver BC V7J 3R5

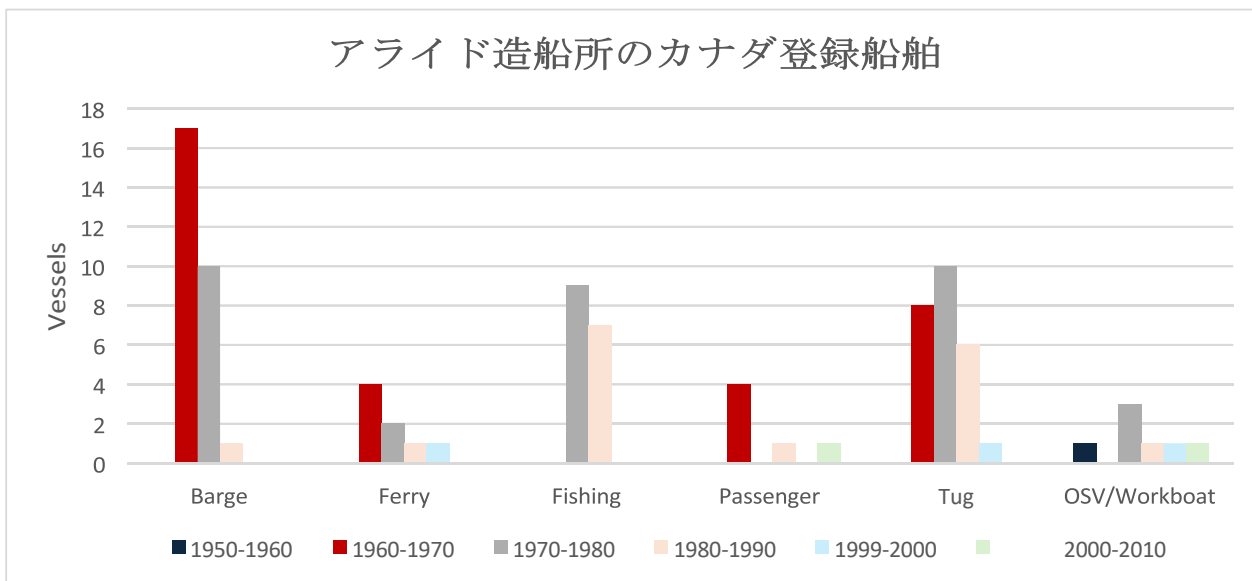
4.1.2 アライド造船所

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1948	√	√	中程度	民間

アライド造船所は、バンクーバー近郊に位置する民間造船所で、鋼製とアルミニウム製の船体を持つ船舶の建造と修理を行っている。

同社のウェブサイトによると、アライド造船所は「北米西海岸で60年以上にわたり操業を続け、259隻の船舶を建造した」となっている。カナダの船舶登録簿には、現在稼働中の約90隻の船舶がアライド造船所によって建造されており、そのうち約3分の1がバージである。

図表 60 アライド造船所の実績(カナダ登録船舶)



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

NSSプログラムに基づき、アライド造船所は2024年にカナダ沿岸警備隊向けの3つのプロジェクト（耐用年数延長1件、改修・修理2件）を完了した。

図表 61 アライド造船所のNSS修理・改修プロジェクト

船	種類	ホームベース	完了年	予算
CCGS キャプテン・ゴダード SMS と CCGS M. チャールズ MB (修理)	内洋巡視艇	ブリティッシュコロンビア州シドニー	2024	240万カナダドル
CCGS タヌ(耐用年数延長)	沖合漁業取締船	ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー	2024	1,147万カナダドル

出典: カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

アライドの海岸工学部門は、シャフトと船尾ギアの製造・修理を行っている。ウェスタン・マシン・ワークス部門は、油圧式牽引ピンとフックユニットを製造している。

アライド造船所株式会社
 1870 Harbor Road North Vancouver, BC V7H 1A1 Canada
 電話: 604-929-2365
 ファックス: 604-929-5329
 Eメール: asl@alliedship.com

4.1.3 インターコン・マリン

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1994		√	中程度	民間

インターコン・マリンは、カナダ海軍、沿岸警備隊、フェリー、貨物船、クルーズ船向けに船舶修理サービスを提供している。

同社は、ビクトリア州にある連邦公共事業・政府サービス局エスクワイモルト・グレイビング・ドック施設に拠点を置いている。

インターコンは2024年に、140万カナダドルを投じたNSS修理プロジェクトCCGSウィルフレッド・グレンフェル高耐久性多目的船を完了した。

インターコン・マリン
825 Admirals Road
Victoria, British Columbia, Canada V9A 2P1
電話番号:(250)389-0391

4.1.4 ジェンキンス・マリン

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1959		√	小規模	民間

ジェンキンス・マリンは、カナダ海軍と沿岸警備隊、フェリー、タグボート、商業漁船、スポーツフィッシング船を対象とした小規模な修理会社である。同社はNSSプログラムの採択企業ではない。鉄鋼、アルミニウム、グラスファイバーの加工技術を有する。

カナダ船舶登録簿には、ジェンキンスが新造したカナダ籍船舶が1隻のみ記載されており、それは1980年代のものである。

ジェンキンス・マリン
2019 Kaltasin Rd, Sooke, BC 250-642-3523

4.1.5 リキッドメタル・マリン・ファブリーケーターズ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
2000	√		小規模	民間

リキッドメタル・マリン・ファブリーケーターズは、アルミニウムまたは強化プラスチック製のレクリエーション用およびスポーツフィッシング用の船舶を専門とする小規模造船会社である。

カナダ船舶登録簿には、リキッドメタルがカナダ船籍として新造した船舶1隻のみ記載されており、それは2016年にイーグル・ウィンド・ツアーズ向けに建造された総トン数38トンの旅客船である。

同社はNSSプログラムの採択企業ではない。

リキッドメタル・マリン・ファブリーケーターズ
2-2057 Mills Road West, Sidney, BC 電話:250-656-9298
Eメール: sales@liquidmetalmarine.com

4.1.6 ポイント・ホープ・マリタイム・リミテッド

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1873		√	小規模	ラルマックスグループ

ポイント・ホープは、ビクトリア港に寄港する船舶にサービスを提供する修理場である。

ポイント・ホープ・マリタイムは、2019年にダーメン造船所と提携契約を締結し、カナダ西海岸のダーメンの顧客にサービスを提供している。

ポイント・ホープ・マリタイムはNSSの採択企業であり、2024年に沖合漁業調査船CCGS ネオカリガスの67万6,000カナダドルの耐用年数延長契約を完了した。

カナダ造船登録簿によると、ポイント・ホープ・マリタイムは現在稼働中のカナダ登録船舶1隻を建造した。これはカナダ太平洋水先案内局向けの総トン数88トンの作業船で、2001年に引き渡しされた。

ポイント・ホープ・マリタイム

345 Harbor Road Victoria, BC V9A 3S2 電話: 250-385-3623

Eメール: info@pointhopemaritime.com

4.1.7 シースパン

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1969	√	√	大規模	ワシントン・カンパニーズ

4,000人以上の従業員を擁するシースパン造船所（バンクーバー造船所、バンクーバー・ドライドック、ビクトリア造船所）は、3つの造船所において、沿岸警備隊、海軍、調査船、商用船の建造・修理を行っている。主な新造船顧客は、シースパンの姉妹会社、カナダ沿岸警備隊とBCフェリーである。

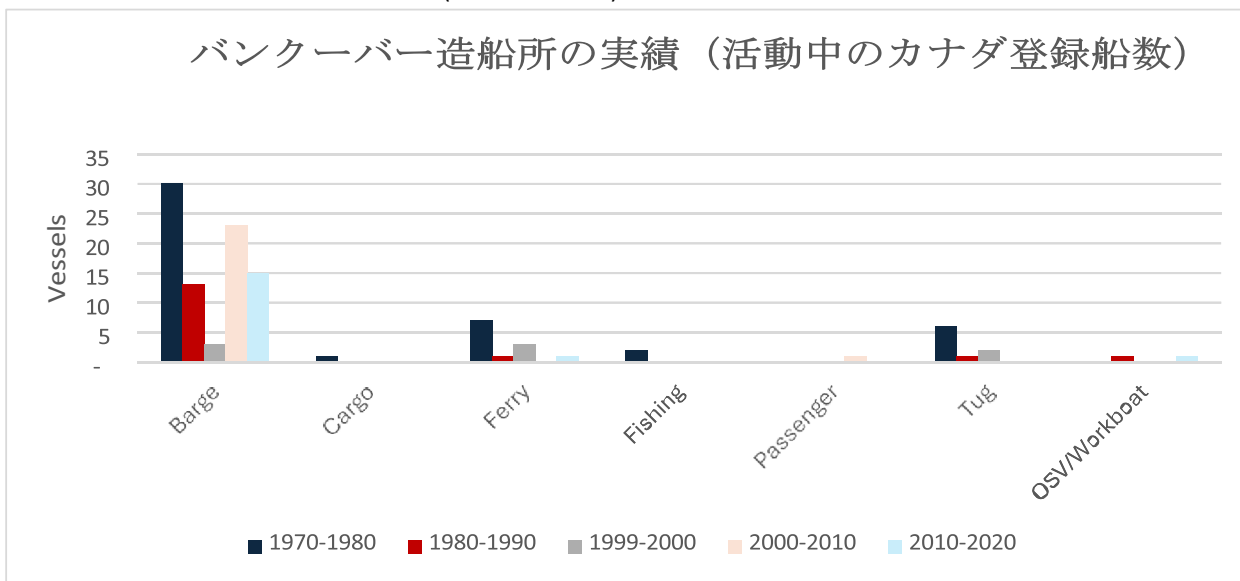
シースパンは、バンクーバー造船所に没入型可視化スイートを備えたシップヤード4.0プラットフォームであるホロシップ3D可視化プラットフォームに投資した。このプラットフォームは、船舶の設計、生産、建造、訓練、引き渡し、そして運用サポート（船上センサーで収集され陸上システムに送信されるデータに基づく）を支援する。

4.1.7.1 バンクーバー造船所

バンクーバー造船所は、グループの主力の新造船所である。

この造船所は、親会社シースパン向けに65隻以上のバージと7隻のタグボートを建造し、さらにBCフェリー向けに9隻のフェリーと旅客船を建造した。

図表 62 バンクーバー造船所の実績(カナダ登録船)



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

バンクーバー造船所は、カナダのNSSプログラムに基づき、カナダ沿岸警備隊およびカナダ海軍向けの大型非戦闘艦艇を建造する同社の主要造船所である。シーSPAN・バンクーバーは、同プログラムの大型艦建造部門において、約225億カナダドルの受注を獲得している。

図表 63 シースパンのNSS大型造船プロジェクト

プロジェクト	顧客	建造 予定 船数	納入	プロジェクト 予算
統合支援艦	カナダ海軍	2	JSS 1 (HMCB プロテクター) 2025 JSS 2 (HMCS プリサーバー) 2027	60.9億カナ ダドル
多目的船 (セントロ ーレンス水路と五大 湖地域における砕氷 と捜索救助)	カナダ沿岸警 備隊	16 (最 大)	2030(最初の船)	142億カナ ダドル
沖合漁業調査船	カナダ沿岸警 備隊	3	CCGS サー・ジョン・フランク リン、2019 CCGS キャプテンジャックカル ティエ、2019 CCGS ジョン・キャボット、 2020	7億8850万 カナダド ル
沖合海洋調査船	カナダ沿岸警 備隊	1	CCGS リスナー ナンバー、 2025年6月	14.7億カナ ダドル
極地砕氷船	カナダ沿岸警 備隊	1 1	未定 2030	未定 未定

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

統合支援艦 (JSS) HMCS プロテクターは 2024 年 12 月に進水し、現在作業が進行中で、2026 年末までに完了する予定である。

カナダ政府は、納入後も長期にわたるサポート契約を締結しており、その期間は20年を超える場合が多い。初期契約のうち15億カナダドルは、ブリティッシュコロンビア州のシースパン・ビクトリア造船所、ノバスコシア州のアーヴィング造船所、ケベック州のデイビー造船所にそれぞれ授与された。これらの契約により、各造船所は最低3隻のフリゲート艦が保証されている。2025年のプログラムでは、ビクトリア造船所にHMCSカルガリーが入渠する予定である。

ハリファックス級フリゲート艦: 2025 年のプログラムでは、HMCS トロントをデイビー造船所に、HMCS ハリファックスをアーヴィングに、HMCS カルガリーをビクトリア造船所に入渠する予定である。

バンクーバー造船所
2 Pemberton Avenue
North Vancouver, BC, Canada V7P 2R2
電話: +1-604-988-6361

バンクーバー・ドライドック・カンパニー

修理、改修、近代化を行う造船所で、10,000トンから36,000トンの吊り上げ能力を持つ3つの浮きドックを運営している。造船所の拡張工事の一環として、4つ目の小型ドライドックを現在建設中である。2025

年には、沿岸警備隊の小型船舶、アトランティック・トーイングの牽引力158トンのAHTSアトランティック・イーグル、および1981年建造のBCフェリー製RoPaxクイーン・オブ・オークベイに取り組んでいる。

図表 64 シースパンのNSS修理/改修および耐用年数延長プロジェクト

船	種類	ホームベース	造船所	完了年	予算
CCGSサージョンフランクリン(修理)	沖合漁業調査船	ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	シースパン・バンクーバー・ドライドック・カンパニー、ブリティッシュコロンビア州	2024	29万カナダドル
CCGSサー・ウィルフレッド・ローリエ	高耐久性多目的船	ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	シースパン・バンクーバー・ドライドック・カンパニー、ブリティッシュコロンビア州	2024	3,900万カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

バンクーバー・ドライドック

203 East Esplanade
North Vancouver, BC, Canada V7L 1A1
電話: +1-604-988-7444

ビクトリア造船所

連邦政府所有のエスクワイモルト・グレイビング・ドックを利用した修理、改修、近代化施設。同造船所は、カナダ海軍と契約を締結し、2008年から15年間（バブコックと共同で）ビクトリア級潜水艦4隻と、西海岸に配備されているハリファックス級フリゲート艦の近代化工事を行った。ハリファックス級フリゲート艦は、ハリファックス級作業期間（HCWP）契約に基づき、改修工事が行われた。最初のHCWP契約であるHMCS レジーナは2023年に完了し、19ヶ月かかった。HMCS ビクトリアの工事は現在も進行中である。

HCWPプログラムの下で、HMCSカルガリーは2023年1月にシースパン・ビクトリアに到着し、28か月間の改修を行い、2025年5月に出航した。同造船所は現在、2024年後半に入港したHMCS ウィニペグのHCWP契約を履行中である。

2025年には、同造船所はTOTE マリタイム・アラスカの2003年建造トレーラー船ミッドナイト・サンの修理を行い、BC フェリーの1964年建造RoPax クイーン・オブ・ウェストミンスターのシャフトと舵の修理を完了した。

ビクトリア造船所

825 Admirals Road
Victoria, BC, Canada V9A 2P1 電話: +1-250-380-1602

4.1.7.2 シルバーストリークボート

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1987	√	√	小規模	?

シルバーストリークボートは、全長10メートルまでの高速アルミ製ボートを建造している。これらの船舶は主にレジャー用途であるが、1998年には小型旅客船（登録済）を、2002年には漁船（登録済み）を建造した。

シルバーストリークボート 6864 West Coast Road

Sooke, BC V9Z 0V2

電話番号: +1-250-642-530

4.1.7.3 ゾディアックミルプロ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1896	√		中程度	アルゴス・ウィチュ

フランスに本社を置くゾディアックは、軍事用途および非軍事用途向けの複合艇を世界5拠点で建造している。カナダでは、バンクーバーのゾディアック・ハリケーン・テクノロジーズで複合艇の設計・製造を行っている。

4.2 ニューブランズウィック州

州政府は、地元のボート所有者を支援するために3つのマリン・サービスセンターを所有している。シッパガン・マリン・サービスセンターは、アスコム製200トントラベルリフトを備え、最大200トンのボートを取り扱うことができる。バス・カラケット・マリン・サービスセンターは、アスコム製300トントラベルリフトを備え、最大300トンの船舶を持ち上げ、進水し、保管することが可能である。ファンディ・マリン・サービスセンターにも小型ボートリフトが設置されている。

これらの造船所は、小規模な造船・修理会社向けの施設を提供している。

シッパガン・マリン・サービスセンター

Centre de Services Maritimes
aux Pêcheurs Inc.
278, avenue des Pêcheurs
Shippagan, NB E8S 1J6
電話番号: +1-506-336-1414

バス・カラケット・マリン・サービスセンター

2220, rue Gérard-Friolet Bas-
Caraquet, NB
電話番号: +1-506-726-2400

ファンディ・マリン・サービスセンター

グランドマナン漁業協会
P.O. Box 907
Grand Manan, NB E5G 4M1
電話:+1-506-662-8481

4.3 ニューファンドランド・ラブラドール州

4.3.1 DFバーンズ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1932		√	中程度	民間

DFバーンズは、オフショアと海洋船舶、および構造物の修理・保守を行っている。

NSSプログラムの下、DFバーンズは2024年に中型砕氷船CCGSキャプテン・モリー・クルの160万カナダドルの改修を完了した。同社によると、同社はまた、CCGSジョン・キャボット（2023年）、CCGSジョージ・R・ピアークス（2021～2022年）、CCGSレナード・J・カウリー（2022年）、CCGSルイ・サンローラン（2021～2022年）、CCGSテリオスト（2021年）など、沿岸警備隊の他の船舶の改修も完了している。オフショアの実績としては、FPSO テラ・ノヴァとシーローズ、半潜水型掘削リグトランスオーシャン・バレンツとウェスト・アクエリアスの修理・保守がある。

DFバーンズ

45 Pepperrell Road,
St. John's Newfoundland & Labrador, A1A 5N8
電話:+1-709-726-6820

4.3.2 グローバータウン造船所

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1977	√	√	小規模	民間

1977年に設立されたグローバータウンは、全長36.5メートルまでの船舶（主に漁船）を建造できる（鋼船）造船所である。

カナダ船舶登録簿によると、グローバータウンの新造船建造実績は主に漁船である。登録簿によると、同造船所は2000年以降、2004年、2011年、2013年にそれぞれ1隻ずつ、計3隻の新造船を建造した。

グローバータウン造船所

300 Main St. N Glovertown, NL Canada

AOG 2L0
電話番号: +1-709-533-6792

4.3.3 ハーバー・グレース・オーシャン・エンタープライズ(HGOE)

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1900年以前	√	√	小規模	民間

約19,000平方メートルの造船所では、鋼製船体およびグラスファイバー製船体の船舶の修理、改修、建造を行っている。330トンのトラベルリフトを備え、船舶の吊り上げ、移動、進水に使用できる。また、漁船、沿岸警備隊の船舶、作業船、タグボート、バージもサポートしている。

カナダ船舶登録簿によると、HGOEの最新の新造船は、2016年から2019年に建造された総トン数15～242トンの漁船6隻である。

ハーバー・グレース・オーシャン・インダストリーズ

Beach Hill Road, Harbour Grace, Newfoundland and Labrador A0A 2M0

電話: +1-709-596-5186

4.3.4 キーウィット・オフショア・サービス

米国のエンジニアリング、調達、建設請負業者であるキーウィットは、メアリーズタウンにトップサイドおよびモジュール製造施設を運営し、オフショア石油・ガス産業における地元のプロジェクトを支援している。この造船所は、製造ホール、オープン組立エリア、そして艀装用岸壁で構成されている。

キーウィット・オフショア・サービス 1 Spanish Room Road Marystown, NL A0E 2M0

電話番号: +1-709-279-7331

4.3.5 ニュードック・セントジョンズ・ドックヤード

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1884		√	中程度	メンバートウ・ファースト・ナショナル、カリブ・ファースト・ネーション、ホライゾン・ネイバル・エンジニアリング（ホライゾン・マリタイム・サービスが所有）

1884年にセントジョンズ港に設立されたニュードック（セントジョンズ・ドックヤード）は、船舶の修理・改修サービスを提供している。2024年後半、ニュードックは、メンバートウ・ファースト・ナショナル、カリブ・ファースト・ネーション、そしてホライゾン・ネイバル・エンジニアリング（ホライゾン・マリタイム・サービスが所有）による先住民主導のパートナーシップによって買収された。

約73,000平方メートルの造船所には、4,000シンクロリフトと174メートルのドライドックが備わっている。

同社によると、サービス対象には、カナダ沿岸警備隊、カナダ海軍、OSV、地震探査船、タグボート、バージ、漁船が含まれる。

図表 65は、2023年以降、ニュードックがカナダ沿岸警備隊向けにNSSの枠組み内で実施した船舶の修理、改修、耐用年数延長、改造の報告を示している。

図表 65 ニュードックNSSの修理、改装、耐用年数延長プロジェクト

船	種類	ホームベース	完了年	予算
CCGSヘンリー・ラーセン (改装)	Rクラス中型砕氷船	ニューファンドランド・ラブラドール州セントジョンズ	2023	400万 カナダドル
CCGSジャングッドウィル (改装)	中型砕氷船	ノバスコシア州ダートマス	2023	630万 カナダドル
CCGS レナード・J・カウリー (耐用年数延長)	沖合巡視船	ニューファンドランド・ラブラドール州セントジョンズ	2025	2970万 カナダドル
CCGS ジュディ・マーシュ	砕氷船、捜索救助、ブイ操作	五大湖とセントローレンス水路	2025	3430万 カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

ニュードック・セントジョンズ・ドックヤード
475 Water Street
St. John's, NL Canada A1E 6B5

電話番号: +1-709-758-6800

4.4 ノースウェスト準州

ノースウェスト準州政府（GNWT）傘下のインフラ省は、マッケンジー川沿いの貨物輸送と西部北極圏地域へのサービス提供を行う海運ソリューションを提供するマリン・トランスポート・サービス（MTS）を所有している。GNWTが2016年に前の事業者の海運資産を買収した際には、タグボートに加え、シンクロリフトを備えた造船所も買収された。

MTSは、2024年に360万カナダドルの航行援助船CCGSエカルーの建造を含む、NSS船舶の耐用年数延長契約を締結している。

マリン・トランスポート・サービス
Terminal "C" Freight Yard 42003 Mackenzie Highway Hay River, NT
電話番号: +1-867-874-2023

4.5 ノバスコシア州

4.5.1 ABCOインダストリーズ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1940年代	√		小規模	民間

ABCOは、カナダ沿岸警備隊、カナダ海軍、海洋漁業省、漁船、小型プレジャーボート、無人水上艦向けに小型アルミボートを製造している。カナダ船舶登録簿によると、ABCOは2000年から2018年にかけて10隻のアルミニウム製船舶と作業船を引き渡ししており、その半数は漁業海洋省向けである。

ABCO インダストリーズ
81 Tannery Road
Lunenburg, Nova Scotia, B0J 2C0電話番号: +1-866-634-8821

4.5.2 A.F. テリオール・アンド・サン

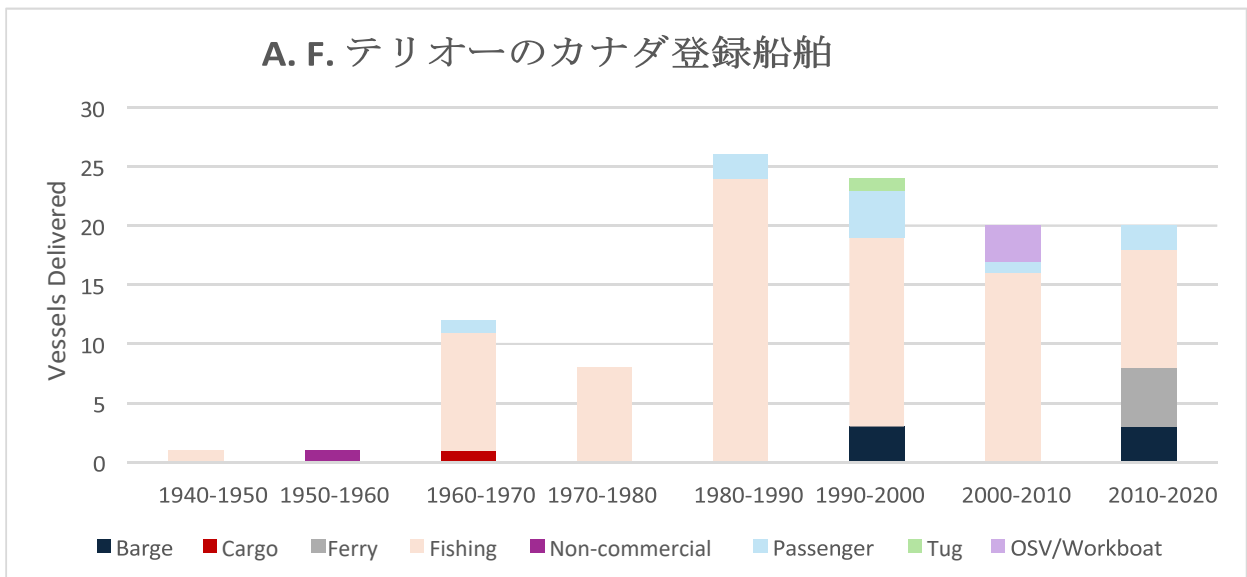
設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1938	√	√	中規模	テリオール家

同社情報によると、A.F.テリオールは漁船、旅客船、作業船、消防船、巡視船、水先案内船、そして全長45メートルまでの豪華ヨットなど、1,000隻以上を建造してきた。船体はグラスファイバー、スチール、アルミニウム、先進複合材を用いて製造しており、また、全長65メートルまでの船舶の修理にも対応可能である。

167,500平方メートルの造船所には、1,600～4,600トン持ち上げることができる船舶修理船台4つと、250トンの船舶進水船台1つが設置されている。

カナダ船舶登録簿には、A.F. テリオールが納入した最大総トン数300トンの船舶が約110隻記録されている。

図表 66 グループ・テリオールのカナダ登録船隊



出典: カナダ海運登録局からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

最近の建造計画の一例として、ハリファックス・トランジットの老朽化した船舶の代替として、2014年から2018年にかけて4隻のフェリーと1隻の旅客船が納入された。フェリーの費用は約425万カナダドル（フォイト・シュナイダー製推進システムの供給を除く）で、引き渡しまでに約13ヶ月かかった。

国際市場では、A.F. テリオール・アンド・サンは、2004年から2011年にかけて、欧州の大手洋上風力発電事業者であるウィンドキャットに、全長15～23メートルのアルミ製洋上風力発電乗組員輸送船を16隻引き渡した。これらの船舶はすべて北西ヨーロッパで運航されている。各船には、2つのMTUエンジンまたは2つのボルボ・ペンタエンジンを搭載している。

A.F. テリオール・アンド・サン
 1 d'Entremont Road
 Meteghan River, Nova Scotia B0W 2L0
 電話: +1-902-645-2327

4.5.3 アトキンソン・アンド・ハリス

アトキンソン・アンド・ハリスは、グラスファイバー船体を製造する小規模企業である。

アトキンソン・アンド・ハリス
 40 Adamant Drive Shelburne Industrial Park Shelburne, Nova Scotia
 電話番号: +1-902-875-2626

4.5.4 カナディアン・マリタイム・エンジニアリング

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
?	√	√	中程度	ラッセル・インダストリーズ・グループ

カナディアン・マリタイム・エンジニアリング (CME) は造船所・修理業者であり、東海岸で4つの修理および改修施設を運営している。

- ノバスコシア州のサンプロ造船所には、最大積載量400トンの引上げ船台が2つある。
- ノバスコシア州ノースシドニー造船所は、2,500トンの船舶に対応可能である。
- ニューファンドランド・ラブラドール州のクラレンビル造船所には、最大積載量650トンの引上げ船台が2つある。
- ノバスコシア州ピクトウ造船所は、3,800トンの船舶を吊り上げることができる。

CMEは、バンクーバー島にサービスを提供する西海岸の3つの事業所を運営している。

- ブリティッシュコロンビア州CMEポートアルバーニは、最大運搬能力450トンの新造船・修理施設を3つ（バードアベニュー、ハーバーロードシェッド2、キャナルビーチ）運営している。同社によると、ポートアルバーニは175隻を超える新造船の実績があり、アルミニウム製とスチール製の両方の船体を引き渡ししてきた。
- ブリティッシュコロンビア州のCMEビクトリアは、カナダ海軍とカナダ沿岸警備隊を主要顧客として、修理とアップグレード作業に注力している。

CME造船所は、NSSの造船、修理、改修プロジェクトを完了した。

図表 67 CMEのNSS造船・修理・改修プロジェクト

	プロジェクト	顧客	造船所
バージ4隻(新造船)	スチールバージ	国防省	CME、ブリティッシュコロンビア州
CCGSキャプテンジャックカルティエ(改装)	沖合漁業調査船	カナダ沿岸警備隊	CME ピクトウ、ノバスコシア州
CCGSイル・サン・トゥルスとカリブーアイル(メンテナンス)	小型ブイと多目的船	カナダ沿岸警備隊	CME

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

CME本社
90 Thornhill Drive,
Dartmouth, Nova Scotia, B3B 1S3
電話:+1-902-468-1888

CME イースト-ピクトゥ造船所
3141 Napier Lane,
Victoria, British Columbia, V8T 5A9
電話:+1-250-475-3553

CME ウェスト-ポートアルバーニ
3101 Bird Avenue,
Port Alberni, British Columbia, V9Y 4B8
電話:+1-250-723-0111

CMEビクトリア
3141 Napier Lane,
Victoria, British Columbia, V8T 5A9
電話:+1-250-475-3553

4.5.5 アーヴィング造船所

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1889	√	√	大規模	J.D.アーヴィング・リミテッド

J.D.アーヴィングの造船事業には、アーヴィング造船ハリファックス、船舶工学・設計会社フリートウェイ、そしてコンサルタントであるオーシャニック・コンサルティングが含まれる。

アーヴィング造船所のハリファックス造船所は、ダートマスにあるブルーノーズ・ビルディング・エンジニアリング・ビルディング、ダートマスにある鋼材準備ヤードのマリン・ファブリケーターズ、そしてハリファックス港にあるウッドサイド・インダストリーズのサブアセンブリ製造ヤードによって支えられている。

同社によると、「アーヴィング造船の造船所は、現在のカナダ海軍の海上艦艇の80%以上を建造している。」とのこと。アーヴィング・ハリファックスは、2030年代初頭まで続くNSS大規模造船プログラムの下で最大55隻の船舶を建造するために選定された3つの造船所の1つであり、他の2つは、シーSPAN（23隻）、ケベック州デイビー造船所（8隻）である。アーヴィングは、このプログラムに基づき、23隻の新造船を確保している。

図表 68 アーヴィング・ハリファックスの大型NSS造船プロジェクト

プロジェクト	顧客	建造予定 船舶数	納入	プロジェクト予算
北極および沖合巡視船	カナダ沿岸警備隊	2	AOPS 7(CCGS ドニェク・グレイシャー) 2026 AOPS 8(CCGSセルミリック・グレイシャー) 2027	21億 カナダドル
北極および沖合巡視船	カナダ海軍	6	AOPS 1(HMCS ハリー・デウルフ) 2020 AOPS 2 (HMCS マーガレット・ブルック) 2021 AOPS 3 (HMCS マックスバーネイズ) 2022 AOPS 4 (HMCS ウィリアム ホール) 2023 AOPS 5 (HMCS フレデリック・ロレット) 2024 AOPS 6 (HMCS ハンプトングレイ) 2024	49.8億 カナダドル
リバー級駆逐艦	カナダ海軍	15	2030年代初頭	560-600億 カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

NSSプログラムにより、造船所はリバー級駆逐艦の建造を支援するために納入された27,000トンのオムニリフト・シップリフトを含む造船所のアップグレードに投資することができた。

NSSプログラムに加えて、アーヴィング・ハリファックスは2000年以降、20隻以上の商用タグボート、OSV、作業船を納入してきた。顧客には、グループ会社のアトランティック・トーイングや漁業海洋省などが含まれる。

ハリファックス造船所
3099 Barrington Street, PO Box 9110, Halifax, Nova Scotia, B3K 5M7
電話: +1-902-423-9271

4.5.6 リューネブルク造船所

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1800年代		√	小規模	民間

リューネブルクは、船舶の修理ドッキング（進水および牽引用の海洋トラベルリフトを使用）と船舶の保管を行う小規模な造船所である。

リューネブルク造船所
52 Burma Road
Lunenburg, Nova Scotia, B0J2C0
電話番号:+1-902-930-2155

4.5.7 オーシャンギア株式会社

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
~2000年		√	小規模	民間

オーシャンギアは、長さ73メートルまでの船舶の修理を請け負う小規模な修理工場である。

オーシャンギア株式会社
 160 Bluenose Drive Lunenburg, Nova Scotia Canada, B0J 2C0
 電話番号: +1-902-640-3030

4.5.8 ロズボローボート

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1955	√		小規模	ロズボロー家

ロズボローボートは、海軍、政府、商業用に6メートルから10メートル以上のGRP複合ボートを製造している。

ロズボローボート
 PO Box 70
 Lakeside (Halifax), Nova Scotia Canada
 B3T 1M6
 電話番号: +1-902-450-3262

4.5.9 サムソン・エンタープライズ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1986	√		小規模	民間

サムソン・エンタープライズは、最大 15 メートルのグラスファイバー製の船体を持つ漁船、商用ボート、プレジャーボートを製造している。

サムソン・エンタープライズ
 4330 Hwy 320
 Pondville, Nova Scotia B0E 1K0

4.5.10 シェルバーン・シップ・リペア

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1940年代		√	中程度	マージー・シーフード

シェルバーン・シップ・リペアは、1999年から2022年までアーヴィング造船所によって管理され、その後マージー・シーフードに売却された。アーヴィングの傘下では、造船所の設備が改修され、4,000トンの船舶の牽引施設が設けられた。この造船所は、パナマックスサイズまでの船舶を接触できる。この造船所は、海軍と沿岸警備隊の船舶、および商船の両方にサービスを提供している。

シェルバーン・シップ・リペア
 29 Hero Rd,
 Shelburne, Nova Scotia, B0T 1W0電話番号: +1-902-875-8100

4.6 オンタリオ州

4.6.1 アライド・マリン・アンド・インダストリアル

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1997		√	小規模	民間

アライド・マリン・アンド・インダストリアルは、エンジンや機器の修理を中心とした海上修理サービスを提供している。同社は造船所を運営していない。

アライド・マリン・アンド・インダストリアル
 1 Lake Road, Port Colborne, ON L3K 1A2
 電話:+1-905-834-8275

4.6.2 オンタリオ造船所

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1987	√	√	大規模	マッケイルマリン

以前はヘドル・マリン・サービスとして知られていたオンタリオ造船所は、1987年に設立され、五大湖とセントローレンス水路で航行する船舶をサポートする大手造船所である。

同社は、オンタリオ州でハミルトン造船所、ポートウェラー・ドライドック、サンダーベイ造船所の3つの造船所を運営しており、総面積は31万6,000平方メートルである。

- ポートウェラーには、セントローレンス水路の閘門を通過できるシーウェイマックス船（長さ225.5 m、幅23.8 m）の接岸に適した2つの大型グレービングドックがある。ドック1は長さ229 m×幅24 m、ドック2は長さ246 m×幅25 mである。
- ハミルトン造船所は、99m x 28m、76m x 21m、43m x 20mの浮きドックを含む複数の浮きドックを運営している。
- サンダーベイには、シーウェイマックスドック(228m x 30m)が1つある。

オンタリオ州以外では、同グループはシドポート（ノバスコシア州）の修理施設とマウントパール（ニューファンドランド・ラブラドル州）の海上修理施設を所有している。

同社は船舶および海洋資産を建造しており、カナダ船舶登録簿によると、自社使用の浮きドック2つ（長さ98メートルと73メートル）に加え、2004年に納入された少なくとも1隻のケーブルフェリーが含まれている。新造船はハミルトン造船所とポートウェラー・ドライドックで行われている。

オンタリオ造船所は、カナダ海軍のキングストン級艦艇の代替として、最大16隻のヴィジランス級沖合巡視船の建造を提案するチーム・ヴィジランス・コンソーシアムのパートナーである。このプロジェクトは現在、設計および入札段階にある。コンソーシアムの他のメンバーには、ヴァード・マリン、タレス、SDディフェンス、フィンカンティエリなどがいる。

オンタリオ造船所は2012年以降、カナダ沿岸警備隊向けに100件以上のドライドック入渠工事および改修プロジェクトを実施してきた。

NSSパートナーとして、オンタリオ造船所は船舶の耐用年数延長プロジェクトを完了した。

図表 69 オンタリオ造船所のNSS船舶耐用年数延長プロジェクト

船	種類	ホームベース	完了年	予算
CCGS ジョージ・R・ピークス	砕氷船	ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョン	2024	3,614万カナダドル
CCGS テリー・フォックス	大型多目的砕氷船	ニューファンドランド・ラブラドル州セントジョン	2025	1億3,550万カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

オンタリオ造船所 208 Hillyard Street Hamilton, Ontario, L8L 696	ポートウェラー・ドライドック 340 Lakeshore Rd, St. Catherines, Ontario, L2M 0A2	サンダーベイ造船所 401 Shipyard Road Thunder Bay, Ontario, P7A 7TB	シドポート施設 320 Marine Drive, Edwardsville, Nova Scotia, B2A 4S6	マウントパール 30 Dundee Av., Newfoundland & Labrador, A1N 4R7
---	--	---	---	--

4.6.3 ヘンリーボート・マニュファクチャリング

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
~1985年	√		小規模	民間

ヘンリーボートは、長さが最大 16.5 メートルのラップストレーク船体側面を持つアルミボートおよび上陸用舟艇を設計、製造している。

ヘンリーボート・マニュファクチャリング

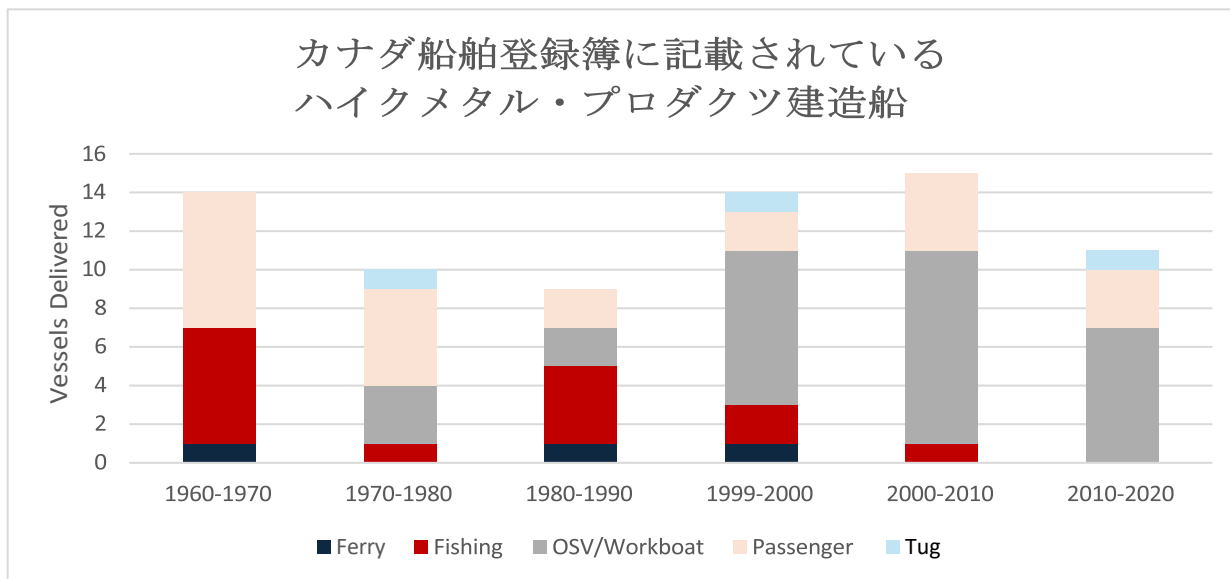
35 Meredith Street
Manitowaning, Ontario, Canada POP 1N0
電話番号: +1-705-859-3660

4.6.4 ハイクメタル・プロダクツ株式会社

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1958	√	√	中程度	民間

カナダ船舶登録簿には、ハイクメタル・プロダクツが建造した鋼製またはアルミニウム製の船体を持つカナダ登録船舶が約 75 隻記録されており、そのすべて総トン数が 500 トン未満である。

図表 70 ハイクメタル・プロダクツのカナダ登録船隊



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・レポート作成

ハイクメタル・プロダクツは、NSS小型船舶プログラム（排水量1,000トン未満の船舶）に基づき、カナダ沿岸警備隊向けに捜索救助用救命艇10隻を、1隻あたり約1,790万カナダドルで建造中である。ロバート・アラン設計の全長19メートルのアルミ製捜索救助用救命艇、CCGS ペナントベイとCCGS マッキンタイアベイの最初の納入は2017年に行われ、その後、CCGS セイクリッドベイ（2019年）、CCGS シェディアックベイとCCGS ラポワルベイ（2020年）、CCGS ガバルスベイとCCGS チェダブクトベイ（2022年）、CCGS バリントンベイ（2023年）、CCGS フロレンシアベイとCCGS グロスウォーター・ベイ（2024年）が引き渡しされた。

同造船所は現在、2026年以降の新造船の受注を受け付けている。

修理に関しては、商業漁業、政府機関（カナダ沿岸警備隊、警察、消防、捜索救助）、フェリー運航会社、海上輸送会社、海洋研究機関などを支援している。

ハイクメタル・プロダクツ

324 Milo Road,
Wheatley, Ontario, N0P 2P0 電話番号:+1-519-825-4691

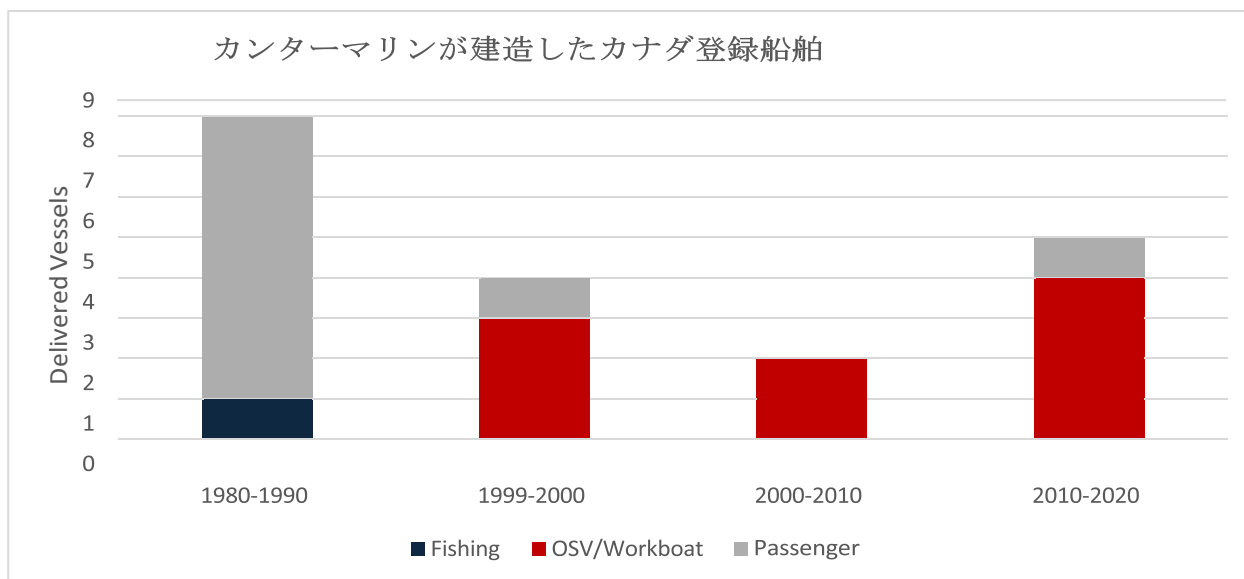
4.6.5 カンターマリン株式会社

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
?	√	√	小規模	民間

カンターマリンは、作業船、旅客船、漁船を含むヨットや商船の設計・建造を行っている。

カナダ船舶登録簿には、カンターマリンが建造した鋼製またはアルミニウム製のカナダ登録船舶が約20隻登録されており、いずれも総トン数500トン未満である。

図表 71 カンターマリンのカナダ登録船隊



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・レポート作成

カンターマリンは、NSSプログラムにおいて、小型船舶（排水量1,000トン未満）の建造を受注している。

図表 72 カンターマリンのNSS小型造船プロジェクト

プロジェクト	状況	顧客	造船所	建造予定船舶数
航路測量船・測深船	完了	カナダ沿岸警備隊	カンターマリン、オンタリオ州	2
沿岸調査船	完了	カナダ沿岸警備隊	カンターマリン、オンタリオ州	1
水路測量船	完了	カナダ沿岸警備隊	カンターマリン、オンタリオ州	7

出典: カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・レポート作成

カンターマリン

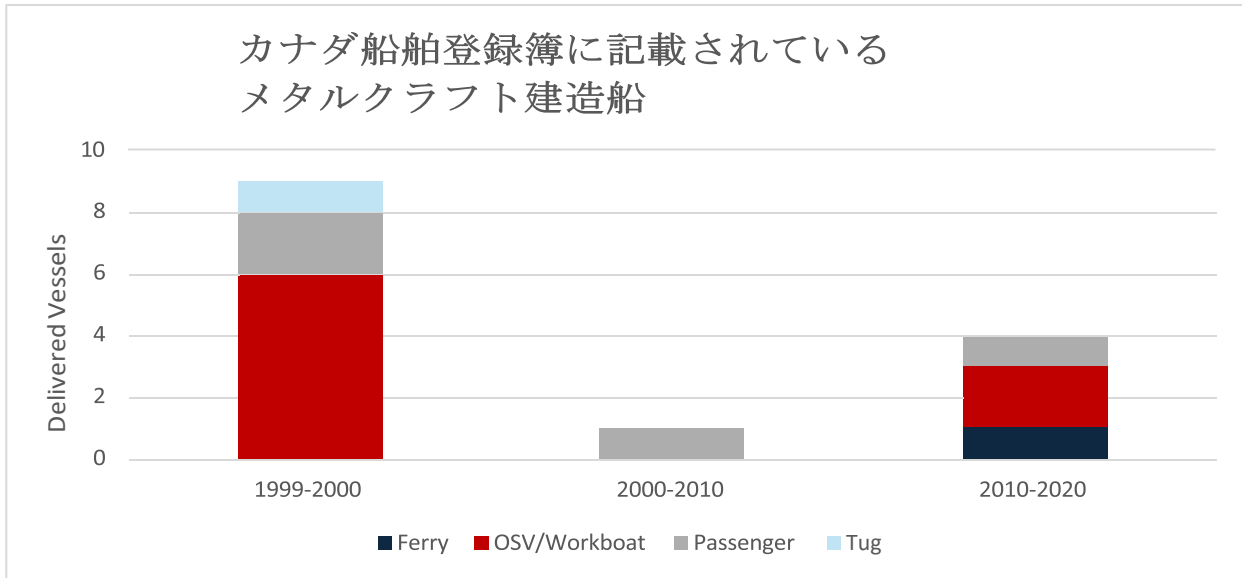
9 Barrie Boulevard
St. Thomas, Ontario, N5P 4B9
電話番号: +1-519-633-1058

4.6.6 メタルクラフト・マリン株式会社

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1952	√		小さい	米国メタルクラフト・マリンの子会社

カナダ船舶登録簿には、メタルクラフトが建造したカナダ籍アルミニウム船が約15隻記録されており、いずれも総トン数500トン未満である。受注の約半数は、漁業海洋省向けに建造された船舶である。バンクーバー市向けに消防艇2隻が建造され、2016年と2017年に納入された。メタルクラフト社が建造した旅客船は、観光業向けである。

図表 73 メタルクラフトのカナダ登録船隊



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

メタルクラフト・マリン 349 Wellington Street Kingston, Ontario
K7K 6N7
電話番号: +1-800-410-8464

4.7 プリンセドワード島

4.7.1 イーストアイル造船所

プリンセドワード島州政府は、かつてアーヴィング造船所が所有していたイーストアイル造船所を、アーヴィング造船所から買収した。この造船所は13年間も放置されていた。州政府は、この造船所の今後の活用方法を検討している。

4.8 ケベック州

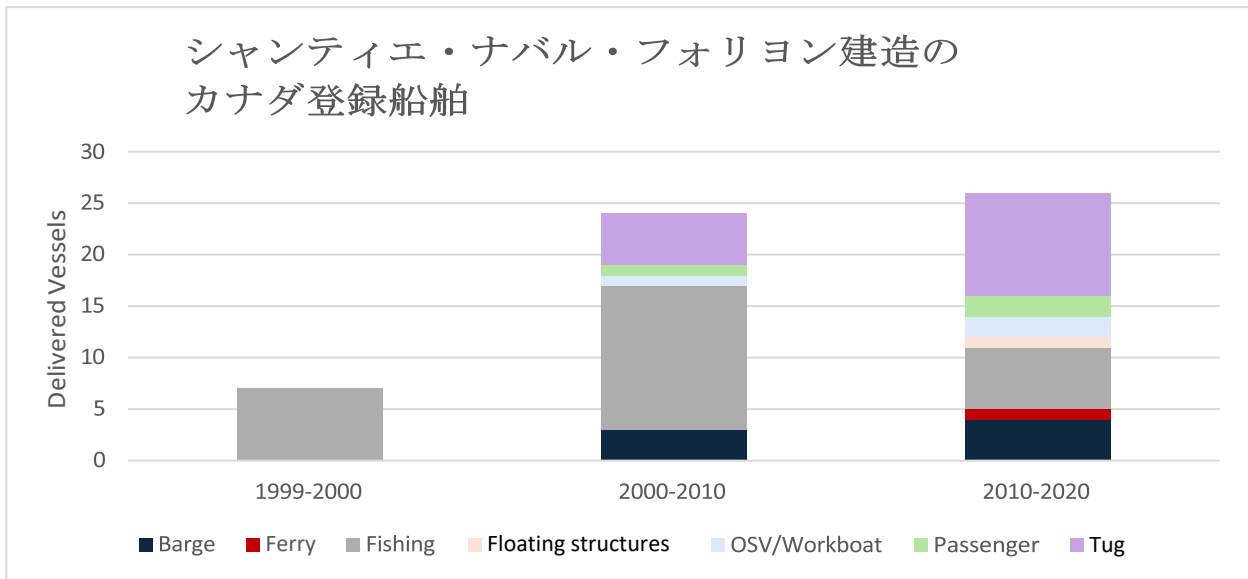
4.8.1 シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1987	√	√	中程度	非公開:主要株主のロバー・コテ(元コマーシャル・マネージャー)

シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所には2つの生産拠点がある。ガスベ造船所は、800トンのクランドル船台を備え、漁船、タグボート、バージ、フェリーの引揚げ・進水が可能である。そして、2024年にリヴィエール・オー・ルナールに稼働開始の2番目の造船所がある。

シャンティエ・ナバル・フォリヨンは造船会社であり、カナダ船舶登録簿には、同社が建造した主に鋼船のカナダ籍船舶が55隻以上登録されており、いずれも総トン数500トン未満である。

図表 74 シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所のカナダ登録船隊



出典: カナダ船舶登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

最近の建造実績としては、2024年にペシェリー・ミシェル・タービデ向けに納入されたの全長24メートルの鋼鉄・アルミ製漁船サン・マルコVIII（ヤンマー製エンジン搭載）がある。

シャンティエ・ナバル・フォリヨンは、NSSプログラムにおいて小型船舶の新造船プロジェクトを獲得している。ロバート・アラン設計の全長19メートルのアルミ製捜索救助用救命艇CCGSベイ・ド・プレザンスは、2017年に初めて引き渡しされた。その後、CCGSパチエナ・ベイ、CCGS コンセプション・ベイ（2019年）、CCGS カドボロ・ベイ（2020年）、CCGS ヘア・ベイ（2021年）、CCGS シグネクト・ベイ（2022年）、そしてベ・ド・シャルール（2024年）が引き渡しされた。これにより、引き渡し予定の船舶は3隻となる。

図表 75 シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所のNSS小型造船プロジェクト

プロジェクト	状況	顧客	建造船舶数
沿岸漁業調査船(ディーゼル電気ハイブリッド)	実施中(2027年納入)	カナダ沿岸警備隊	1
捜索救助艇	実施中(2017-2025年、それぞれ約1,790万カナダドル)	カナダ沿岸警備隊	10

出典: カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

4.8.2 デイビー造船所カナダ株式会社（シャンティエ・デイビー・カナダ）

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1825	√	√	大規模	イノシア

デイビー造船所は長い歴史を持ち、所有権の変更や再編を何度も経験してきた。最近では、2012年に英国のイノシアに売却された。イノシアによる買収によって、安定と成長の時代が到来した。同造船所は

砕氷船や複雑な船舶の設計と新造に重点を置いている。

イノシアによる買収以前の不安定な状況により、デイビーはNSSの最初の新造船プログラム（2011年）でバンクーバー造船所（シースパン）とハリファックス造船所（アーヴィング）に敗退し、受注を逃した。継続的な組織再編により、同社は2014年のNSS砕氷船プログラムにも選定されなかった。最終的にデイビーは2023年にNSSのパートナーに選出され、極地砕氷船とフェリーの建造を任された。

図表 76 デイビー造船所のNSS大型造船プロジェクト

プロジェクト	顧客	建造予定数	納入	プロジェクト予算
フェリー建造	カナダ運輸省	2	2028/2029	未定
砕氷船プログラム(PIB)	カナダ沿岸警備隊	6	未定	未定
ポーラマックス・ディーゼル電気極地砕氷船	カナダ沿岸警備隊	1	2030	32.5億カナダドル

出典:カナダ政府からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

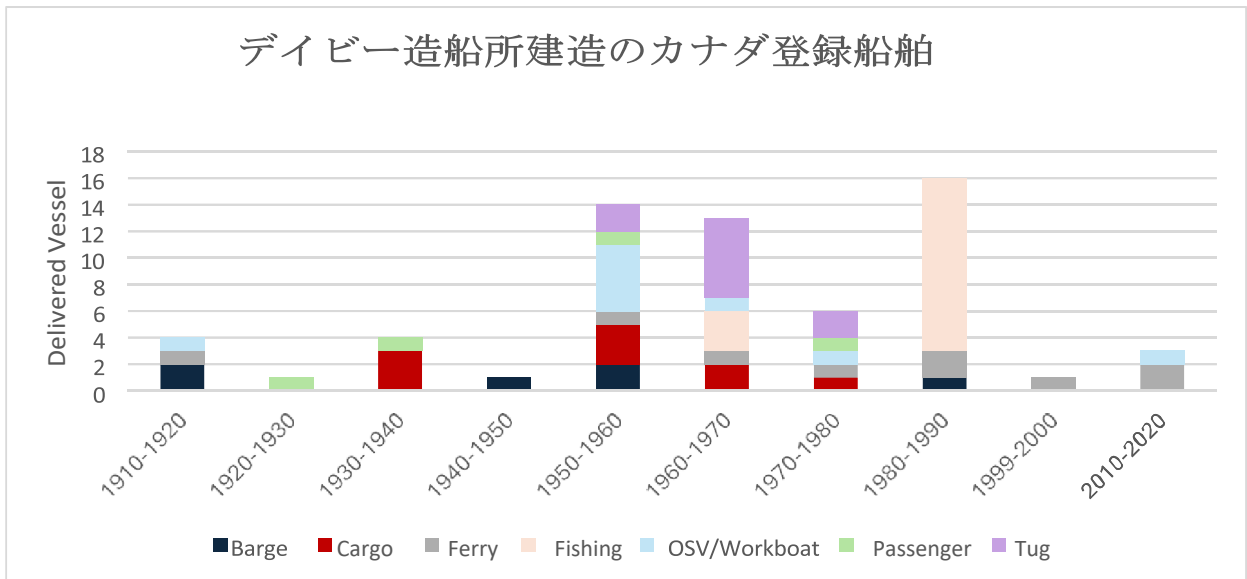
32億5000万カナダドルのポーラマックス・ディーゼル電気極地砕氷船は、2023年に買収したフィンランドのヘルシンキ造船所で建造される予定である。また、デイビーは、2024年に完成した極地砕氷船CCGS ルイ・サンローランの1,440万カナダドルの耐用年数延長も確保している。

デイビーは、2025年に発表されたイノシアによる米国テキサス州のガルフ・コッパー造船所の買収を通じて、砕氷船建造における役割と、米国海事行動計画およびShips for America法に沿った能力をさらに強化した。イノシアは、ガルフ・コッパー造船所の施設と能力に約10億米ドルを投資する意向を示している。

沿岸警備隊と海軍向けの業務に加え、同造船所は商業船の新造プロジェクトも請け負っている。現在、CTMA RoPax マドレーヌの代替船を建造中であり、この船の顧客はカナダ運輸省である。ジャン・ラピエールと命名されたこのディーゼル電気・バッテリー・ハイブリッド船は、2027年に引き渡し予定である。

会社によると、デイビーはこれまでに700隻以上の船舶を納入している。カナダ船舶登録簿には、デイビー造船が建造した、総トン数23,500トンまでの主に鋼船型のカナダ登録船舶が55隻以上記録されている。

図表 77 デイビー造船所のカナダ登録船隊



出典: カナダ海運登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

造船所の敷地面積は58万平方メートルで、5つの建造バースと5万3000平方メートルの屋根付き作業場がある。イノシアによる買収以来、この施設には10億カナダドル以上が投資されており、これには1万6000平方メートルの新しい最終組立棟や半潜水型進水バージの増設が含まれる。

同社はローン・ドック (182.95m × 18.89m) を、カナダ海軍の哨戒フリゲート艦の改修および耐用年数延長工事を行うための、すべてを備えた軍事レベルのセキュリティ施設に改造した。カナダ政府はまた、引き渡し後の長期サポート契約も締結しており、その期間は20年以上に及ぶ場合が多い。ハリファックス級フリゲート艦の初期契約として、5億カナダドルがデイビー造船所に授与された。この契約により、同造船所は最低3隻のフリゲート艦が保証される。2025年のプログラムでは、HMCS トロントがデイビー造船所に入渠する予定である。

デイビーには、シャンプレーン・ドライドック (全長351m × 全幅36.6m) もあり、194.5mと147mの2つのセクションに分割可能である。

デイビー造船所

22, rue George-D. Davie Lévis, Québec, Canada G6V 0K4

電話番号: +1-418-837-5841

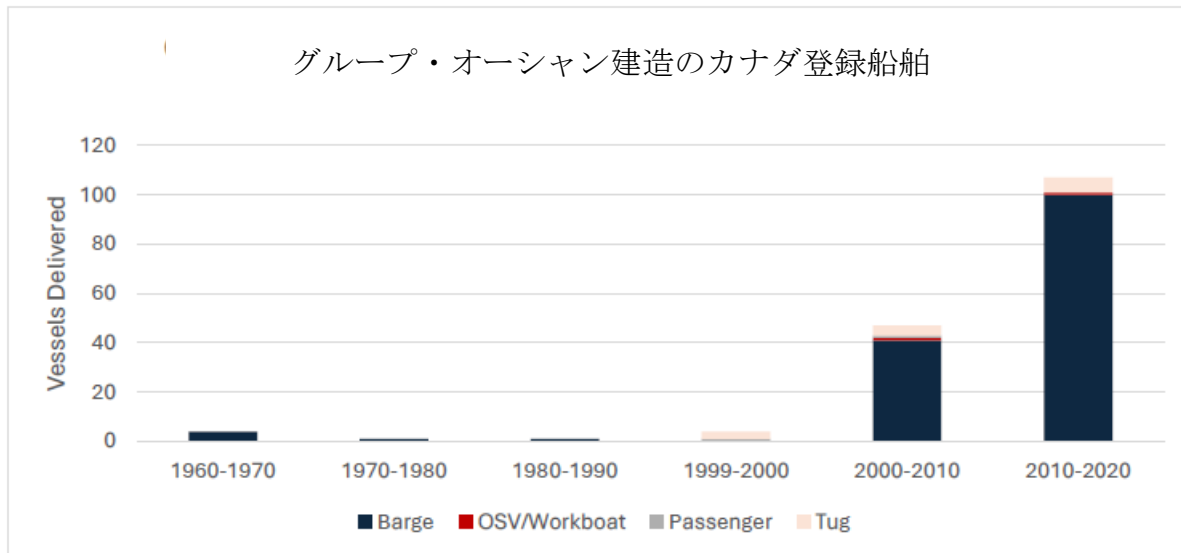
4.8.3 グループ・オーシャン

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
1825	√	√	中規模	イノシア

船主であるグループ・オーシャンは、ケベック州で、クードル島のシャルルボワ造船所、ケベック造船所、そしてヴェロー・レ・メシャン造船所の3つの新造船・修繕造船所を運営している。2022年に買収したヴェロー造船所には、長さ224メートル、幅56メートルのドライドックがある。このドックでは最近、フェドナの31,992トンのドライバルク船ウミアックが入渠した。

カナダ船舶登録簿には、グループ・オーシャンが建造した、総トン数約1,200トンまでの、主に鋼船型のカナダ籍船舶が165隻以上登録されている。カナダで登録されている新造船の約90%はバージである。

図表 78 グループ・オーシャン・カナダ登録船団



出典: カナダ海運登録簿からのデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポート作成

同社は、ケベックフェリー会社 (STQ)、リバリングroup、カナダ沿岸警備隊、カナダ海軍、フランス海軍、グループ・デガニエ、AML、SIMECを主要顧客として挙げている。

NSS小型船舶（排水量1,000トン未満）新造船プロジェクトにおいて、グループオーシャンは国防省向けに大型海軍タグボート4隻を受注した。2隻は2024年に、1隻は2025年に引き渡しされ、最後の1隻は2026年に引き渡し予定である。予算は1隻あたり約3,000万カナダドルである。

グループ・オーシャンは、ヴェローの買収を通じて、NSSプログラムの一環として、軽砕氷船CCGS マーサ・L・ブラックの耐用年数延長を2024年に3,160万カナダドルで完了した。また、高耐久性多目的船CCGS グリフオンのNSS耐用年数延長も4,400万カナダドルで確保しており、2026年に完了予定である。

グループ・オーシャン

105 Abraham-Martin St., # 500, Québec, G1K 8N1

電話番号: +1-418 694-1414

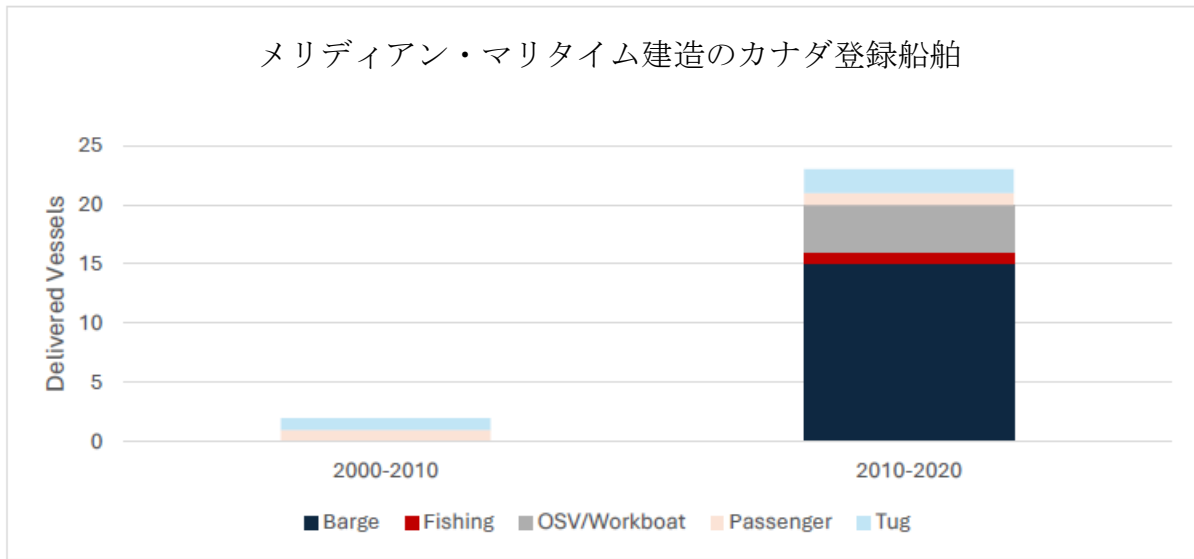
4.8.4 メリディアン・マリタイム・カナダ

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
2003	√	√	小規模	民間(アンジェロ・マルコット)

メリディアン・マリタイムの施設は、セントローレンス川に近いマタン港の工業地帯に位置している。

カナダ船舶登録簿には、メリディアン・マリタイムが建造した総トン数400トン未満の、主に鋼船型のカナダ籍船舶25隻が記録されている。カナダで登録されている新造船の約60%はバージである。新造船の顧客には、グループ・デガニエ、漁業海洋省、プロネックス・エクスカベーション、トラバース・オカ、ケベックフェリー会社 (STQ) などがある。

図表 79 メリディアン・マリタイム・カナダ登録船隊



出典: カナダ海運登録局のデータを基にマリタイム・アクティビティ・リポーツ作成

メリディアン・マリタイム
 1460, rue de Matane-sur-Mer Matane, Québec
 G4W 3M6
 電話番号: +1-418-562-0911

4.8.5 株式会社ナバマー

設立	造船	船舶修理	カテゴリ	所有権
2001	√	√	小さい	プライベート(ピエール・ボスクレアとコンスタンティン・パプクリストウ)

ナバマーは主に海上船舶の修理工場であるが、新造船（主にバージと作業船）の建造も一部手掛けている。モントリオール港に直接アクセスできる5,200平方メートルの造船所を所有している。自前のドックや船台施設は所有していない。

株式会社ナバマー
 10150, rue Notre-Dame Street East, Montréal, H1B 2T7
 電話番号: +1-514-989-0048

5. 業界団体

このセクションでは、造船および海洋産業に関連する8つの協会を紹介する。カナダ政府は他にも協会を特定している^{xxxvii}が、今回の調査は以下に紹介する8つの団体に焦点を当てている。

5.1 カナダ海洋産業造船協会(CMISA)

CMISA^{xxxviii}によれば、海事産業の協力を可能にし、カナダの造船および海洋機械部門における革新と成長を促進している。

現在の会員には、カナダ企業94社とカナダに事業所を持つ外国企業が含まれている。会員には、造船・修理業者（A. F. テリオール、カナディアン・マリタイム・エンジニアリング、デイビー造船所、シャンティエ・ナバル・フォリヨン造船所、シースパンなど）、エンジニア（BMT、コンセプト・ナバル、ロバート・アラン、ヴァードなど）、船級協会（ビューローベリタス、DNV、ロイズレジスター、RINA）、および一部の外国機器メーカー（コングスベルグ、シーメンス、バルチラなど）が含まれる。

カナダ海洋産業造船協会

497 Dobbie Rd

（管理目的のみ）

Lanark ON K0G 1K0

電話番号: +1-613-701-7048

5.2 カナダ旅客船協会

カナダには、州間および州内サービスを提供するフェリー運航会社が多数存在する。多くのフェリー運航会社は、州政府および準州政府機関によって所有されている。運航会社は通常、カナダ旅客船協会の会員である。33のフェリー運航会社とそれらを所有する州当局も、カナダ旅客船協会の会員である。当協会にはサプライヤー（カナダとカナダ国外の両方）も会員として名を連ねている。

カナダ旅客船協会

78 George Street, Suite 204 Ottawa, Ontario

K1N 5W1

電話番号: +1-613-686-3838

5.3 ブリティッシュコロンビア州海洋産業協会(ABCMI)

ABCMIは、西海岸造船・修理フォーラムから発展した、ブリティッシュコロンビア州の海洋産業部門とそのサプライチェーンを代表する協会である。

ブリティッシュコロンビア州海洋産業協会 201-2527 Beacon Avenue Sidney BC V8L 1Y1

電話: +1-778-430-2264

5.4 カナダ海運連盟

1903年の議会法により設立されたカナダ海運連盟は、カナダの輸出入貨物を輸送する外航船の60を超える国内外の船主、運航者、代理店を代表している。さらに、港湾当局や港湾曳航会社など、40以上の準会員組織がある。

カナダ海運連盟 1080 Côte du Beaver Hall, Suite 1717 Montreal, Quebec H2Z 1S8
Eメール: info@shipfed.ca

5.5 海洋商工会議所

この協会は1959年に設立され、五大湖、セントローレンス水路、沿岸地域および北極地域の海洋関係者の支援を目的としたカナダと米国の二国間民間非営利団体である。

カナダの船主会員には、アルゴマ、グループ・デガニエ、CSL、マッキール、CSLグループが含まれる。オンタリオ造船所は海洋商工会議所の会員である。

海洋商工会議所
300 Sparks Street Place de Ville
Podium Building, Suite 340 Ottawa, Ontario, K1R 7S3
電話: +1-613 233-8779

5.6 セントローレンス経済開発評議会(SODES)

SODESはケベック州を拠点とする非営利団体で、セントローレンス水路沿いの「海洋生態系」の活動を代表する任務を負っている。SODESの主要機能の一つは、ケベック州における造船業の最適化を促進することである。

この団体には、アルゴマ、カナダ蒸気船ライン、カナダ森林ナビゲーショングループ (Canfornav)、ケベックフェリークルーズ、AMLクルーズ、セントローレンスクルーズ、フェドナブ、グループ・デガニエ、デイビー、そして様々な州の船主協会を含む94の会員がいる。

セントローレンス経済開発評議会

271, rue de l'Estuaire Québec, G1K 8S8
電話: +1-418 648-4572

5.7 カナダ船主協会

1977年に設立されたカナダ船主協会は、カナダ船籍を掲げ、五大湖・セントローレンス水路、カナダ東海岸、北極圏、米国東海岸で航行する船舶の船主を代表するために設立された、公認のロビー団体であるが、現在は活動を停止している。現在、積極的な会員活動の実態を示す情報は見当たらない。

カナダ船主協会
50 Sparks Street
Suite 705
Ottawa, Ontario, K1R 7S8
電話番号: +1-613-232-3539

5.8 カナダ国際船主同盟(ISAC)

2004年に設立されたISACは、認知されているものの現在は活動していないロビー団体の一つで、「ばら積み貨物船、コンテナ船、タンカー、ガス運搬船・プロダクト船・化学品輸送船、タグボート、旅客フェリーを所有・運航する船舶所有会社」が会員となっていると言われている。現在、積極的な会員活動の実態を示す証拠はない。

カナダ国際船主同盟
23階 オセアニックプラザ
1066 W Hastings St, バンクーバー, ブリティッシュコロンビア州, V6E 2J3電話番号: 604-428-8667

6. 砕氷船建造をめぐる動向

6.1 カナダにおける砕氷船建造事情

カナダでは、カナダ沿岸警備隊（CCG）を通じて、世界最大規模の政府所有砕氷船隊を運用している。老朽化した船舶と北極海航路へのアクセス需要の高まりを受け、カナダは数十年来で最も大規模な砕氷船隊の近代化に着手している。この近代化は、国家造船戦略（NSS）ⁱを中心として進められている。

国家造船戦略（NSS）は、カナダ沿岸警備隊とカナダ海軍の艦隊を刷新することを目的とした、数十億カナダドル規模の長期プログラムである。この戦略は、カナダの海洋機関が必要とする最新鋭の船舶を確保し、任務遂行能力を高めると同時に、カナダの造船産業を活性化させ、中間層の雇用を創出し、カナダ全土に経済的利益を最大限にもたらすことを目指している。

カナダの砕氷船建造能力において中心的な役割を担うのは、以下の3つの造船所である。

- ・ シースパン・バンクーバー造船所（ブリティッシュコロンビア州バンクーバー）
- ・ デイビー造船カナダ株式会社（ケベック州レヴィ）
- ・ ヘルシンキ造船所（フィンランド）

デイビー造船が2023年に買収。所有権、設計、船体・砕氷技術の専門知識を通じてデイビー造船を支援している。

6.2 造船所の砕氷船建造能力拡大に向けた動き

シースパン造船所、デイビー造船ともに、砕氷船建造能力拡大に向けて、提携や買収を活発に行っている。

6.2.1 シースパン造船所

2020年6月9日に、カナダのシースパン造船所は、ヘドル造船所（2024年よりオンタリオ造船所に社名変更）と、カナダ沿岸警備隊の極地砕氷船建造契約受注に向けて提携することを発表した。シースパン造船所が極地砕氷船の建造を受注した場合、ヘドル造船所がオンタリオ州で運営する3つの造船所でモジュールを製作することで合意している。

2025年3月7日、シースパン造船所は、カナダ沿岸警備隊（CCG）の新型大型砕氷船の建造契約を受注したⁱⁱ。この船は、60年以上ぶりにカナダ国内で建造される砕氷船で、NSSに基づきシースパンが設計・建造する7隻目の船となり、カナダ沿岸警備隊向けに建造される極地砕氷船としては5隻目となり、シースパンが建造中の最大21隻の砕氷船のうちの1隻となる。

2025年7月15日、シースパン造船所は、カナダの造船業の強化と拡大に重点を置いた国内鉄鋼サプライチェーンの再構築を目的とした戦略的提携を検討するため、カナダの鉄鋼関連企業2社（スティグタースタール・カナダおよびアルゴマ・スチール）と覚書を締結したⁱⁱⁱ。この覚書は、アルゴマ・スチールがスティグタースタールを商業および物流上の下請けとして、シースパンに船級鋼および非船級鋼を供給することの実現可能性を評価するための枠組みを提供する。さらに、3社は、シースパンの砕氷船建造に必要な技術的、商業的、物流的要件を評価するための協議を行う。

2025年7月29日、米国のボリンジャー造船所、フィンランドのラウマ造船所、カナダのシースパン造船所、および、フィンランドの砕氷船設計大手であるアーカー・アーケティックは、米国沿岸警備隊

(USCG) 向け北極域警備巡視船 (ASC) 早期納入に向けた戦略的パートナーシップを締結したと発表した。本パートナーシップは、ASCを、最も低リスクかつ最速で納入できるソリューションを提供することを目的としている。ボリンジャー造船所は2025年10月8日に、ラウマ造船所、シーSPAN造船所、および、アーカー・アークティックと提携し、6隻のUSCG向けASCの設計・建造を受注した。なお、シーSPANとアーカー・アークティックが極地環境における同盟国の任務のために開発した、成熟度が高く生産準備が整った多目的砕氷船 (MPI) の設計を活用する^{iv}が、シーSPAN造船所で当該ASCを建造する予定はない。

2025年10月1日、シーSPAN造船所は船舶設計を行うカナダのジェノア・デザイン・インターナショナルと、カナダ沿岸警備隊の新型大型極地砕氷船の設計に関する業務契約を締結した^v。本契約に基づき、ジェノアは設計を行い、シーSPAN造船所のバンクーバー造船所で既に開始されている船舶の建造段階にも適用される。さらにジェノアは、カナダ国内では60年以上ぶりとなる大型砕氷船の建造に不可欠な技術的な指導や助言を提供する。

2026年1月7日、シーSPAN造船所は、ボリンジャー造船所およびラウマ造船所と、多目的砕氷船 (MPI) 設計および関連サプライチェーンパッケージを提供する契約を締結した^{vi}。シーSPAN造船所のMPI設計は、フィンランドのアーカー・アークティックとの提携してカナダの国家造船戦略 (NSS) の下で開発され、すでに生産準備が整っている。したがって、この確立された設計と既存のサプライチェーンを活用することで、ラウマ造船所とボリンジャー造船所はUSCG向けASCの建造に迅速に着手できるとしている。

図表 80 カナダ沿岸警備隊の大型極地砕氷船



出典: ジェノア

6.2.2 デイビー造船

2020年11月30日、デイビー造船は、カナダ沿岸警備隊向け極地砕氷船建造プログラムで、カナダの船舶設計会社バード・マリン (フィンカンティエリ・グループの傘下) およびセルコ・カナダ・マリンと提携したことを発表した^{vii}。

2023年11月3日、デイビー造船は、フィンランドのヘルシンキ造船所の資産買収を完了したと発表した^{vii}。カナダ政府は、今回の買収によって国家造船戦略に基づく砕氷船建造において相乗効果が生まれる可能性があるとして好意的に評価した。

2024年7月29日、デイビー造船は米国の造船事業に参入する意向を発表した^{ix}。

2025年3月8日、デイビー造船はカナダ政府から極地砕氷船の建造契約を受注したことを発表した^x。ポーラーマックスと呼ばれる大型砕氷船の設計を基に、2030年までの引渡しを予定している。

2025年7月8日、デイビー造船は、フィンランド・ポリ市の鉄鋼業および製造業を専門とするエナセンス・オフショア（エナセンス・マリン・アンド・オフショア・ユニット）を買収したことを発表した。ポーラーマックスの鋼材生産はフィンランドの旧エナセンス・オフショアで可能な限り早く開始され、ヘルシンキ造船所での建造作業は2025年8月に開始された^{xi}。

2025年9月10日、国際的な海事、防衛産業グループであり、デイビー造船の親会社である英国イノシアが米国に新たに設立したデイビー・ディフェンスは、米国内における砕氷船等の建造に向け、テキサス州ガルベストンのガルフ・コッパー造船所を10億ドルかけて改修する計画「アメリカン・アイスブレイカー・ファクトリー」を発表した^{xii}。これは、船舶修理、海洋サービスを行うガルフ・コッパー・アンド・マニュファクチャリングからテキサス州ガルベストンとポートアーサーの造船資産を買収する意向であることを2025年6月11日に発表したことと関連する。本計画では、北極域警備巡視船（ASC）のような米国沿岸警備隊の新造船を建造するための専用施設を建設する予定である。

図表 81 アメリカン・アイスブレイカー・ファクトリー



出典:デイビー・ディフェンス

2025年12月2日、デイビー・ディフェンスは、ガルフ・コッパー・アンド・マニュファクチャリングのテキサス州ガルベストーンとポートアーサーの造船資産に関し、米国政府の承認を得て、買収手続きを完了したと発表した^{xiii}。デイビー・ディフェンスは、米国沿岸警備隊と協力して、米国における北極域警備巡視船（ASC）プロジェクトをどのように進めるのかを検討していくとしている。デイビー・ディフェンスは現在、5隻のASCの引き渡しについて交渉中である。同社のASCは、フィンランドのヘルシンキ造船所が開発した、実績ある第4世代極地砕氷船設計に基づいており、その主な特徴として、既に就航している7隻の運用実績があること、85回以上の北極圏での冬期航海実績があること、そして契約締結からわずか26ヶ月で最初のASCを納入可能であることが挙げられている。

6.3 他国との砕氷船建造に向けた協力枠組み

2024年7月11日、米国、カナダ、フィンランドの首脳は、極地砕氷船に関する三カ国による共同イニシアチブである砕氷船協力協定（ICE Pact）を発表した^{xiv}。これは、各国の造船産業基盤を強化し、極地砕氷船やその他の北極および極地能力のある船舶の建造に焦点を当てた情報交換と相互の労働力開発を通じて、各国間の安全保障と経済の結びつきを強化することを目的としている。2024年11月13日、ICE Pact参加三カ国の政府関係者は、ICE Pact実施のための覚書（MOU）に署名した。ICE Pactは、1) 米国、カナダ、フィンランド間の情報交換の強化、2) 人材育成における協力、3) 同盟国およびパートナー国との連携、4) 研究開発、という4つの要素で構成されている。

2025年11月19日、三カ国の閣僚は、各国の国内造船業の活性化と砕氷船隊の増強に向けた取り組みを強化することを確認し、ICE Pactに基づく連携成果を歓迎するとともに、2026年までICE Pactを継続するための共同声明に署名した^{xv}。

6.4 米国沿岸警備隊向けに極地砕氷船を建造する可能性

米国は、極地砕氷船の設計・建造経験を持つ海外の造船所で極地砕氷船（PSC）や北極域警備巡視船（ASC）を建造する可能性を模索している^{xvi}。カナダとフィンランドの造船所は、米国沿岸警備隊向けに極地砕氷船を建造すること（あるいは、米国の造船所で建造される沿岸警備隊向け砕氷船の設計または建造を支援すること）に関心を示していると報じられている。沿岸警備隊が望む8隻または9隻の極地砕氷船の一部を、極地砕氷船の設計・建造経験を持つ海外の造船所で建造することで、より早く、より低コストで、技術的なリスクを抑えて配備できると考えている識者もいる。海外の造船所でPSCやASCを建造すること（あるいは、海外の造船所の支援を受けて米国の造船所で建造すること）は、前述の三国間砕氷船協力協定（ICE Pact）の下で行われる可能性がある。米国の法律では、米軍艦艇またはその主要部品を海外の造船所で建造することは禁止されているが、これらの法律には国家安全保障上の利益のために、大統領による免除または例外規定も含まれている。

米国沿岸警備隊は、2025年4月11日に、ASCに関する情報提供依頼書（RFI）を公表し、その中で、沿岸警備隊が「実績のある建造戦略と、契約締結後36か月以内に砕氷能力を有する船舶の建造および進水を支援できる世界の造船所の能力に関心がある」と述べた。

米国では2025年10月8日にトランプ大統領が「北極域警備巡視船（ASC）の建造」という大統領覚書に署名し^{xvii}、2025年10月9日、米国とフィンランド両国は北極圏における国家安全保障の強化を目的として、米国沿岸警備隊向けに最大11隻の砕氷船を調達することで合意した^{xviii}。本合意では、まず4隻のASCをフィンランドの造船所で建造し、その後、フィンランドの専門技術を活用して米国内で最大7隻のASCを建造する計画が示されている。

米国沿岸警備隊（USCG）は2025年12月29日、最大6隻の北極域警備巡視船（ASC）の建造に関する2件の契約を、フィンランドのラウマ造船所および米国ボリンジャー造船所と締結したことを発表した。ラウマ造船所との契約には、フィンランドで最大2隻のASCを建造することが含まれており、最初の船舶は2028年に引き渡しされる予定である。ボリンジャー造船所との契約には、米国で最大4隻のASCを建造することが含まれており、米国内で建造される初のASCは2029年に引き渡しされる予定である。

7. 参考文献

- ⁱ 五大湖・セントローレンス水路: [Facts & Figures - Great Lakes St. Lawrence Seaway System](#)
- ⁱⁱ セントローレンスのトン数: [Tonnage - Great Lakes St. Lawrence Seaway System](#)
- ⁱⁱⁱ セントローレンス水路の商品: [Great Lakes-St. Lawrence River Shipping - Chamber of Marine Commerce](#)
- ^{iv} 五大湖・セントローレンス水路の運用実績: <https://catalog.data.gov/dataset/great-lakes-st-lawrence-seaway-performance>
- ^v 北極圏研究所: <https://www.thearcticinstitute.org/future-northern-sea-route-golden-waterway-niche/>
- ^{vi} アーカー・アークティック: <https://akerarctic.fi/news/international-voyages-on-the-northwest-passage-in-2024/>
- ^{vii} CUSMA: <https://www.reuters.com/legal/legalindustry/what-do-trump-tariffs-mean-united-states-mexico-canada-agreement-2025-05-22/>
- ^{viii} カナダ大型船舶登録簿: https://open.canada.ca/data/en/dataset/bf00b7f4-e370-46b7-94e4-0bdedc98531b/resource/0b5a739d-b01e-43df-8757-7fc1453baec5?view_id=02d572ba-b9ed-4935-ba78-b78dc2491976 https://open.canada.ca/data/en/dataset/bf00b7f4-e370-46b7-94e4-0bdedc98531b/resource/0b5a739d-b01e-43df-8757-7fc1453baec5?view_id=02d572ba-b9ed-4935-ba78-b78dc2491976 https://open.canada.ca/data/en/dataset/bf00b7f4-e370-46b7-94e4-0bdedc98531b/resource/0b5a739d-b01e-43df-8757-7fc1453baec5?view_id=02d572ba-b9ed-4935-ba78-b78dc2491976
- ^{ix} カナダ海事規制: <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/marine-safety/marine-regulations>
- ^x 国家造船戦略: <https://www.canada.ca/en/public-services-procurement/services/acquisitions/defence-marine/national-shipbuilding-strategy/about.html#pillar3>
- ^{xi} 主要な交通量と統計: <https://tc.canada.ca/en/corporate-services/transparency/corporate-management-reporting/transportation-canada-annual-reports/transportation-canada-2023/marine-network>
<https://tc.canada.ca/en/corporate-services/transparency/corporate-management-reporting/transportation-canada-annual-reports/transportation-canada-2023/marine-network>
- ^{xii} カナダ港湾局: <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/ports-harbours-anchorage/list-canada-port-authorities> <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/ports-harbours-anchorage/list-canada-port-authorities>
- ^{xiii} カナダ運輸省が所有する港湾: <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/ports-harbours-anchorage/list-ports-owned-transport-canada> <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/ports-harbours-anchorage/list-ports-owned-transport-canada>
- ^{xiv} カナダ港湾局: <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/ports-harbours-anchorage/list-canada-port-authorities>
- ^{xv} カナダ運輸省の公共港湾: <https://tc.canada.ca/en/marine-transportation/ports-harbours-anchorage/list-ports-owned-transport-canada>

- ^{xvi} カナダフェリー協会: <https://canadianferry.ca/about-cfa/>
- ^{xvii} フェリーサービス貢献プログラム: <https://tc.canada.ca/en/programs/ferry-services-contribution-program>
- ^{xviii} 世界の砕氷船の概要: <https://akerarctic.fi/arctic-passion/world-icebreakers-overview/>
- ^{xix} カナダ沿岸警備隊砕氷船隊: <https://www.ccg-gcc.gc.ca/icebreaking-deglacage/fleet-flotte-eng.html>
- ^{xx} カナダ政府、フィンランド共和国政府、アメリカ合衆国政府間の北極・極地砕氷船等の生産に関する三 国 間 枠 組 み に 関 す る 覚 書 : <https://www.canada.ca/en/public-services-procurement/services/acquisitions/defence-marine/icebreaker-collaboration-effort-pact/memorandum-understanding.html>
- ^{xxi} カナダの漁業: <https://www.dfo-mpo.gc.ca/stats/publications/fast-facts-info-éclair/2023/index-eng.html>
- ^{xxii} カナダ太平洋地域の 2040 年までの船舶輸送量予測、クリアシーズ、2025 年 5 月: [Clear Seas Vessel traffic forecast to 2040 Pacific region EN 27.pdf](https://clearseas.org/wp-content/uploads/Clear-Seas_Vessel_traffic_forecast_to_2040_Pacific_region_EN_27.pdf) https://clearseas.org/wp-content/uploads/Clear-Seas_Vessel_traffic_forecast_to_2040_Pacific_region_EN_27.pdf
- ^{xxiii} グリーン海運回廊プログラム－クリーン船舶実証プロジェクト: <https://www.canada.ca/en/transport-canada/news/2024/07/green-shipping-corridor-program---clean-vessel-demonstration-grant-funding.html>
<https://www.canada.ca/en/transport-canada/news/2024/07/green-shipping-corridor-program---clean-vessel-demonstration-grant-funding.html>
- ^{xxiv} エバーウィンド・フューエルズ: https://everwindfuels.com/projects/point_tupper
- ^{xxv} 地方における海洋エネルギー転換: [CTRF-2023-Marine-Transportation-Industry.pdf](https://www.ctrf.ca/2023/07/20/CTRF-2023-Marine-Transportation-Industry.pdf)
- ^{xxvi} クリーンBC: https://www2.gov.bc.ca/assets/gov/environment/climate-change/action/cleanbc/cleanbc_2018-bc-climate-strategy.pdf https://www2.gov.bc.ca/assets/gov/environment/climate-change/action/cleanbc/cleanbc_roadmap_2030.pdf
- ^{xxvii} BCの海洋エネルギーと脱炭素化ハブ: <https://canadacoast.ca/news/67/coast-and-the-university-of-victoria-join-forces-to-launch-the-bc-marine-energy-and-decarbonization-hub-delivering-a-coup-for-canadian-clean-energy> <https://canadacoast.ca/news/67/coast-and-the-university-of-victoria-join-forces-to-launch-the-bc-marine-energy-and-decarbonization-hub-delivering-a-coup-for-canadian-clean-energy/>
- ^{xxviii} ノバスコシア州の海洋電化の機会: https://coveocean.com/wp-content/uploads/2023/06/COVE_Marine-Electrification-Study-2022.pdf
- ^{xxix} オンタリオ州海上輸送戦略: <https://www.ontario.ca/page/marine-transportation-strategy>
- ^{xxx} ケベック州海上輸送介入枠組み: <https://www.transports.gouv.qc.ca/en/Documents/maritime-intervention-framework.pdf>
- ^{xxxi} BCフェリー: <https://www.bcferreries.com/our-company>
- ^{xxxii} カナダ森林ナビゲーショングループ (canfornav) の船隊: <https://www.canfornav.com/fleet/>
- ^{xxxiii} CSL船隊: <https://cslships.com/global-fleet/>
- ^{xxxiv} STQ: <https://www.cruiseandferry.net/articles/why-soci233t233-des-traversiers-du-qu233bec-is-going-electric>

xxxv フェリーサービス貢献プログラム: <https://tc.canada.ca/en/programs/ferry-services-contribution-program>

xxxvi カナダの造船所: <https://ised-isde.canada.ca/site/shipbuilding-industrial-marine/en/company-directories>

xxxvii 造船および産業海洋部門に関連する協会: <https://ised-isde.canada.ca/site/shipbuilding-industrial-marine/en/company-directories>

xxxviii カナダ海洋産業造船協会: <https://www.cmisa.ca/cpages/home>

xxxix カナダ旅客船協会: <https://canadianferry.ca/about-cfa/>

ⁱ 国家造船戦略(NSS) <https://www.canada.ca/en/public-services-procurement/services/acquisitions/defence-marine/national-shipbuilding-strategy/about.html>

ⁱⁱ <https://www.seaspan.com/press-release/seaspan-to-build-made-in-canada-heavy-polar-icebreaker/>

ⁱⁱⁱ <https://www.seaspan.com/press-release/seaspan-signs-mou-with-ontario-based-stigterstaal-canada-algoma-steel/>

^{iv} <https://www.seaspan.com/press-release/white-house-selects-seaspan-design-for-six-u-s-coast-guard-arctic-security-cutters/>

^v <https://www.seaspan.com/press-release/seaspan-geoa-sign-contract-for-technical-design-services-on-heavy-polar-icebreaker/>

^{vi} <https://www.seaspan.com/press-release/seaspan-inks-deal-with-bollinger-rauma-for-u-s-coast-guard-asc-program/>

^{vii} <https://www.davie.ca/en/news/davie-polar-icebreaker-program-confirms-design-and-engineering-partners/>

^{viii} <https://www.davie.ca/en/news/davie-completes-purchase-of-the-assets-of-helsinki-shipyard/>

^{ix} <https://www.davie.ca/en/news/2024-07-29-davie-us-presence-en/>

^x <https://www.davie.ca/en/news/2025-03-08-pm-announcement-en/>

^{xi} <https://www.davie.ca/en/news/polar-max-steel-cutting-launches-construction-phase-for-canada-s-flagship-polar-max-icebreaker/>

^{xii} <https://www.daviedefense.com/>

^{xiii} <https://www.davie.ca/en/news/davie-defense-closes-gulf-copper-acquisition-confirming-u-s-shipbuilding-expansion/>

^{xiv} <https://www.congress.gov/crs-product/RL34391>

^{xv} <https://www.dhs.gov/news/2025/11/19/dhs-hosts-icebreaker-collaboration-effort-pact-ministerial-meeting-advance-arctic>

^{xvi} <https://www.congress.gov/crs-product/RL34391>

^{xvii} <https://www.whitehouse.gov/presidential-actions/2025/10/construction-of-arctic-security-cutters/>

^{xviii} <https://www.dhs.gov/news/2025/10/10/dhs-celebrates-purchase-new-coast-guard-icebreakers-president-trump-signs-deal>

この報告書はボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。

カナダ海事産業調査

2026年（令和8年）3月発行

発行 一般社団法人 日本船用工業会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-13-3
虎ノ門東洋共同ビル 5階
TEL 03-3502-2041 FAX 03-3591-2206

一般財団法人 日本船舶技術研究協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-9
大阪ガス都市開発赤坂ビル
TEL 03-5575-6426 FAX 03-5114-8941

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。